

安曇野市の埋蔵文化財第17集



平成29年度
安曇野市埋蔵文化財調査報告書

2019. 3

安曇野市教育委員会

安曇野市の埋蔵文化財第17集



平成29年度
安曇野市埋蔵文化財調査報告書

2019. 3

安曇野市教育委員会

表紙写真 矢原五輪畑遺跡試掘調査出土須恵器

裏表紙写真 矢原五輪畑遺跡試掘調査区鳥瞰（西から）

序

安曇野市教育委員会では、埋蔵文化財の発掘調査等を通じて、地域の歴史資料の蓄積及び調査結果の公開普及に努めています。埋蔵文化財は、安曇野市の歴史を理解するために、かけがえのない市民共有の財産です。

本書では、平成29年度に実施した埋蔵文化財保護事業の成果をまとめました。市内の発掘調査等は全202件であり、そのうち小規模な発掘調査を行った追堀遺跡、小瀬幅遺跡、海渡遺跡及び新林遺跡を掲載しました。併せて、試掘調査と重要な発見のあった工事立会を報告しています。

特に、小瀬幅遺跡第1次発掘調査では、弥生時代と古代の多くの遺物を発見しました。これまで、小瀬幅遺跡についての発掘調査等の報告は無く、遺構、遺物の詳細な記録はありませんでしたので、本書で初めて報告することができました。また、矢原五輪畑遺跡の試掘調査では、14㎡という狭小な調査範囲でありながら、カマドを伴う建物跡を確認し、多数の奈良時代の遺物が得られました。こうした調査によって、安曇野の歴史がまたひとつ明らかになったといえます。

末筆となりますが、本書をまとめるにあたり、多くの皆様、諸機関にご協力とご指導を賜りました。この場をかりて、厚く御礼申し上げます。本書掲載の調査成果が多くの市民に活用され、広く安曇野の歴史・文化の解明に役立つことを祈念し、序とさせていただきます。

平成31年（2019）3月

安曇野市教育委員会
教育長 橋渡 勝也

例言

- 1 本書は、^{ながのけんあづみのし}長野県安曇野市で平成29年度に実施された埋蔵文化財保護事業の報告書である。
- 2 本書の編集は、安曇野市教育委員会教育部文化課文化財保護係が行った。執筆は横山幸子が担当し、山下泰永が統括した。また、現場及び整理作業と、本書の編集作業参加者は以下のとおりである。
(五十音順)
現場作業 大澤慶哲、勝野辰雄、田多井智恵、土屋和章、松田洋輔、宮下智美
整理・編集作業 佐藤眞弓、白鳥章、田多井智恵、土屋和章、細尾みよ子、宮下智美
- 3 本書で使用した主な引用・参考文献は、巻末に一括して掲載した。
- 4 本書掲載の調査に関する出土遺物及び事務書類、記録類は安曇野市教育委員会が保管している。
- 5 調査全般にわたり、以下の方々から、ご指導・ご協力をいただいた。(敬称略・五十音順)
大澤慶哲、白鳥章、原明芳、山田真一

凡例

- 1 土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 2 本書では、平成17年10月1日の町村合併より前の旧郡名・旧町村名について「旧」を省略し、「南安曇郡」、「穂高町」のように表記した。
- 3 文献引用等に際し、各機関の名称を以下のように省略した。
埋蔵文化財センター：埋文センター 教育委員会：教委 編纂委員会：編纂委
- 4 土器の記載では、器形について「形土器」の表記を省略した。
- 5 遺物の法量の表示で、残存箇所のみを計測した場合は括弧で示した。
- 6 石器石材等の記載では、慣例に従い「黒曜岩」を「黒曜石」と表記した。
- 7 本書実測図で遺物は次のように表現した。また、縮尺は各図に示した。
縄文土器、弥生土器、土師器、瓦：断面無地 須恵器：断面黒色塗りつぶし
- 8 本書掲載の地形図は、特段の記載のない場合、安曇野市都市計画基本図（1/2,500）を基図とし、調製したものである。

目次

序

例言・凡例

目次・挿図目次・挿表目次・写真目次

第1章 平成29年度埋蔵文化財保護事業	1
1 埋蔵文化財保護事業の概要	1
第2章 小規模発掘調査	13
1 追掘遺跡第1次発掘調査	13
2 小瀬幅遺跡第1次発掘調査	20
3 海渡遺跡第1次発掘調査	29
4 新林遺跡第4次発掘調査	33
第3章 試掘調査等	39
1 川岸最氏宅地遺跡	39
2 芝宮南遺跡	41
3 南松原遺跡	43
4 中在地遺跡	45
5 穂高古墳群 B24号墳	47
6 明科遺跡群明科廃寺	53
7 一本松遺跡	57
8 矢原五輪畑遺跡	59
9 小瀬幅遺跡	65
10 三枚橋遺跡	67
11 北才の神遺跡	69
12 上手木戸遺跡	71
13 新総合体育館建設予定地（遺跡外）	73
14 工事立会 追掘遺跡	75
15 工事立会 宮ノ前遺跡	76
16 工事立会 東小倉遺跡	77
17 工事立会 明科遺跡群県町遺跡	78
引用・参考文献	80
調査報告書抄録	

挿図目次

第1図	平成29年度発掘調査等位置図 (北部) ……………	2	第30図	中在地遺跡試掘位置図 ……………	45
第2図	平成29年度発掘調査等位置図 (南部) ……………	4	第31図	中在地遺跡トレンチ配置図 ……………	46
第3図	平成29年度発掘調査等位置図 (穂高駅周辺) ……………	6	第32図	中在地遺跡土層概念図 ……………	46
第4図	平成29年度発掘調査等位置図 (明科駅周辺) ……………	7	第33図	穂高古墳群 B24号墳試掘位置図 ……	47
第5図	追掘遺跡の位置と周辺の遺跡 ……	14	第34図	穂高古墳群 B24号墳調査前現況図 ……	48
第6図	追掘遺跡調査区配置図 ……………	15	第35図	穂高古墳群 B24号墳グリッド配置図 ……	48
第7図	追掘遺跡土層概念図 ……………	16	第36図	穂高古墳群 B24号墳石室検出図 ……	49
第8図	追掘遺跡出土遺物 ……………	17	第37図	穂高古墳群 B24号墳セクション図 ……	50
第9図	小瀬幅遺跡の位置と周辺の遺跡 ……	21	第38図	穂高古墳群 B24号墳出土遺物 ……	52
第10図	小瀬幅遺跡調査区配置図 ……………	22	第39図	明科遺跡群明科廃寺試掘位置図 ……	53
第11図	小瀬幅遺跡土層概念図 ……………	23	第40図	明科遺跡群明科廃寺トレンチ配置図 ……	54
第12図	小瀬幅遺跡調査区・セクション図 ……	23	第41図	明科遺跡群明科廃寺トレンチ図 ……	54
第13図	小瀬幅遺跡表面採集遺物 ……………	25	第42図	明科遺跡群明科廃寺出土遺物 ……	55
第14図	海渡遺跡の位置と周辺の遺跡 ……	30	第43図	一本松遺跡試掘位置図 ……………	57
第15図	海渡遺跡調査区配置図 ……………	31	第44図	一本松遺跡トレンチ配置図 ……………	58
第16図	海渡遺跡土層概念図 ……………	32	第45図	一本松遺跡土層概念図 ……………	58
第17図	新林遺跡の位置と周辺の遺跡 ……	34	第46図	矢原五輪畑遺跡試掘位置図 ……………	59
第18図	新林遺跡調査区位置図 ……………	35	第47図	矢原五輪畑遺跡トレンチ配置図 ……	60
第19図	新林遺跡土層概念図 ……………	36	第48図	矢原五輪畑遺跡土層概念図 ……………	61
第20図	新林遺跡第3次発掘調査土層図 ……	36	第49図	矢原五輪畑遺跡第4層検出図 ……	61
第21図	川岸最氏宅地遺跡試掘位置図 ……	39	第50図	矢原五輪畑遺跡出土遺物 ……………	63
第22図	川岸最氏宅地遺跡トレンチ配置図 ……	40	第51図	小瀬幅遺跡トレンチ配置図 ……………	65
第23図	川岸最氏宅地遺跡 A トレンチセクション図 ……………	40	第52図	小瀬幅遺跡 B トレンチ図 ……………	66
第24図	芝宮南遺跡試掘位置図 ……………	41	第53図	小瀬幅遺跡出土遺物 ……………	66
第25図	芝宮南遺跡トレンチ配置図 ……………	42	第54図	三枚橋遺跡試掘位置図 ……………	67
第26図	芝宮南遺跡土層概念図 ……………	42	第55図	三枚橋遺跡トレンチ配置図 ……………	68
第27図	南松原遺跡試掘位置図 ……………	43	第56図	北才の神遺跡試掘位置図 ……………	69
第28図	南松原遺跡トレンチ配置図 ……………	44	第57図	北才の神遺跡トレンチ配置図 ……	70
第29図	南松原遺跡 C トレンチセクション図 ……	44	第58図	北才の神遺跡土層概念図 ……………	70
			第59図	上手木戸遺跡試掘位置図 ……………	71
			第60図	上手木戸遺跡トレンチ配置図 ……	72
			第61図	上手木戸遺跡土層概念図 ……………	72
			第62図	新総合体育館建設予定地及び 試掘位置図 ……………	73

第63図	新総合体育館建設予定地 トレンチ配置図・土層概念図 ……………	74	第68図	東小倉遺跡工事立会位置図 ……………	77
第64図	追堀遺跡工事立会位置図 ……………	75	第69図	東小倉遺跡土層概念図 ……………	77
第65図	追堀遺跡土層概念図 ……………	75	第70図	明科遺跡群県町遺跡工事立会位置図	78
第66図	宮ノ前遺跡工事立会位置図 ……………	76	第71図	明科遺跡群県町遺跡土層概念図 ……………	78
第67図	宮ノ前遺跡土層概念図 ……………	76	第72図	工事立会出土遺物 ……………	79

挿表目次

第1表	平成29年度発掘調査等一覧 ……………	8	第10表	小瀬幅遺跡表面採集石器観察表 ………	26
第2表	追堀遺跡発掘調査事務手続き経過 ……	13	第11表	海渡遺跡発掘調査事務手続き経過 ……	29
第3表	追堀遺跡付近の遺跡 ……………	14	第12表	海渡遺跡付近の遺跡 ……………	30
第4表	追堀遺跡試掘調査記録 ……………	14	第13表	新林遺跡発掘調査事務手続き経過 ……	33
第5表	器種分類 ……………	17	第14表	新林遺跡付近の遺跡 ……………	34
第6表	小瀬幅遺跡発掘調査事務手続き経過	20	第15表	新林遺跡発掘調査記録 ……………	34
第7表	小瀬幅遺跡付近の遺跡 ……………	21	第16表	器種分類 ……………	62
第8表	器種分類 ……………	24	第17表	矢原五輪畑遺跡出土土器観察表 ………	62
第9表	小瀬幅遺跡表面採集土器観察表 ………	26			

写真目次

写真1	追堀遺跡出土遺物 ……………	17	写真5	矢原五輪畑遺跡出土遺物 ……………	64
写真2	小瀬幅遺跡表面採集遺物 ……………	25	写真6	小瀬幅遺跡出土遺物 ……………	66
写真3	穂高古墳群 B24号墳出土遺物 ………	52	写真7	工事立会出土遺物 ……………	79
写真4	明科遺跡群明科廃寺出土遺物 ………	56			

第1章 平成29年度埋蔵文化財保護事業

1 埋蔵文化財保護事業の概要

(1) 事務局の体制

平成29年度の安曇野市における埋蔵文化財保護事業は、安曇野市教育委員会教育部文化課文化財保護係が担当した。体制は次のとおりである。

事務局 安曇野市教育委員会教育部 文化課

那須野雅好（文化課長）、山下泰永（文化課課長補佐兼文化財保護係長）

土屋和章、横山幸子、佐藤真弓（以上、文化財保護係）

(2) 地理的環境と遺跡の立地

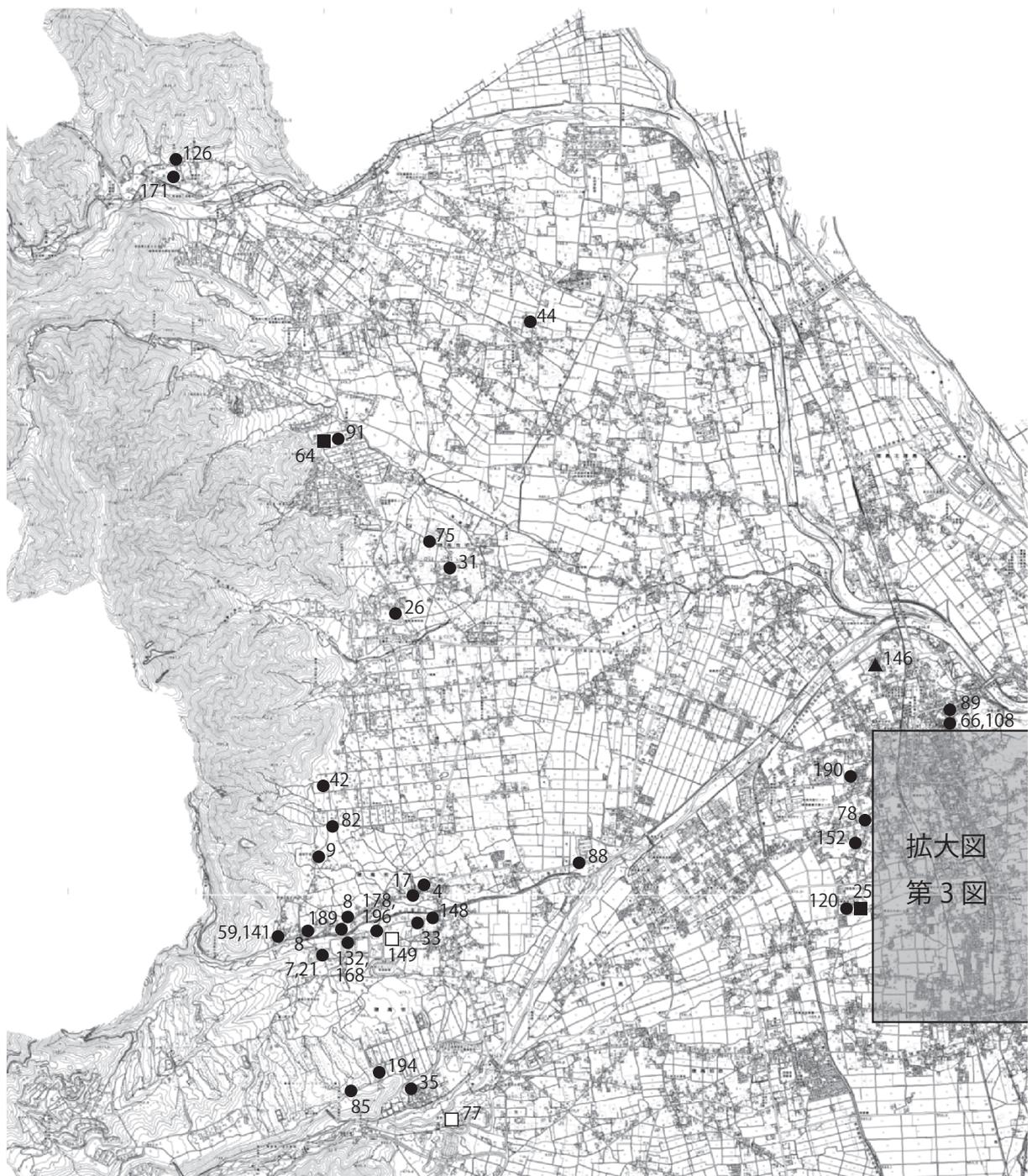
安曇野市は平成17年（2005）10月1日に豊科町、穂高町、三郷村、堀金村、明科町の5町村が合併して誕生した市で、長野県のほぼ中央部に位置し、北は大町市、松川村、池田町、生坂村、筑北村、南は松本市に隣接する。地形的には松本盆地の中ほどにあり、西は飛騨山脈、東は筑摩山地に囲まれる。松本盆地は、縁辺部から流れる複数の河川が運搬した堆積物により形成されている。

安曇野市内に所在する遺跡は、現在およそ400箇所が周知の埋蔵文化財包蔵地となっており、確認されている時代としては縄文時代早期から現代に至る。縄文時代の遺跡は、主として飛騨山脈山麓の扇状地扇頂付近及び犀川以東の河岸段丘上に多く立地しており、過去の調査から、縄文時代中期に隆盛を極めたことがわかる。弥生時代になると遺跡数は減少し、集落の立地も扇状地扇央及び扇端へ移る。生業形態の変化が遺跡立地の変化に影響している可能性があり、この集落立地は基本的に現代まで踏襲されている。安曇野市では、前・中期の古墳は現在までに確認されておらず、後期の群集墳が飛騨山脈山麓や明科地域に分布する。奈良時代以降は、前時代までの立地を踏襲するように犀川以西の扇端と犀川以東の河岸段丘上に集落が営まれるなか、明科地域では明科廃寺と呼ばれる古代寺院の存在が確認されている。また、豊科田沢の山間部一帯から隣接する松本市域にかけて須恵器窯群が築かれている。

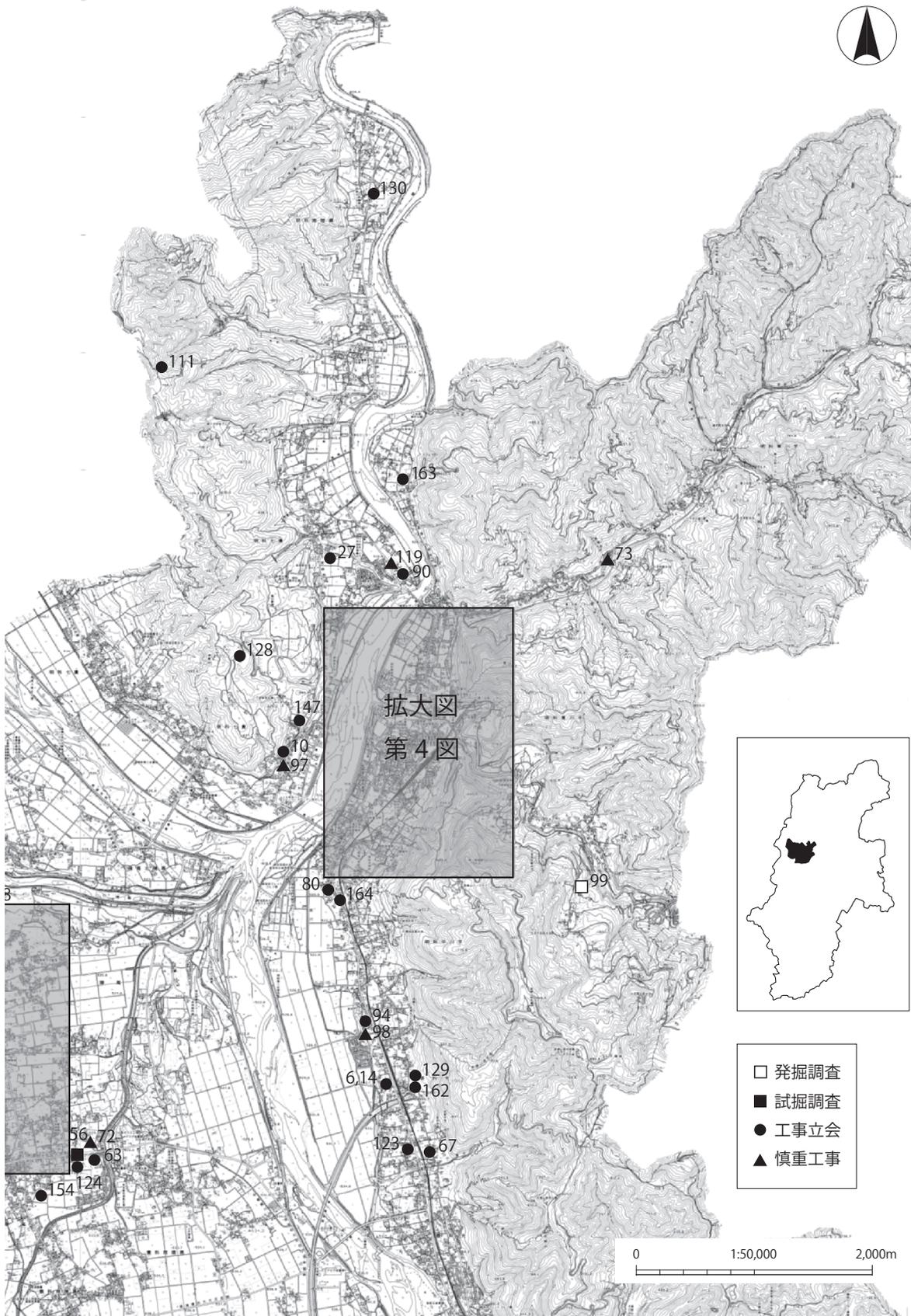
(3) 平成29年度の概要

平成29年度の安曇野市における発掘調査等の一覧は第1表に示すとおり、全202件であった。このうち安曇野市教育委員会が主体となって実施した発掘調査等は合計201件である。内訳は、小規模発掘調査4件、試掘13件、工事立会165件、慎重工事19件となっている。それぞれの位置は、第1～4図に示す。小規模発掘調査及び試掘調査の詳細は第2・3章で取り上げた。

また、安曇野市教育委員会が調査主体となった埋蔵文化財保護事業の他に、國學院大學文学部考古学研究室によって穂高古墳群F9号墳の学術発掘が実施されている。

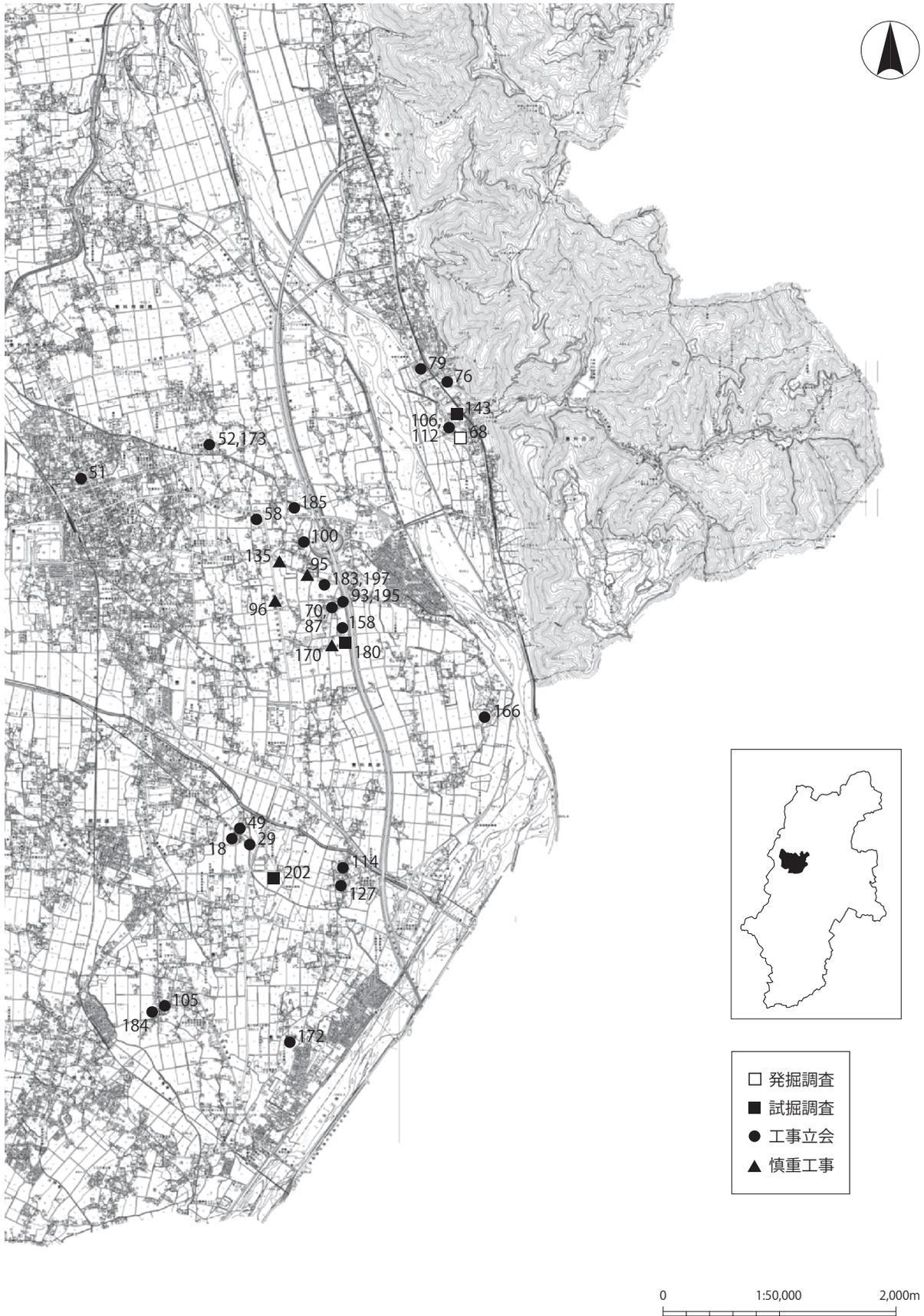


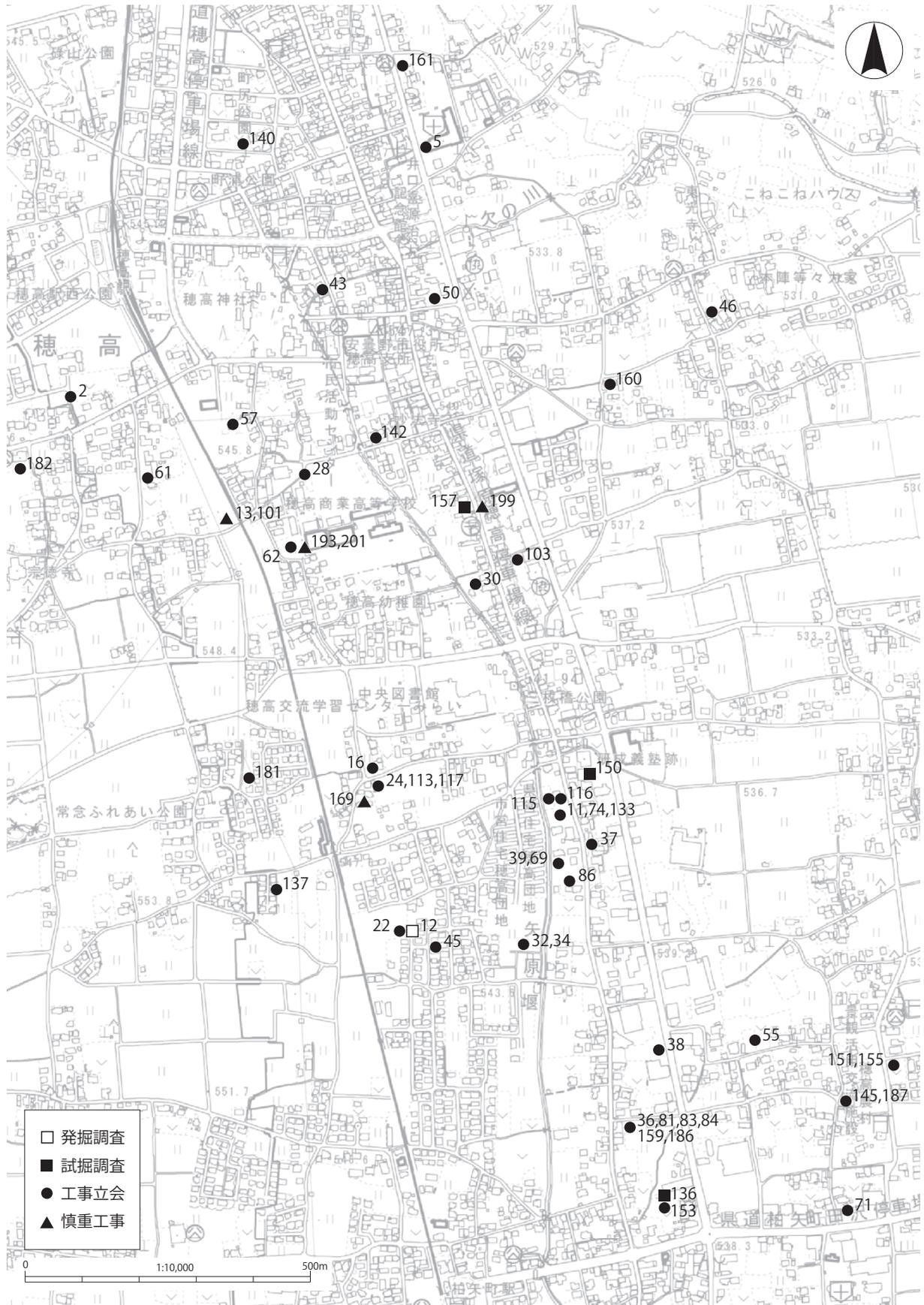
第1図 平成29年度発掘調査等位置図（北部）



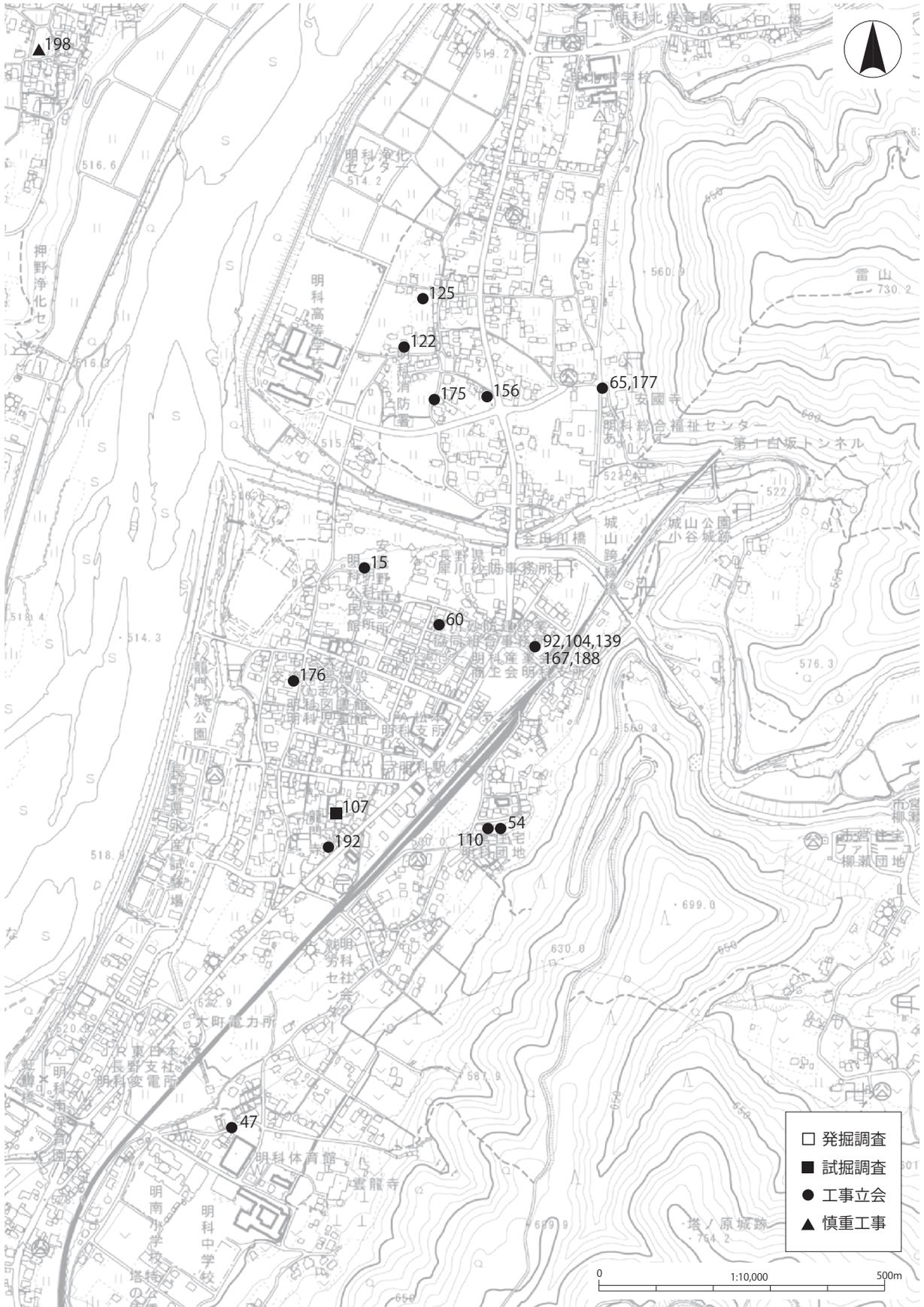


第2図 平成29年度発掘調査等位置図（南部）





第3図 平成29年度発掘調査等位置図（穂高駅周辺）



第4図 平成29年度発掘調査等位置図（明科駅周辺）

第1章 平成29年度埋蔵文化財保護事業

第1表 平成29年度発掘調査等一覧

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
●1	工事立会	石見堂遺跡	堀金三田2185番2先	道路	20170403	20170403	市教委
●2	工事立会	宮脇遺跡	穂高10206番先	河川	20170403	20170403	市教委
■3	試掘	川岸最氏宅地遺跡	三郷温4197番1	宅地造成	20170404	20170404	市教委
●4	工事立会	神谷遺跡	穂高牧916番	ガス・水道・電気等	20170406	20170406	市教委
●5	工事立会	等々力町巾上巾下遺跡	穂高4650番1外32筆	その他の建物	20170407	20170407	市教委
●6	工事立会	光遺跡群北村遺跡	明科光181番1	個人住宅	20170407	20170407	市教委
●7	工事立会	新林遺跡	穂高牧1864番1	個人住宅	20170410	20170410	市教委
●8	工事立会	神谷遺跡ほか (草深遺跡、山崎遺跡) ※	穂高牧1696番外	ガス・水道・電気等	20170410	20170411	市教委
●9	工事立会	寺島畑遺跡	穂高牧1652番2	ガス・水道・電気等	20170411	20170411	市教委
●10	工事立会	やしき遺跡ほか	明科七貫6233番1外	ガス・水道・電気等	20161217	20170412	市教委
●11	工事立会	三枚橋遺跡	穂高柏原974番1外2筆	その他の建物	20170412	20170412	市教委
□12	発掘調査	追堀遺跡	穂高柏原1646番1	その他開発	20170414	20170414	市教委
▲13	慎重工事	宮脇遺跡	穂高6616番2	個人住宅	20170425	20170425	市教委
●14	工事立会	光遺跡群北村遺跡	明科光185番1	個人住宅	20170428	20170428	市教委
●15	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手4249番18	個人住宅	20170502	20170502	市教委
●16	工事立会	追堀遺跡	穂高6757番3	ガス・水道・電気等	20170510	20170510	市教委
●17	工事立会	神谷遺跡	穂高牧901番4外3筆	個人住宅	20170511	20170511	市教委
●18	工事立会	日光寺跡	豊科713番1外1筆	個人住宅	20170512	20170512	市教委
●19	工事立会	上ノ山窯跡群ほか (黒沢川右岸遺跡) ※	豊科田沢8141番473外	その他開発	20170512	20170512	市教委
●20	工事立会	南松原遺跡	三郷小倉1929番	その他農業関係事業	20170512	20170512	市教委
●21	工事立会	新林遺跡	穂高牧1864番1	ガス・水道・電気等	20170513	20170513	市教委
●22	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原1646番1外1筆	その他の建物	20170516	20170516	市教委
●23	工事立会	坂がいと遺跡	三郷明盛4956番7	個人住宅	20170516	20170516	市教委
●24	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原1699番4	個人住宅	20170518	20170518	市教委
■25	試掘	芝宮南遺跡	穂高7217番1	学校建設	20170520	20170520	市教委
●26	工事立会	小岩嶽下木戸遺跡	穂高有明3619番3	ガス・水道・電気等	20170526	20170526	市教委
●27	工事立会	宮ノ前遺跡	明科七貫8352番1	個人住宅	20170529	20170529	市教委
●28	工事立会	藤塚遺跡	穂高6839番1	ガス・水道・電気等	20170530	20170530	市教委
●29	工事立会	日光寺跡	豊科1355番3	個人住宅	20170531	20170531	市教委
●30	工事立会	藤塚遺跡	穂高2483番1外1筆	個人住宅	20170605	20170605	市教委
●31	工事立会	小岩嶽下木戸遺跡	穂高有明2953番1	個人住宅	20170605	20170605	市教委
●32	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原1660番6	個人住宅	20170605	20170605	市教委
●33	工事立会	新林遺跡	穂高牧514番11先	道路	20170606	20170606	市教委
●34	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原1660番7外1筆	個人住宅	20170606	20170606	市教委
●35	工事立会	堰下遺跡	穂高牧2304番3	個人住宅	20170609	20170609	市教委
●36	工事立会	四反田遺跡	穂高993番1外2筆	宅地造成	20170613	20170613	市教委
●37	工事立会	三枚橋遺跡	穂高1796番1	個人住宅	20170613	20170613	市教委
●38	工事立会	矢原権現池遺跡	穂高1360番1外1筆	店舗	20170614	20170614	市教委
●39	工事立会	三枚橋遺跡	穂高柏原969番1	個人住宅	20170615	20170615	市教委
●40	工事立会	南松原遺跡	三郷小倉1929番	その他農業関係事業	20170615	20170615	市教委

第1章 平成29年度埋蔵文化財保護事業

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
●41	工事立会	下堀道南遺跡	堀金烏川4886番	個人住宅	20170616	20170616	市教委
●42	工事立会	寺島畑遺跡	穂高有明7869番3	個人住宅	20170609	20170620	市教委
●43	工事立会	穂高神社境内遺跡	穂高6073番9先	ガス・水道・電気等	20170621	20170621	市教委
●44	工事立会	古厩城跡	穂高有明7097番1外2筆	その他の建物	20170622	20170622	市教委
●45	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原1648番1外	ガス・水道・電気等	20170623	20170623	市教委
●46	工事立会	北才の神遺跡	穂高2949番8	個人住宅	20170623	20170623	市教委
●47	工事立会	上手屋敷遺跡	明科中川手3168番6先	道路	20170626	20170626	市教委
■48	試掘	南松原遺跡	三郷小倉1917番1	その他農業関係事業	20170627	20170627	市教委
●49	工事立会	日光寺跡	豊科1352番3先	ガス・水道・電気等	20170630	20170630	市教委
●50	工事立会	穂高神社境内遺跡	穂高2629番2外4筆	店舗	20170703	20170703	市教委
●51	工事立会	円証寺跡	豊科5927番1	その他開発	20170704	20170704	市教委
●52	工事立会	原村遺跡	豊科南穂高839番2外1筆	個人住宅	20170705	20170705	市教委
●53	工事立会	東小倉遺跡	三郷小倉6089番39	個人住宅	20170706	20170706	市教委
●54	工事立会	明科遺跡群上郷遺跡	明科中川手3657番8	その他の建物	20170711	20170711	市教委
●55	工事立会	矢原五輪畑遺跡	穂高1351番4	個人住宅兼工場又は店舗	20170712	20170712	市教委
■56	試掘	中在地遺跡	穂高740番1外1筆	道路	20170712	20170712	市教委
●57	工事立会	宮脇遺跡	穂高6632番3外2筆	個人住宅	20170713	20170713	市教委
●58	工事立会	上手木戸遺跡	豊科南穂高111番23	店舗	20170714	20170714	市教委
●59	工事立会	山崎遺跡	穂高牧1767番11先外	その他開発	20170718	20170718	市教委
●60	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手6824番57	個人住宅	20170718	20170718	市教委
●61	工事立会	宮脇遺跡	穂高6599番2外1筆	個人住宅	20170719	20170719	市教委
●62	工事立会	藤塚遺跡	穂高6823番3外1筆	宅地造成	20170720	20170720	市教委
●63	工事立会	中在地遺跡	穂高737番9外2筆	個人住宅	20170720	20170720	市教委
■64	試掘	穂高古墳群B24号墳	穂高有明2186番96	個人住宅	20170710	20170724	市教委
●65	工事立会	潮遺跡群潮神明宮前遺跡	明科東川手637番1	その他の建物	20170725	20170725	市教委
●66	工事立会	等々力町巾上巾下遺跡	穂高4571番12外	ガス・水道・電気等	20170726	20170726	市教委
●67	工事立会	光遺跡群北村遺跡ほか (中条遺跡) ※	明科光343番5外	道路	20170731	20170731	市教委
□68	発掘調査	小瀬幅遺跡	豊科田沢4863番2	個人住宅	20170728	20170731	市教委
●69	工事立会	三枚橋遺跡	穂高柏原969番3外1筆	個人住宅	20170731	20170731	市教委
●70	工事立会	上手木戸遺跡	豊科高家3994番付近外	ガス・水道・電気等	20170801	20170801	市教委
●71	工事立会	矢原宮地遺跡	穂高831番1	店舗	20170802	20170802	市教委
▲72	慎重工事	中在地遺跡	穂高740番1外	道路	20170807	20170807	市教委
▲73	慎重工事	土橋遺跡	明科東川手3292番2外	道路	20170807	20170807	市教委
●74	工事立会	三枚橋遺跡	穂高柏原974番1外2筆	その他の建物	20170809	20170809	市教委
●75	工事立会	小岩嶽下木戸遺跡	穂高有明2947番1先	道路	20170809	20170809	市教委
●76	工事立会	町田遺跡	豊科田沢4686番3	個人住宅	20170809	20170809	市教委
□77	発掘調査	穂高古墳群F9号墳	穂高柏原3653番	学術研究	20170805	20170815	國學院大學
●78	工事立会	宮脇遺跡	穂高6148番4外1筆	個人住宅	20170817	20170817	市教委
●79	工事立会	町田遺跡	豊科田沢4624番1	個人住宅	20170817	20170817	市教委
●80	工事立会	町屋敷遺跡	明科中川手2133番外1筆	その他の建物	20170818	20170818	市教委
●81	工事立会	四反田遺跡	穂高993番27	個人住宅	20170821	20170821	市教委

第1章 平成29年度埋蔵文化財保護事業

No.	調査	遺跡	所在地	工事的目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
●82	工事立会	寺島畑遺跡	穂高牧1486番	ガス・水道・電気等	20170822	20170822	市教委
●83	工事立会	四反田遺跡	穂高993番1の一部	個人住宅	20170822	20170822	市教委
●84	工事立会	四反田遺跡	穂高993番23	個人住宅	20170822	20170822	市教委
●85	工事立会	離山遺跡ほか (シヨウノヒナタ遺跡) ※	穂高牧2221番先	道路	20170823	20170823	市教委
●86	工事立会	三枚橋遺跡	穂高柏原967番14	個人住宅	20170829	20170829	市教委
●87	工事立会	上手木戸遺跡	豊科高家3994番1	ガス・水道・電気等	20170830	20170830	市教委
●88	工事立会	空保木城跡	穂高牧783番7先	道路	20170901	20170901	市教委
●89	工事立会	等々力町巾上巾下遺跡	穂高4570番1外1筆	ガス・水道・電気等	20170904	20170904	市教委
●90	工事立会	荒井遺跡	明科七貴9025番5	個人住宅	20170904	20170904	市教委
●91	工事立会	穂高古墳群 B24号墳	穂高有明2186番96	個人住宅	20170829	20170904	市教委
●92	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手4161番15外1筆	個人住宅	20170905	20170905	市教委
●93	工事立会	上手木戸遺跡	豊科高家3944番1外2筆	その他開発	20170905	20170905	市教委
●94	工事立会	給然寺古屋敷遺跡	明科中川手112番5	ガス・水道・電気等	20170907	20170907	市教委
▲95	慎重工事	上手木戸遺跡	豊科南穂高235番4先	ガス・水道・電気等	20170908	20170908	市教委
▲96	慎重工事	荒井遺跡	豊科3728番4先	ガス・水道・電気等	20170908	20170908	市教委
▲97	慎重工事	やしき遺跡	明科七貴6233番1	その他開発	20170908	20170908	市教委
▲98	慎重工事	給然寺古屋敷遺跡	明科中川手112番6	その他開発	20170908	20170908	市教委
□99	発掘調査	海波遺跡	明科中川手5819番1の一部	個人住宅	20170911	20170911	市教委
●100	工事立会	上手木戸遺跡	豊科南穂高210番	農業基盤整備事業	20170914	20170914	市教委
▲101	慎重工事	宮脇遺跡	穂高6616番8	個人住宅	20170919	20170919	市教委
●102	工事立会	三柱神社東遺跡	三郷明盛4810番1先	道路	20170921	20170921	市教委
●103	工事立会	藤塚遺跡	穂高2482番1外1筆	ガス・水道・電気等	20170921	20170921	市教委
●104	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手4161番14外1筆	個人住宅	20170925	20170925	市教委
●105	工事立会	真光寺跡	豊科高家6084番1外1筆	個人住宅	20170926	20170926	市教委
●106	工事立会	小瀬幅遺跡	豊科田沢4823番3	その他の建物	20170927	20170927	市教委
■107	試掘	明科遺跡群明科廃寺	明科中川手3779番	個人住宅	20170927	20170929	市教委
●108	工事立会	等々力町巾上巾下遺跡	穂高4571番17外1筆	道路	20171002	20171002	市教委
●109	工事立会	龍峰寺跡	三郷温5635番3先	道路	20171002	20171002	市教委
●110	工事立会	明科遺跡群上郷遺跡	明科中川手3626番	その他の建物	20171005	20171005	市教委
●111	工事立会	塚田山遺跡	明科南陸郷1693番1外	その他開発	20171005	20171005	市教委
●112	工事立会	小瀬幅遺跡	豊科田沢4823番3	その他の建物	20171005	20171005	市教委
●113	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原1699番7	個人住宅	20171011	20171011	市教委
●114	工事立会	宮前遺跡	豊科高家750番1	その他開発	20171011	20171011	市教委
●115	工事立会	三枚橋遺跡	穂高柏原975番1の一部	その他開発	20171012	20171012	市教委
●116	工事立会	三枚橋遺跡	穂高柏原974番3	店舗	20171013	20171013	市教委
●117	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原1699番13外1筆	個人住宅	20171016	20171016	市教委
●118	工事立会	坂がいと遺跡	三郷明盛4965番7	個人住宅	20171016	20171016	市教委
▲119	慎重工事	伊勢宮遺跡	明科七貴9037番1外2筆	その他の建物	20171017	20171017	市教委
●120	工事立会	芝宮南遺跡	穂高7217番1外	その他の建物	20171018	20171018	市教委
●121	工事立会	坂がいと遺跡	三郷明盛4695番8	個人住宅	20171018	20171018	市教委
●122	工事立会	潮遺跡群古屋敷遺跡	明科東川手318番2	その他の建物	20171024	20171024	市教委

第1章 平成29年度埋蔵文化財保護事業

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
●123	工事立会	光遺跡群中条遺跡	明科光824番4	その他の建物	20171027	20171027	市教委
●124	工事立会	中在地遺跡	穂高754番5	ガス・水道・電気等	20171030	20171030	市教委
●125	工事立会	潮遺跡群古屋敷遺跡	明科東川手328番外1筆	宅地造成	20171102	20171102	市教委
●126	工事立会	宮城遺跡	穂高有明7028番	ガス・水道・電気等	20171102	20171102	市教委
●127	工事立会	宮前遺跡	豊科高家741番1	個人住宅	20170927	20171106	市教委
●128	工事立会	押野山遺跡	明科七貴6850番6外	道路	20171107	20171107	市教委
●129	工事立会	光遺跡群北村遺跡	明科光266番外3筆	個人住宅	20171026	20171107	市教委
●130	工事立会	北原遺跡	明科南陸郷2814番先	道路	20171107	20171107	市教委
■131	試掘	一本松遺跡	三郷小倉506番1	宅地造成	20171107	20171107	市教委
●132	工事立会	新林遺跡	穂高牧1856番1付近	ガス・水道・電気等	20171107	20171107	市教委
●133	工事立会	三枚橋遺跡	穂高柏原974番1外	ガス・水道・電気等	20170914	20171109	市教委
●134	工事立会	三柱神社東遺跡	三郷明盛4810番1外1筆	ガス・水道・電気等	20171110	20171110	市教委
▲135	慎重工事	上手木戸遺跡	南穂高266番1先	ガス・水道・電気等	20171113	20171113	市教委
■136	試掘	矢原五輪畑遺跡	穂高800番2外1筆	その他開発	20171114	20171114	市教委
●137	工事立会	長者池遺跡	穂高柏原1727番5外1筆	個人住宅	20171115	20171115	市教委
●138	工事立会	川岸最氏宅地遺跡	三郷温4367番4外1筆	個人住宅	20171116	20171116	市教委
●139	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手4161番16外1筆	個人住宅	20171116	20171116	市教委
●140	工事立会	穂高神社境内遺跡	穂高6002番8外2筆	個人住宅	20171117	20171117	市教委
●141	工事立会	山崎遺跡	穂高牧1767番11先外	道路	20171120	20171120	市教委
●142	工事立会	北才の神遺跡	穂高6674番3外2筆	その他の建物	20171120	20171120	市教委
■143	試掘	小瀬幅遺跡	豊科田沢4840番1外2筆	道路	20171120	20171120	市教委
●144	工事立会	長尾城北遺跡	三郷温4679番9	農業基盤整備事業	20171120	20171120	市教委
●145	工事立会	矢原宮地遺跡	穂高1038番3	個人住宅	20171122	20171122	市教委
▲146	慎重工事	貝梅道下遺跡	穂高5009番20	個人住宅	20171122	20171122	市教委
●147	工事立会	上野遺跡	明科七貴6265番	ガス・水道・電気等	20171123	20171123	市教委
●148	工事立会	上ノ山窯跡群ほか (新林遺跡) ※	豊科田沢8141番473外	その他開発	20171124	20171124	市教委
□149	発掘調査	新林遺跡	穂高牧1884番1	その他開発	20171124	20171124	市教委
■150	試掘	三枚橋遺跡	穂高1800番2	店舗	20171205	20171205	市教委
●151	工事立会	矢原宮地遺跡	穂高1052番6外1筆	個人住宅	20171205	20171205	市教委
●152	工事立会	宮脇遺跡	穂高6479番17付近	その他の建物	20171206	20171206	市教委
●153	工事立会	矢原五輪畑遺跡	穂高800番2外1筆	その他開発	20171208	20171211	市教委
●154	工事立会	遺跡外	穂高475番1外5筆	宅地造成	20171212	20171212	市教委
●155	工事立会	矢原宮地遺跡	穂高1052番1外1筆	個人住宅	20171212	20171212	市教委
●156	工事立会	潮遺跡群新屋遺跡	明科東川手494番1外1筆	その他の建物	20171214	20171214	市教委
■157	試掘	北才の神遺跡	穂高6712番1外2筆	宅地造成	20171219	20171219	市教委
●158	工事立会	上手木戸遺跡	豊科高家2481番外4筆	土砂採取	20171220	20171220	市教委
●159	工事立会	四反田遺跡	穂高993番26	個人住宅	20171220	20171220	市教委
●160	工事立会	北才の神遺跡	穂高2772番	その他の建物	20171220	20171220	市教委
●161	工事立会	等々力町巾上巾下遺跡	穂高4608番1外1筆	個人住宅	20171222	20171222	市教委
●162	工事立会	光遺跡群北村遺跡	明科光242番	個人住宅	20180109	20180109	市教委
●163	工事立会	上生野遺跡	明科東川手13805番4外	その他の建物	20180110	20180110	市教委

第1章 平成29年度埋蔵文化財保護事業

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
●164	工事立会	町屋敷遺跡	明科中川手1771番1	その他農業関係事業	20180110	20180110	市教委
●165	工事立会	堂原遺跡	三郷温4199番3	個人住宅	20180111	20180111	市教委
●166	工事立会	熊倉遺跡	豊科高家2410番1	ガス・水道・電気等	20180111	20180111	市教委
●167	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手4161番8外2筆	ガス・水道・電気等	20180111	20180111	市教委
●168	工事立会	新林遺跡	穂高牧1856番1外	ガス・水道・電気等	20171225	20180116	市教委
▲169	慎重工事	追堀遺跡	穂高柏原1699番13外1筆	個人住宅	20180118	20180118	市教委
▲170	慎重工事	上手木戸遺跡	豊科高家3973番6	その他開発	20180119	20180119	市教委
●171	工事立会	宮城遺跡	穂高有明7263番1	その他開発	20180122	20180122	市教委
●172	工事立会	飯田古宮遺跡	豊科高家159番	農業基盤整備事業	20180122	20180122	市教委
●173	工事立会	原村遺跡	豊科南穂高863番12	個人住宅	20180124	20180124	市教委
●174	工事立会	そり表遺跡	堀金三田995番7付近	ガス・水道・電気等	20180125	20180125	市教委
●175	工事立会	潮遺跡群潮神明宮前遺跡	明科東川手292番1	その他の建物	20180130	20180130	市教委
●176	工事立会	明科遺跡群本町遺跡	明科中川手3925番1	ガス・水道・電気等	20180201	20180201	市教委
●177	工事立会	潮遺跡群潮神明宮前遺跡	明科東川手637番1外1筆	ガス・水道・電気等	20180201	20180201	市教委
●178	工事立会	新林遺跡	穂高牧1856番1	その他開発	20180205	20180205	市教委
●179	工事立会	堀金小学校付近遺跡	堀金烏川2844番外6筆	宅地造成	20180208	20180208	市教委
■180	試掘	上手木戸遺跡	豊科高家2592番1外2筆	土砂採取	20180208	20180208	市教委
●181	工事立会	大坪沢遺跡	穂高7025番1外2筆	宅地造成	20180213	20180213	市教委
●182	工事立会	宮脇遺跡	穂高6484番2外1筆	宅地造成	20180216	20180216	市教委
●183	工事立会	上手木戸遺跡	豊科高家2526番1	宅地造成	20180216	20180216	市教委
●184	工事立会	真光寺跡	豊科高家6127番3	個人住宅	20180220	20180220	市教委
●185	工事立会	上手木戸遺跡	豊科南穂高1115番	その他の建物	20180222	20180222	市教委
●186	工事立会	四反田遺跡	穂高993番25	個人住宅	20180223	20180223	市教委
●187	工事立会	矢原宮地遺跡	穂高1038番1	個人住宅	20180226	20180226	市教委
●188	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手4161番10	個人住宅	20180227	20180227	市教委
●189	工事立会	山崎遺跡	穂高牧1853番6	その他開発	20180302	20180302	市教委
●190	工事立会	宮脇遺跡	穂高6148番6外1筆	個人住宅	20180309	20180309	市教委
▲191	慎重工事	一本松遺跡	三郷小倉506番6	宅地造成、個人住宅	20180312	20180312	市教委
●192	工事立会	明科遺跡群県町遺跡	明科中川手3509番11外3筆	個人住宅	20180313	20180313	市教委
▲193	慎重工事	藤塚遺跡	穂高6823番12	個人住宅	20180313	20180313	市教委
●194	工事立会	離山遺跡近接地	穂高牧2352番3	その他開発	20180314	20180314	市教委
●195	工事立会	上手木戸遺跡	豊科高家3947番1外2筆	宅地造成	20180220	20180319	市教委
●196	工事立会	新林遺跡	穂高牧1856番1	その他開発	20180319	20180319	市教委
●197	工事立会	上手木戸遺跡	豊科高家2526番1	個人住宅	20180319	20180319	市教委
▲198	慎重工事	塩川原内堀館	明科七貴7297番2	その他の建物	20180319	20180319	市教委
▲199	慎重工事	北才の神遺跡	穂高6712番1の一部	店舗	20180326	20180326	市教委
▲200	慎重工事	三柱神社東遺跡	三郷明盛4819番	ガス・水道・電気等	20180326	20180326	市教委
▲201	慎重工事	藤塚遺跡	穂高6823番14	個人住宅	20180329	20180329	市教委
■202	試掘	遺跡外	豊科高家4507番1外3筆	その他の建物	20180329	20180329	市教委

※事業が複数遺跡に及ぶため、()内の遺跡を図中に表示した。

第2章 小規模発掘調査

1 おっぼり 追堀遺跡第1次発掘調査（第1表□12）

（1）調査の概要

所在地	安曇野市穂高柏原1646番1
調査期間	平成29年（2017）4月14日
調査面積	25㎡
調査契機	その他開発（福祉施設）
検出遺構	遺構なし
出土遺物	須恵器、土師器

（2）調査の経緯と経過

今回の調査の発端となった土木工事は、福祉施設建設のための宅地造成である。工事に伴う掘削は、一部の切土と浸透柵設置である。浸透柵については、地表面で一辺4.5mの掘削であり、埋蔵文化財に影響を与える恐れがあったため、記録作成のための発掘調査を実施した。

発掘調査における現場作業は、平成29年（2017）4月14日（金）に、整理作業を平成29年（2017）4月17日（月）～平成31年（2019）3月29日（金）に実施した。平成29年度に図版整理、遺物の洗浄を、平成30年度に遺物注記、遺物実測図作成、写真撮影、報告書執筆を行い、報告書を発行し全事業を終了した。

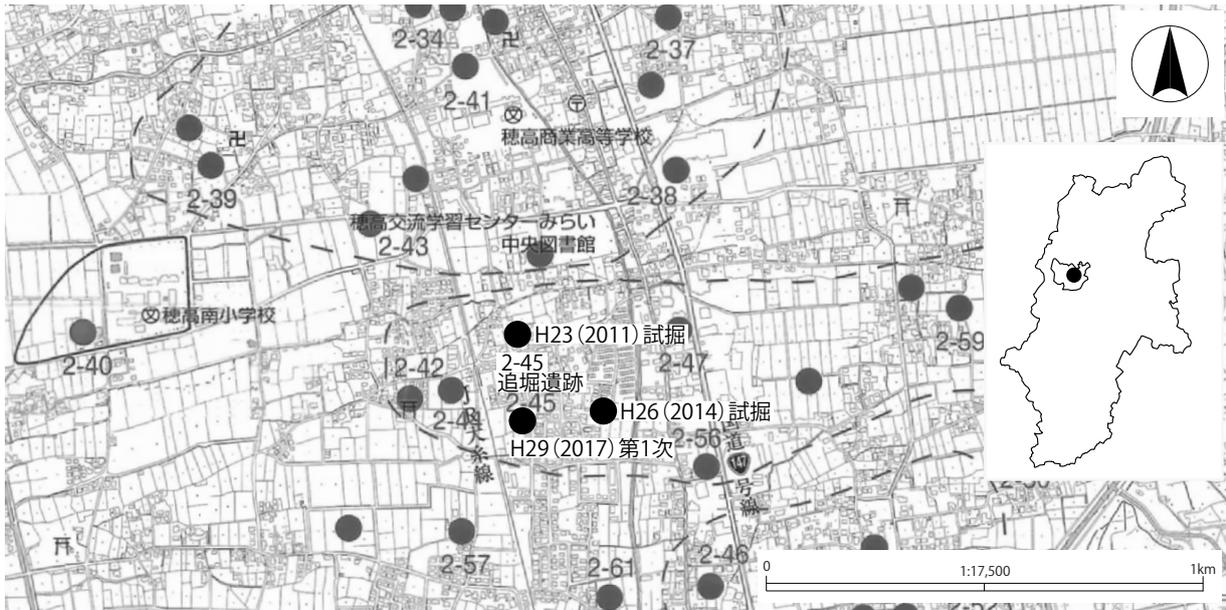
第2表 追堀遺跡発掘調査 事務手続き経過

	年月日	内容
1	平成28年12月13日	「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出」が事業者から市教委に提出される。
2	平成28年12月13日	上記1届出を「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出について（追堀遺跡）」にて、市教委教育長から県教委教育長に進達する。
3	平成28年12月20日	「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」にて県教委教育長から、記録作成のための発掘調査の指示通知が発出される。
4	平成28年12月26日	上記3通知を市教委にて受理する。
5	平成29年4月14日	発掘調査を実施する。
6	平成29年4月17日	「発掘調査終了報告書」を市教委教育長から県教委教育長あて提出する。

第2章 小規模発掘調査

(3) 遺跡の概要

追堀遺跡は、飛騨山脈東麓を端として、松本盆地へ東流する烏川扇状地扇央に所在する平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに本格的な発掘調査を実施した記録はない。安曇野市教育委員会が、本調査地から北へ約150mの地点と、東へ約150mの地点の2箇所において試掘調査を実施している（第5図、第4表、安曇野市教委2013、2016a）。試掘調査では、2箇所ともに流れ込んだと見られる平安時代の土師器及び黒色土器が出土している。これらの試掘調査と、過去の立会調査から遺跡内の東及び北に平安時代の遺構が存在すると推測されている。



第5図 追堀遺跡の位置と周辺の遺跡（安曇野市埋蔵文化財包蔵地図（平成22年（2010）3月31日調整）を加工）

第3表 追堀遺跡付近の遺跡

No.	遺跡名	種類	時代
2-34	宮脇遺跡	集落跡	弥生・平安・中世
2-37	北才の神遺跡	集落跡	古墳・平安
2-38	藤塚遺跡	集落跡	古墳・平安
2-39	宗徳寺遺跡	集落跡	平安
2-40	芝宮南遺跡	集落跡	弥生・平安
2-41	穂高高校北遺跡	集落跡	平安
2-42	大坪沢遺跡	集落跡	平安
2-43	南原遺跡	集落跡	弥生
2-44	長者池遺跡	集落跡	古墳・平安
2-45	追堀遺跡	集落跡	平安
2-46	矢原権現池遺跡	集落跡	平安
2-47	三枚橋遺跡	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安・中世
2-56	八ッ口遺跡	集落跡	奈良・平安・中世
2-57	柏原遺跡	集落跡	古墳・奈良・平安
2-59	堀之内遺跡	集落跡	古墳・中世
2-61	弥之助畑遺跡	集落跡	平安

第4表 追堀遺跡試掘調査記録

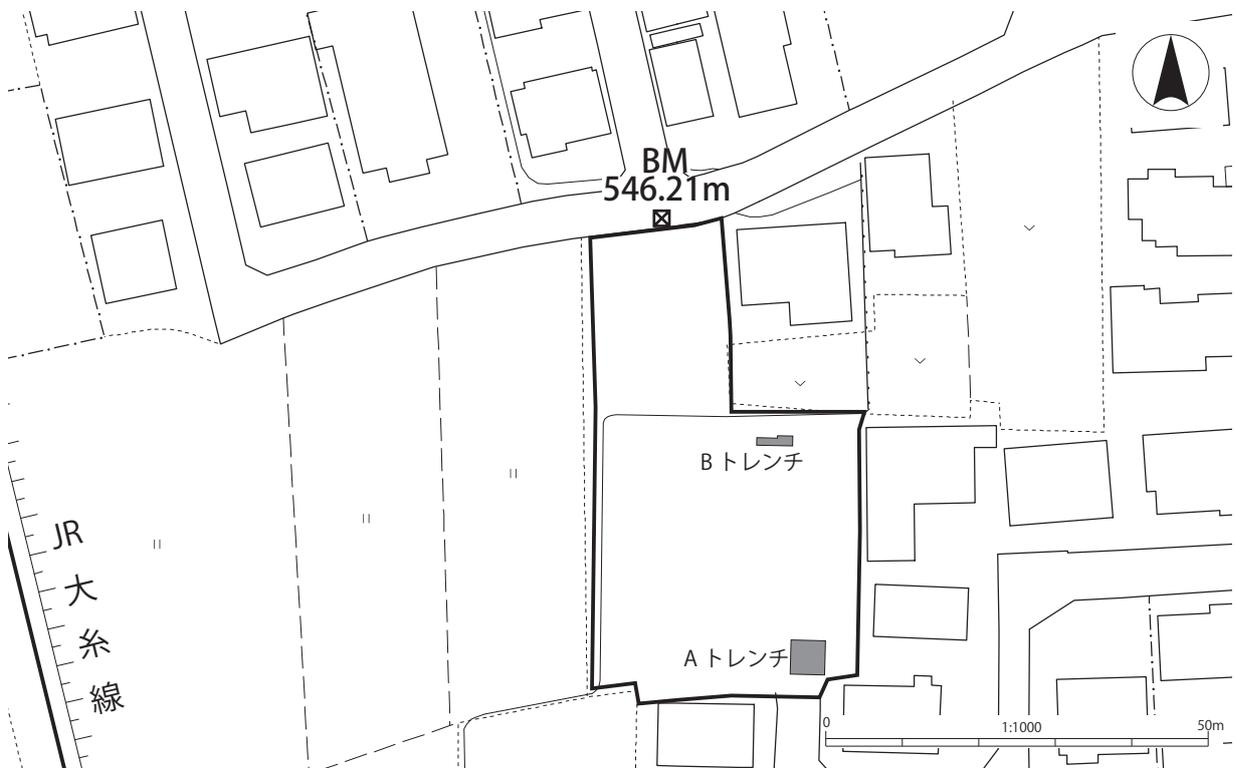
調査区分	調査年	遺構	遺物	文献
試掘調査	平成23年	なし	土師器	安曇野市教委2013
試掘調査	平成26年	なし	黒色土器、土師器（平安時代）	安曇野市教委2016a

(4) 調査の方法

追掘遺跡第1次発掘調査の調査原因である福祉施設用地造成の予定地が、周知の埋蔵文化財包蔵地内であり、事前の試掘が不可能であったため、記録保存のための発掘調査を実施した。

発掘調査の契機となった土木工事のうち、計画面積20.2㎡、掘削深3.5mの地下浸透枡が最も深い掘削である。その他の掘削では、擁壁工及び排水溝が計画されていたが、発掘調査を行うには狭小であった。したがって、工事に伴う掘削計画のうち、地下浸透枡の埋設予定箇所をAトレンチとし調査を実施した。また、現場において、事業計画地北部の土層を確認するため、Bトレンチを設定し調査した。

発掘調査では、遺跡の存在する深度が不明であり、遺構の掘り込みを検出するまで建設用重機により土を除去したが、遺構を検出しなかったため、全て建設用重機によって工事計画深度まで掘り下げた。現場の記録写真は、デジタルカメラを使用して撮影した。



第6図 追掘遺跡調査区配置図

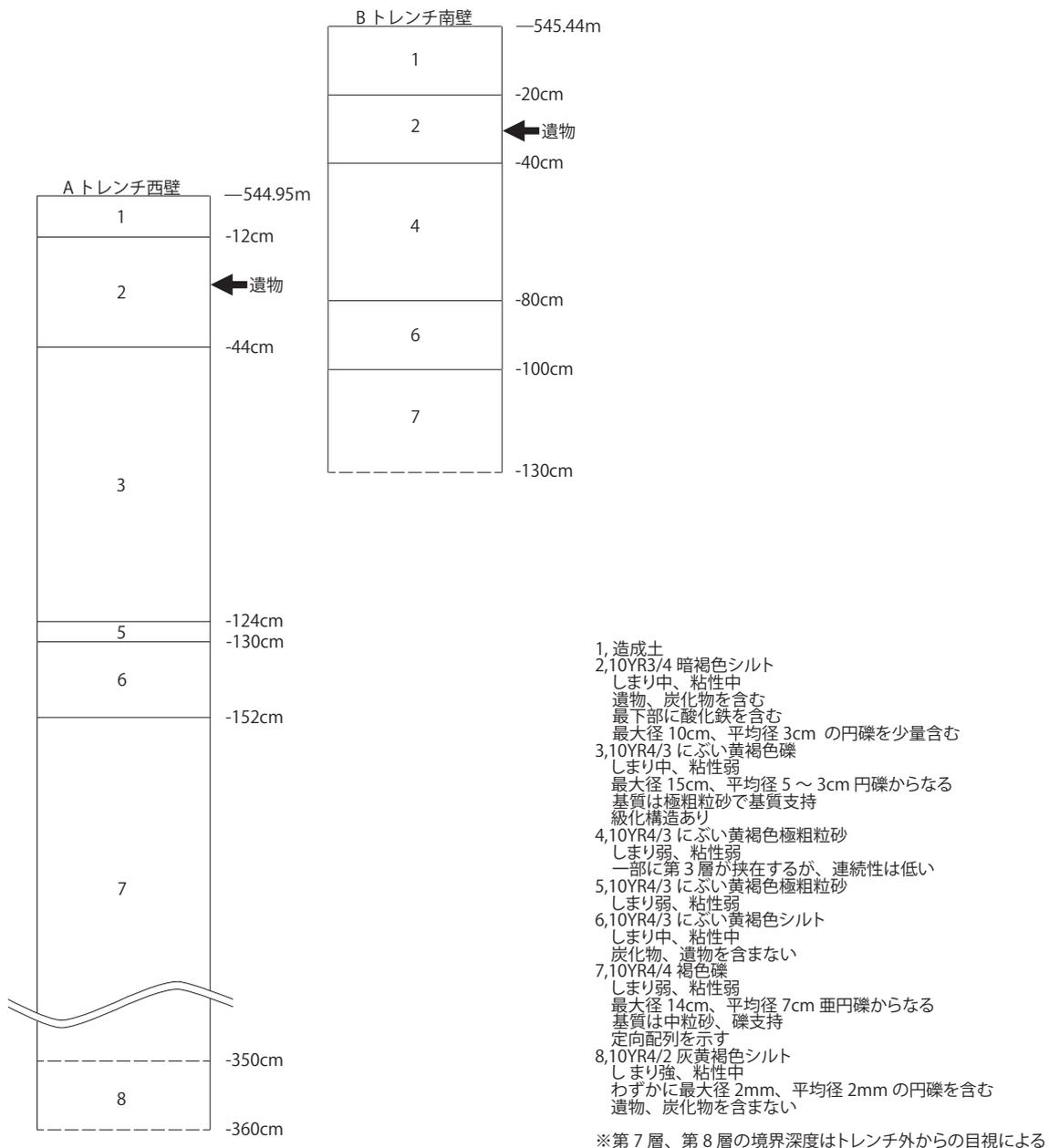
(5) 調査体制

調査主体	安曇野市教育委員会
調査担当者	山下泰永（文化課課長補佐兼文化財保護係長）、横山幸子（文化課文化財保護係）
調査員	山下泰永、土屋和章、松田洋輔、横山幸子（以上、文化財保護係）
作業参加者	田多井智恵、宮下智美（以上、文化財保護係）

(6) 層序

今回の調査で観察できた土層の詳細は、第7図のとおりである。このうち第1層は造成土であり、第2～8層が自然堆積層である。第4層、第5層は砂層で、第3層、第7層が礫層であった。Bトレンチの第4層では、西側の一部に礫層を挟むが、この礫層は東西方向に連続しない。第2層、第6層、第8層がシルト層で、全体的には砂礫層と互層になっており、砂礫層が大半を占める。

第2層からは、平安時代と見られる須恵器、土師器が出土したが、第3層以深では遺物は確認されず、いずれの層からも遺構は検出されなかった。



第7図 追掘遺跡土層概念図

(7) 遺物

追堀遺跡第1次発掘調査では、Aトレンチ、Bトレンチ第2層及び表面採集により土器片が得られた。まとまった出土状況ではなく、復元できるものはほとんどなかったが、この中から須恵器1点、土師器1点を資料化した。(第8図1~2)、土師器については、中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4(小平1990)に従い分類した(第5表)。

1は、表面採集によって得られた平底の須恵器甕である。体部上半が欠損しているが、平底の底部から体部がやや外反して立ち上がる。底部径は、14.4cmを測る。外面にはタタキが施され、内面は当て具痕跡が残る。また、内面底部に自然釉が付着している。体部と底部の接着時の工具痕が、体部の最下部に残る。底部と体部の姿勢から、松本平古代5~9期(8世紀末~10世紀初頭)の須恵器甕と推定した。2は、Aトレンチ出土のロクロ成形の土師器坏で、体部が直線的に開くことから坏Aとした。底部径は、4.6cmを測る。胎土はやや粗く、2mmまでの砂粒を多く含む。底部切り離しは回転糸切りであり、一部に糸切りの際に形成されたとされる凸部がある。小平(1990)によると、坏Aは9世紀後半以降に出現するため、平安時代の遺物と考えられる。

第5表 器種分類(小平1990から引用)

種類	器種名	説明
土師器	坏A	ロクロ調整の底部回転糸切りの坏で、体部が直線的に開く。



第8図 追堀遺跡出土遺物

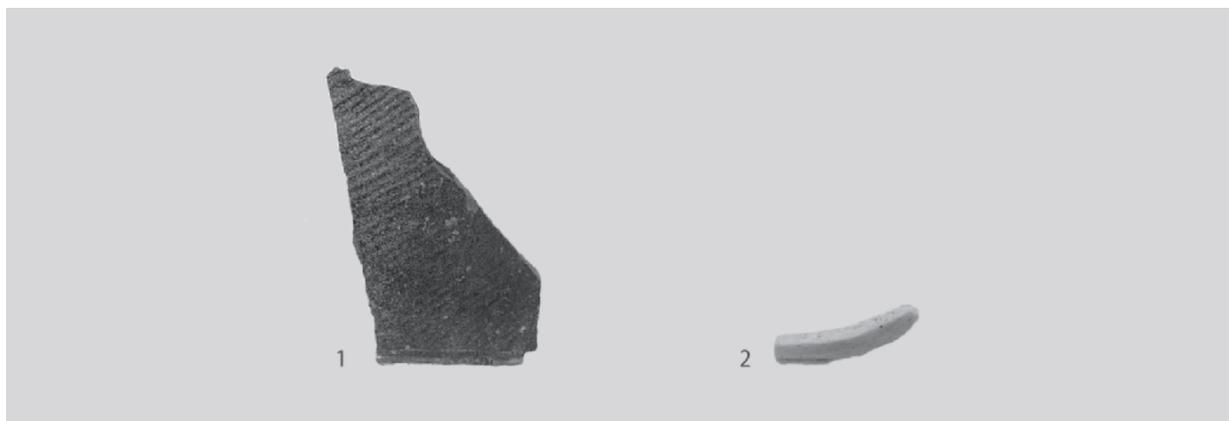


写真1 追堀遺跡出土遺物

(8) 調査の総括

今回の発掘調査は、これまでに本格的な発掘調査が行われていない追堀遺跡の第1次発掘調査となった。調査では最大深度360cmまで掘削し、遺物、遺構の確認を試みたところ、第2層中から須恵器、土師器が出土した。遺構は検出できなかった。調査後の平成29年(2017)5月16日(火)に、今回の調査地において、社会福祉施設建設に伴う工事立会を実施した。第1次発掘調査と同様に第1層、第2層が確認され、土師器片が少量出土したのみで、遺構は検出されなかった。以上の結果から、発掘調査及び工事立会ともに遺構は検出されず、本件工事は埋蔵文化財に影響を与えていないが、周辺に埋蔵文化財が存在する可能性が高いことを確認した。

今回の発掘調査で確認できた土層は、シルト層と砂礫層の互層で、砂礫層が主体であった。砂礫層は、かつてこの場所において自然流路が存在したことを示している。追堀遺跡の位置する烏川扇状地の扇央には、同様に自然流路の影響を受けた遺跡が複数存在する。安曇野市教育委員会は、穂高神社境内遺跡の発掘調査において、烏川の自然流路を利用した、本沢ほんざわまたは芝沢しばざわに由来すると考えられる水路の存在を報告した(安曇野市教委2018a)。

追堀遺跡の範囲内では、北部で柏原沢かしわばらざわから分流した大坪沢おおつぼざわが西から流下し、南部で柏原沢が同じく西から流下している。大坪沢が自然流路であるかは不明だが、穂高沢水系と同様に氾濫等によって流域に影響を及ぼしていることは十分に考えられる。また、平成20年(2008)に安曇野市教育委員会が実施した、八ツ口遺跡やぐち第2次発掘調査では、流路跡を検出しており、柏原沢の影響を考えている(安曇野市教委2010)。今回の発掘調査では、遺物片が出土したものの、大半が摩耗した破片であり、遺構は検出なかった。上記のとおり、柏原水系の影響を踏まえると、遺物は水流による二次堆積と考えられる。

追堀遺跡の周辺は、集落遺跡が多数存在している。大坪沢下流の三枚橋遺跡さんまいばしでは、6次にわたり発掘調査が行われ、主に弥生時代後期及び奈良時代～平安時代前半の集落跡が確認されているほか、八ツ口遺跡では、第2次発掘調査で、奈良時代～平安時代後期の集落跡が報告されている(安曇野市教委2010)。

一方で、柏原水系の上流にあたる追堀遺跡の西側には、大坪沢遺跡、長者池遺跡ちやうじゃいけが立地するが、本格的な発掘調査は行われていない。平成28年(2016)に安曇野市教育委員会が実施した、大坪沢遺跡の試掘調査では、二次堆積とみられる土器小破片が出土したのみで、遺構は確認されなかった(安曇野市教委2018b)。西側に明確な集落跡が確認されず、追堀遺跡の遺物の供給元は不明である。周辺の遺跡を含め、今後の発掘調査による遺構の検出が期待される。



1 調査地俯瞰（上が西）



2 調査地周辺（上が東）



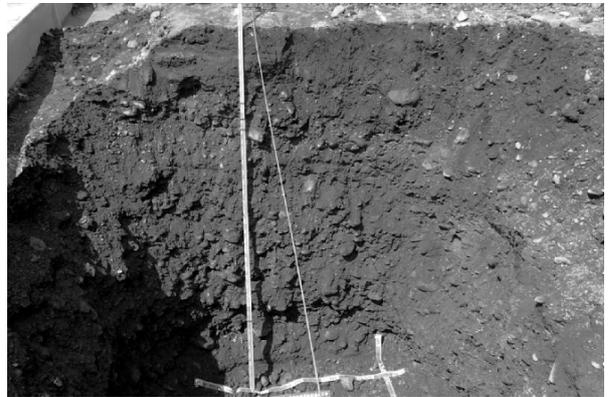
3 調査地（北西から）



4 調査地（西から）



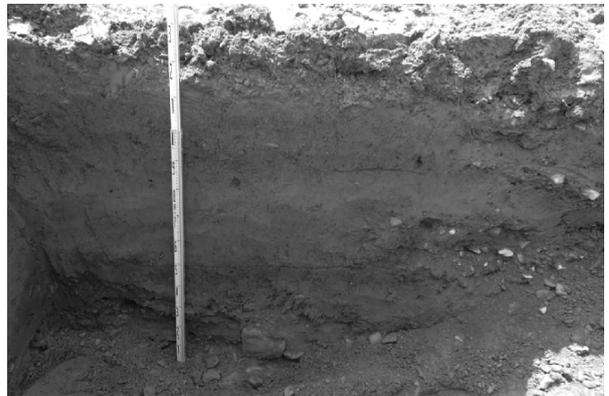
5 A トレンチ（南東から）



6 A トレンチ西壁土層



7 B トレンチ（東から）



8 B トレンチ南壁土層

2 ^{こせはば}小瀬幅遺跡第1次発掘調査（第1表□68）

（1）調査の概要

所在地	安曇野市豊科田沢4863番2
調査期間	平成29年（2017）7月28日～7月31日
調査面積	13㎡
調査契機	個人住宅
検出遺構	ピット2
出土遺物	弥生土器、須恵器、土師器、石鏃等

（2）調査の経緯と経過

今回の調査の契機となった土木工事は、個人住宅新築である。調査地は造成済みの宅地で、工事に伴う掘削箇所は、住宅の基礎部分である。住宅基礎工事に、約3.5×3.5mで、深度0.7mの面的な掘削部があり、埋蔵文化財に影響を与える恐れがあったため、記録作成のための発掘調査を実施した。

発掘調査における現場作業は、平成29年（2017）7月28日（金）及び7月31日（月）に、整理作業を平成29年（2017）8月1日（火）～平成31年（2019）3月29日（金）に実施した。平成29年度に図版整理、遺物の洗浄を、平成30年度に遺物注記、遺物実測図作成、写真撮影、報告書執筆を行い、報告書を発行し全事業を終了した。

第6表 小瀬幅遺跡発掘調査 事務手続き経過

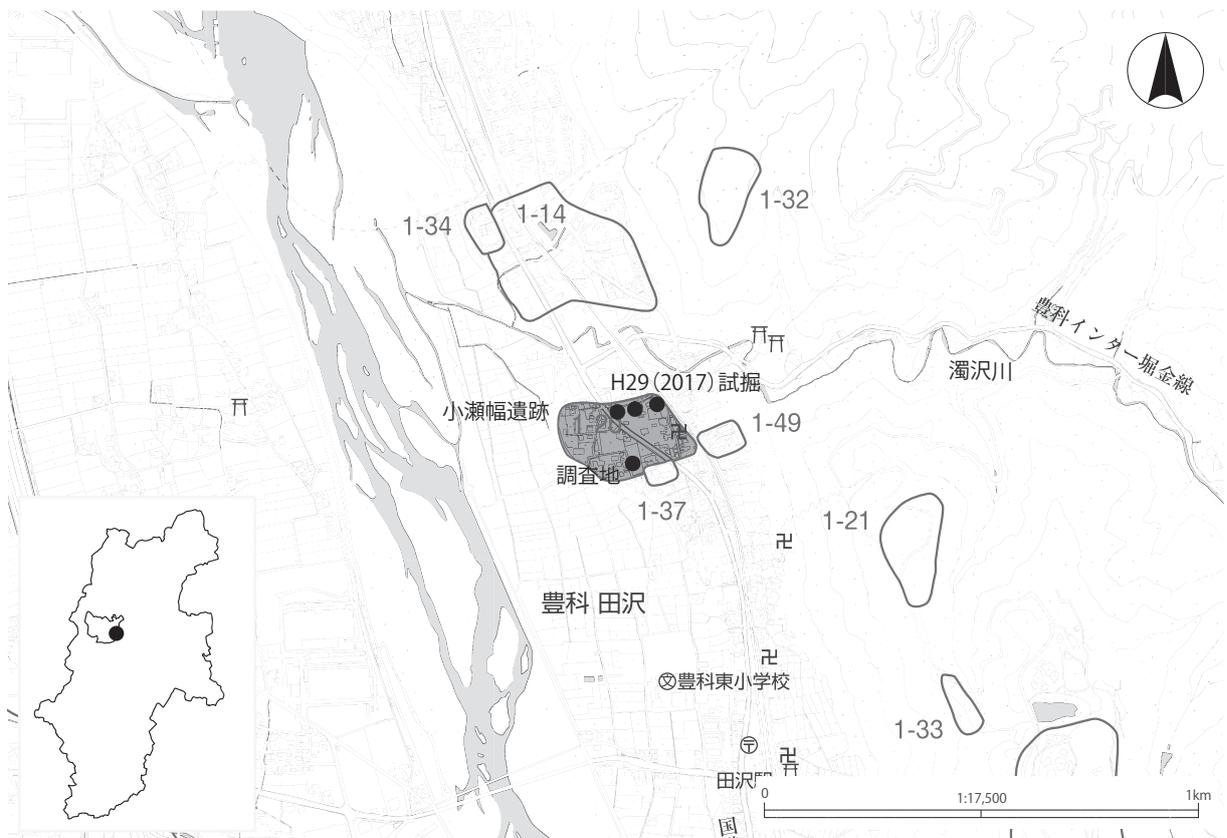
	年月日	内容
1	平成29年6月19日	「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出」が事業者から市教委に提出される。
2	平成29年6月21日	上記1届出を「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出について（小瀬幅遺跡）」にて、市教委教育長から県教委教育長に進達する。
3	平成29年6月26日	「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」にて県教委教育長から、記録作成のための発掘調査の指示通知が発出される。
4	平成29年6月28日	上記3通知を市教委にて受理する。
5	平成29年7月28日～7月31日	発掘調査を実施する。
6	平成29年8月18日	「発掘調査終了報告書」を市教委教育長から県教委教育長あて提出する。

(3) 遺跡の概要

小瀬幅遺跡は、安曇野市豊科田沢の犀川右岸段丘上に所在する弥生時代及び平安時代の遺物の散布地である。この遺跡では、これまでに本格的な発掘調査を実施した記録はないが、地表には弥生時代～平安時代の遺物が散乱している箇所がある。

小瀬幅遺跡第1次発掘調査後、平成29年（2017）に、安曇野市教育委員会が調査地の北約130mの地点で実施した試掘調査では、地表下約0.3mから時期不明のピット1基を確認した（第9図、第3章9参照）。

また、小瀬幅遺跡の北を流れる濁沢川（^にごりさわ ^たざわ 田沢川）の対岸の段丘上には^{まちだ}町田遺跡が所在する。町田遺跡では平成10年（1998）に豊科町教育委員会が砂防事業に際して発掘調査を実施し、弥生時代の集落跡を確認している（豊科町教委1999）。



第9図 小瀬幅遺跡の位置と周辺の遺跡（安曇野市埋蔵文化財包蔵地図（平成22年（2010）3月31日調整）を加工）

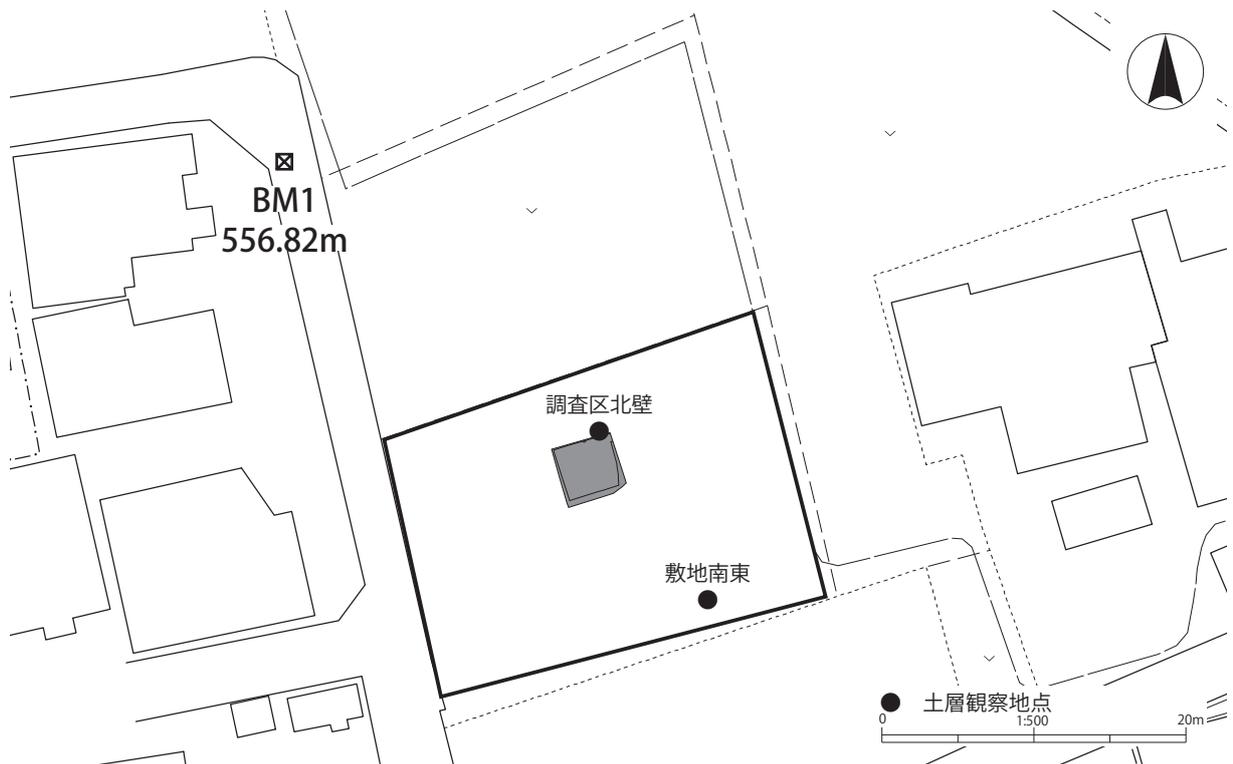
第7表 小瀬幅遺跡付近の遺跡

No.	遺跡名	種類	時代	No.	遺跡名	種類	時代
1-14	町田遺跡	集落跡	弥生・平安	1-33	上ノ山城跡	城館跡	中世
1-20	小瀬幅遺跡	散布地	弥生・平安	1-34	町田館跡	城館跡	中世
1-21	上ノ山北遺跡	散布地	縄文	1-37	花村氏館跡	城館跡	中世
1-32	田沢城跡	城館跡	中世	1-49	円満寺跡	社寺跡	中世

(4) 調査の方法

小瀬幅遺跡は、これまで本格的な発掘調査が行われておらず、事前の試掘が不可能であったため、発掘調査の契機となった土木工事のうち、面積約13㎡の面的な基礎掘削部において記録保存のための発掘調査を実施した。

発掘調査では、遺構の存在する深度が不明のため、工事計画深度まで建設用重機で掘削し、以深は人力で精査した。記録写真は、現場作業、整理作業ともにデジタルカメラを使用した。整理作業は、現場終了後に屋内で行った。



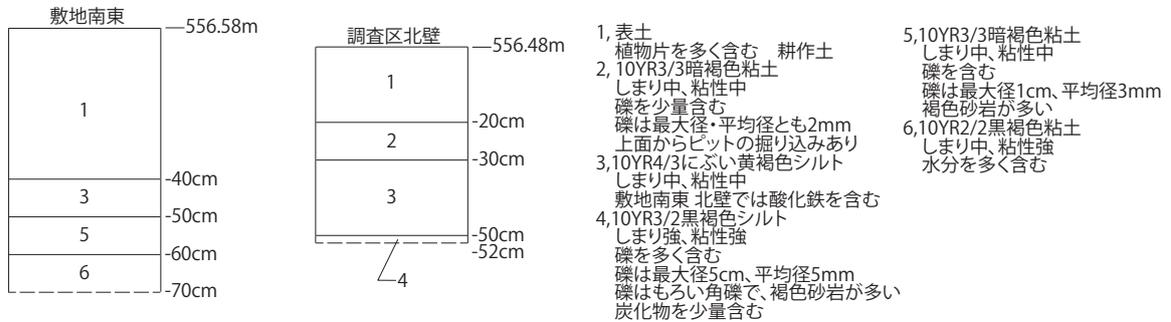
第10図 小瀬幅遺跡調査区配置図

(5) 調査体制

調査主体	安曇野市教育委員会
調査担当者	山下泰永（文化課課長補佐兼文化財保護係長）、土屋和章（文化課文化財保護係）
調査員	山下泰永、土屋和章、横山幸子、松田洋輔（以上、文化財保護係）
作業参加者	田多井智恵、宮下智美（以上、文化財保護係）

(6) 層序

今回の調査で観察できた土層の詳細は、第11図のとおりである。このうち第1層は旧耕作土であり、以深に第2～6層の自然堆積層が存在していた。自然堆積層はシルト、粘土からなり、調査区の北壁では第2層の粘土、第3層のシルトを掘り込むピット2基を確認した。

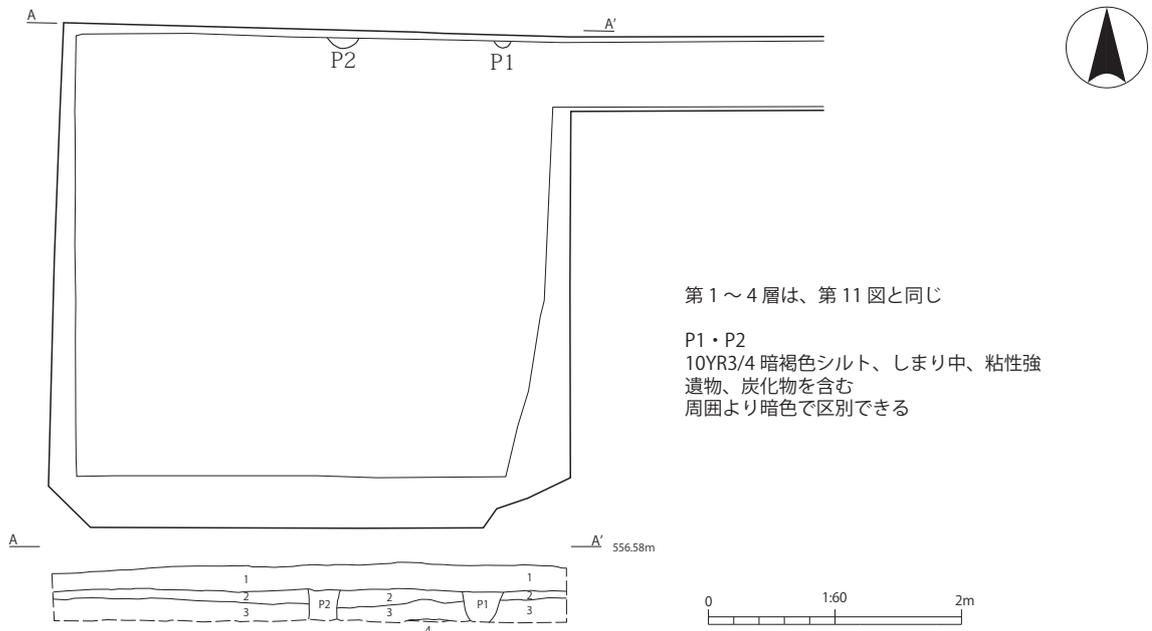


第11図 小瀬幅遺跡土層概念図

(7) 遺構

調査区の北壁において、及び調査区床面からピット2基を検出し、P1、P2とした。

P1、P2の掘り込みは第2層上面で、深度は20cmであった。ともに第2層、第3層を掘り込み、深さは不明である。ピット内の土層は1層のみで細分できなかった。炭化物を含み、それぞれ土器片がごく少量出土した。土器片は摩耗した破片のみであったため資料化できなかったが、赤彩等の特徴から、弥生土器と判断した。



第12図 小瀬幅遺跡調査区・セクション図

(8) 遺物

今回の小瀬幅遺跡第1次発掘調査では、調査区内からは少量の弥生土器の破片が出土したのみであったが、調査地及び周辺では多数の遺物を表面採集した。この中から弥生土器7点、須恵器9点、土師器3点、石器1点を資料化した(第13図1~20)。なお、古代の土器の分類は、小平(1990)の基準に従った(第8表)。

1~5は、弥生土器の甕破片で、いずれも外面が黒色である。1は、受け口状の口縁をもち、口縁部外面にLR縄文施文後に横方向に波状の単沈線をめぐらせる。頸部は、丁寧なナデの上に波状の沈線を描く。2~5は、外面に櫛描波状文を施している。2は、外面をハケ状工具で調整した後、櫛描波状文を描く。3は、外面を左から右に櫛描波状文、縦方向の櫛描沈線、櫛描波状文の順で施文する。6、7は、弥生土器の台付甕の台部破片である。7は、台部の先端がナデによって丸みを帯びる。1の受け口状口縁や、3の縦方向の櫛描沈線による区画などから、これらの資料は弥生時代中期後半に比定できる。

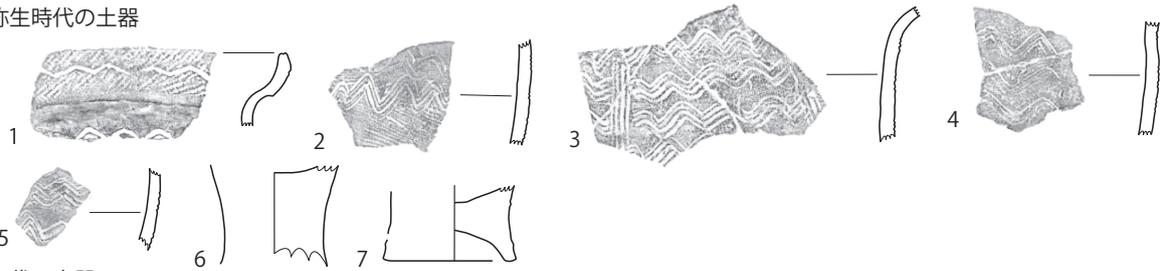
8~19は、古代の土器である。8は、口縁端部を折り曲げて成形した坏蓋Bである。端部はやや外反し、端面は丸みを帯びる。9~12は、坏Aである。10~12は糸切り痕を確認できる。13は、坏Bとした。高台の端面は角ばり、内傾する。14は、長頸壺Aで、幅0.8cmの口縁帯を作る。15、16は、瓶類の口縁部と推定した。16は、口縁部端面付近が摩耗しており、直下に段を有することから、高坏脚部の可能性もある。17は土師器坏Aで、底部が2.5cmと小さい。18、19は黒色土器A坏Aで、底部は回転糸切りである。須恵器坏蓋B、坏A及び坏Bの存在、また、黒色土器A坏A及び土師器坏Aの存在から、古代における小瀬幅遺跡の存続は古代7~8期(9世紀後半)を中心として前後の期間を含む年代幅といえる。

石器は、石鏃1点を資料化した。20は、チャート製で、長さ2cm、最大厚0.4cmの有茎鏃である。

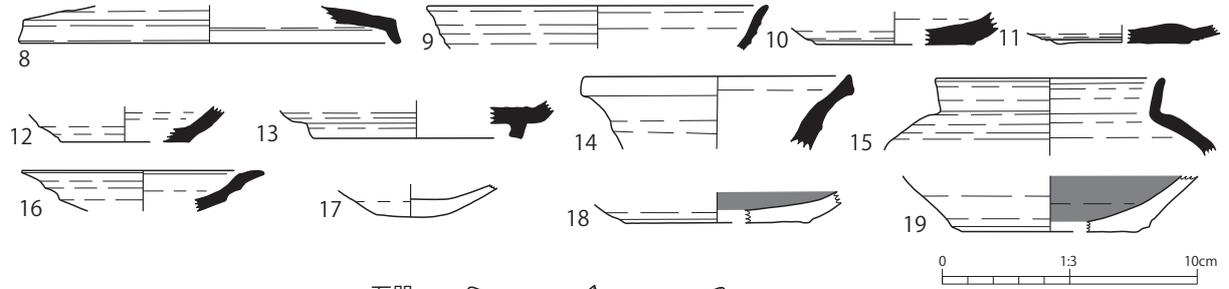
第8表 器種分類(小平1990から引用)

種類	器種名	説明
須恵器	坏蓋 B	口縁端部を折り曲げる。天井部に扁平なつまみを付ける。
	坏 A	直線的に開く体部をもつ無高台の坏、底部は①へら切り未調整、②へら切り+へら削り、③静止糸切り、④回転糸切りなどの調整がある。
	坏 B	箱型の体部に高台を付した形態で、坏蓋 B とセットをなす。法量により I・II・III・IV・V・VI と分類できる。
	長頸壺 A	体部から細い頸部が直立気味にのびるもので、体部が球状を呈するものをいう。口縁部で折り返し口縁帯を作る。肩に把手を付すものなどがある。
土師器	坏 A	ロクロ調整の底部回転糸切りの坏で、体部が直線的に開く。法量により II、III に分けられる。黒色土器坏 A、須恵器坏 A と同形態をなす。
黒色土器 A	坏 A	切り離しは回転糸切りで多くは未調整であるが、糸切りの後底面・底部端面をへら削り調整するものもある。法量により I・II に分けられる。

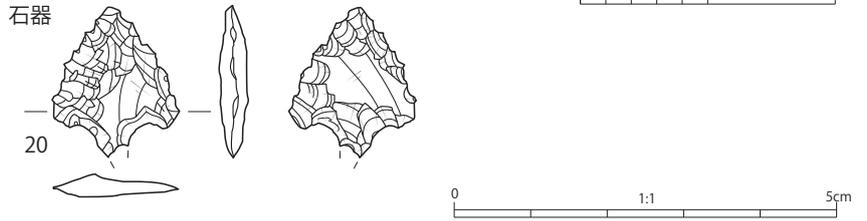
弥生時代の土器



古代の土器

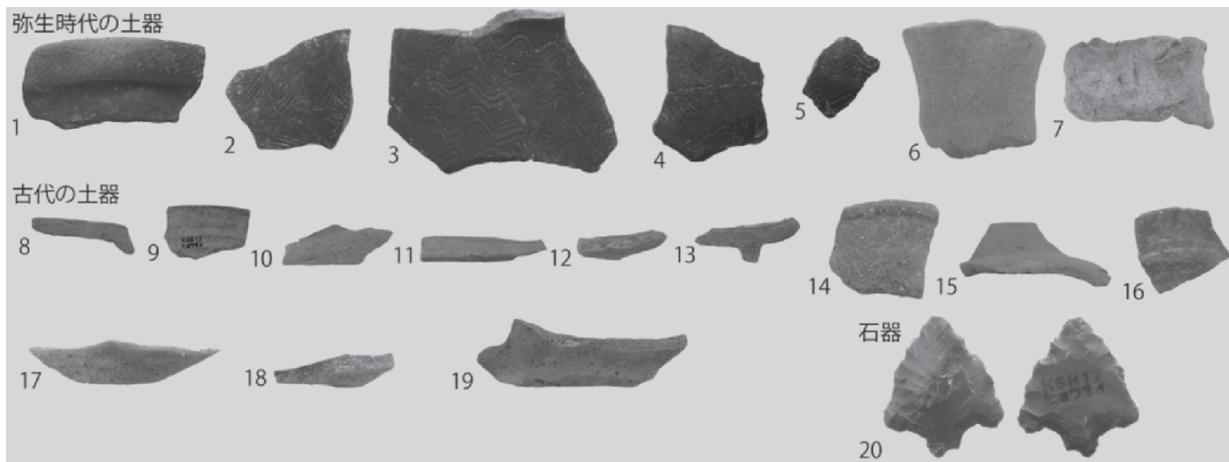


石器



第13図 小瀬幅遺跡表面採集遺物

弥生時代の土器



古代の土器

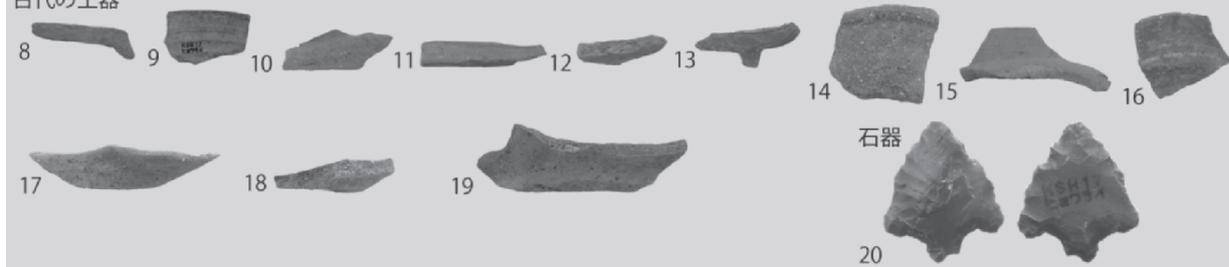


写真2 小瀬幅遺跡表面採集遺物（1～19縮尺1/3、20のみ1/1）

第2章 小規模発掘調査

第9表 小瀬幅遺跡表面採集土器観察表

No.	出土位置	種類	器種	残存部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	技法の特徴		
								外面調整	内面調整	底部
1	表採	弥生土器	甕	口縁～頸部	不明	不明	(2.9)	LR 縄文 + 沈線文 + 波状文	ナデ + ミガキ	不明
2	表採	弥生土器	甕	体部	不明	不明	(4.2)	工具ナデ + 波状文	ナデ	不明
3	表採	弥生土器	甕	頸部～体部上半	不明	不明	(5.4)	ナデ + 波状文	ナデ	不明
4	表採	弥生土器	甕	体部上半	不明	不明	(4.6)	ナデ + 波状文	ナデ	不明
5	表採	弥生土器	甕	体部上半	不明	不明	(3.3)	ナデ + 波状文	ナデ	不明
6	表採	弥生土器	台付甕	台部	不明	不明	(4.0)	ナデ	ナデ	不明
7	表採	弥生土器	台付甕	台部	不明	不明	(3.0)	ナデ	ナデ	不明
8	表採	須恵器	坏蓋 B	体部	15.0	—	(1.5)	ロクロナデ	ロクロナデ	不明
9	表採	須恵器	坏 A	口縁～体部	13.4	不明	(1.7)	ロクロナデ	ロクロナデ	不明
10	表採	須恵器	坏 A	体部～底部	不明	6.0	(1.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り
11	表採	須恵器	坏 A	体部～底部	不明	5.4	(0.8)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り
12	表採	須恵器	坏 A	体部～底部	不明	5.0	(1.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り
13	表採	須恵器	坏 B	体部～底部	不明	8.2	(1.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り
14	表採	須恵器	長頸壺 A	口縁～頸部	10.4	不明	(2.9)	ロクロナデ	ロクロナデ	不明
15	表採	須恵器	瓶類	口縁～体部	9.0	不明	(3.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	不明
16	表採	須恵器	瓶類	口縁～体部	9.5	不明	(1.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	不明
17	表採	土師器	坏 A	体部～底部	不明	2.5	(1.3)	ロクロナデ?	ロクロナデ?	回転糸切り?
18	表採	黒色土器 A	坏 A	体部～底部	不明	7.2	(1.2)	ロクロナデ	ロクロナデ + ミガキ + 内黒	回転糸切り
19	表採	黒色土器 A	坏 A	体部～底部	不明	6.8	(2.2)	ロクロナデ	ロクロナデ + ミガキ + 内黒	回転糸切り

() は残存している部分の法量。

第10表 小瀬幅遺跡表面採集石器観察表

No.	出土位置	種別	石材	色調	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
20	表採	石鏃	チャート	黒色	2.0	1.6	0.4	0.9	基部欠損

(9) 調査の総括

今回の発掘調査は、これまでに本格的な発掘調査が行われていない小瀬幅遺跡の第1次発掘調査となった。調査では、開発計画の掘削深である深度0.7mまで掘削し、調査区の北壁で暗褐色の粘土層と下位に黄褐色シルト層を掘り込むピット2基を検出した。ピット中からは摩耗した土器片が1点ずつ出土しているが、時代を推定できる遺物は確認できなかったため、遺構の年代は不明である。排出土や、調査地周囲の表面採集では、弥生土器、石器類、須恵器、土師器が得られた。

土層の観察では、シルト、粘土が露出し、砂礫層は確認できなかった。調査地は犀川右岸の河岸段丘上で、筑摩山地から犀川へ流入する濁沢川との合流点付近にあたる。犀川の氾濫原からは約11～15m高く、濁沢川右岸の段丘面とほぼ同じである。濁沢川右岸の町田地籍では、江戸時代以降に製瓦が盛んに行われ、段丘上の粘土を採掘していた。今回、調査地の2箇所での土層観察では、第2層、第5層及び第6層において暗褐色～黒褐色のシルトと粘土を確認した。濁沢川の左岸である小瀬幅遺跡の立地と、粘土等の堆積状況は、町田地籍と類似している。

また、今回、表面採集によって得られた弥生時代の遺物は、弥生時代中期後半の様相を示している。限られた資料のため詳細は不明だが、豊科町教育委員会が、町田遺跡第1次発掘調査報告書で報告した弥生時代中期後半の遺構、遺物は、この報告に掲載した弥生土器と内容的に類似する（豊科町教委

1999)。また、同報告では、過去に町田遺跡内で採集された平安時代の須恵器、土師器、黒色土器、灰釉陶器を掲載している。これらは、上記の町田地籍における製瓦の粘土採取の過程で得られたもので、瓦粘土中から出土したものと推察できる。町田遺跡第1次発掘調査では、平安時代の遺構は確認されていないが、付近に当該期の遺跡が存在したことは十分に考えられる。しかし、小瀬幅遺跡第1次発掘調査では、時代を推測できる明確な遺構を確認できなかった。

一方で、小瀬幅遺跡内に弥生時代、平安時代の集落が存在し、町田遺跡と立地・時代の面で、関係が深い可能性も十分に考えられる。今後、小瀬幅遺跡及び町田遺跡の調査が行われ、それぞれの遺跡の時代や性格が明らかになることで、両者の関係や遺跡の広がりが判明することを期待する。



1 調査区遠景（西から）



2 調査区遠景（東から）



3 調査区全景（上が北）



4 第3層下面検出（上が北）



5 北壁土層（南から）



6 基礎部分土層北壁

3 ^{かいど}海渡遺跡第1次発掘調査（第1表□99）

（1）調査の概要

所在地	安曇野市明科中川手 ^{なかがわて} 5819番1の一部
調査期間	平成29年（2017）9月11日
調査面積	7 m ²
調査契機	個人住宅
検出遺構	なし
出土遺物	なし

（2）調査の経緯と経過

今回の調査の発端となった土木工事は、個人住宅新築である。工事に伴う主な掘削箇所は、浄化槽の設置箇所と住宅基礎部分である。住宅基礎の掘削規模は深度約0.6m、幅1m以下であったが、浄化槽に係る掘削箇所は、約1.5×1.8mで埋蔵文化財に影響を与える恐れがあったため、記録作成のための発掘調査を実施した。

発掘調査における現場作業は、平成29年（2017）9月11日（月）に実施した。資料化できる遺物は出土しなかったため、平成29年度に図版作成のみを行い、平成30年度に報告書を執筆し全作業を終了した。

第11表 海渡遺跡発掘調査 事務手続き経過

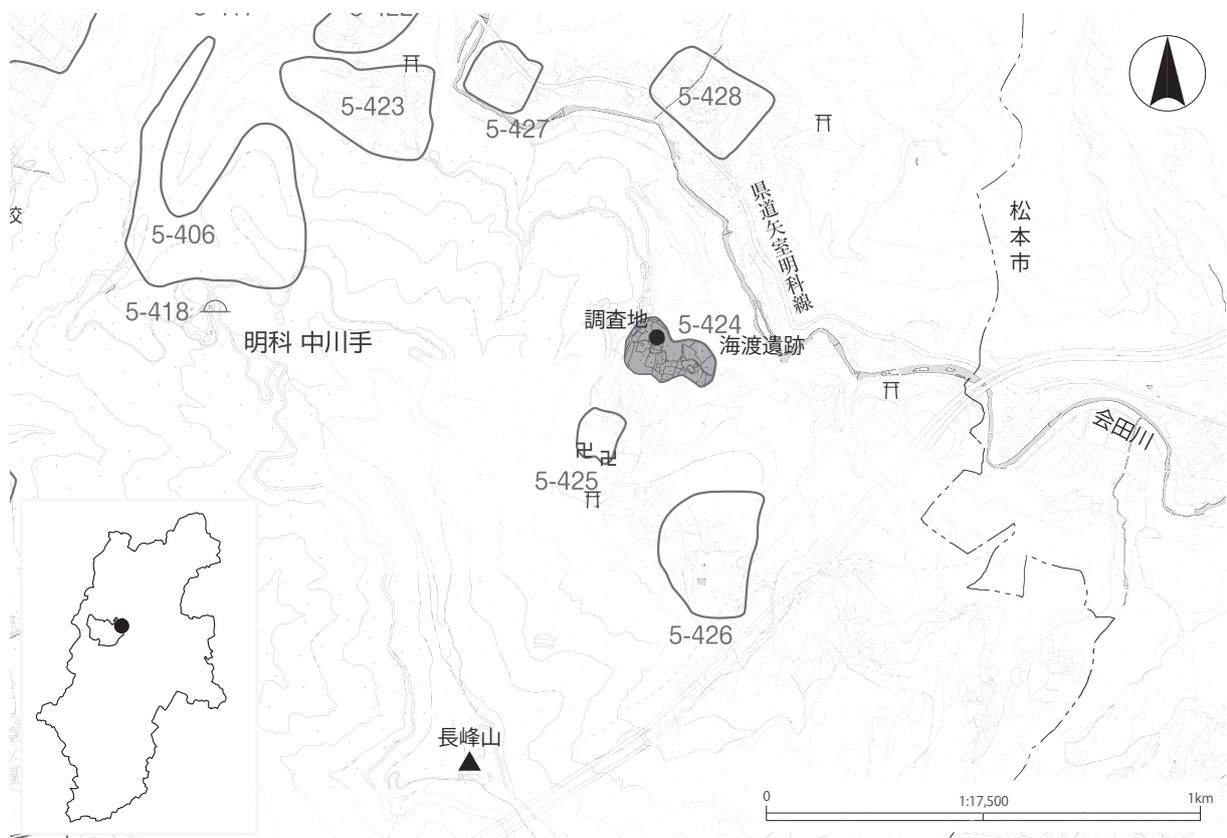
	年月日	内容
1	平成29年6月28日	「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出」が事業者から市教委に提出される。
2	平成29年6月28日	上記1届出を「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出について（海渡遺跡）」にて、市教委教育長から県教委教育長に進達する。
3	平成29年7月4日	「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」にて県教委教育長から、記録作成のための発掘調査の指示通知が発出される。
4	平成29年7月5日	上記3通知を市教委にて受理する。
5	平成29年9月11日	発掘調査を実施する。
6	平成29年9月13日	「発掘調査終了報告書」を市教委教育長から県教委教育長あて提出する。

(3) 遺跡の概要

海渡遺跡は、長峰山の北東麓にあり、会田川の左岸段丘上に所在する中世の城館跡である。この遺跡で、本格的な発掘調査が実施された記録はなく、試掘調査も実施された例はない。遺跡内は中山間地域で、山林、農地、古くからの屋敷地が混在している。

海渡遺跡の南には、中世に遡る寺院である光久寺と、同じく中世の清水古屋敷といった遺跡が、海渡遺跡の北、会田川の右岸には中沢古屋敷、平上ノ段館といった中世の遺跡が存在する。このうち光久寺は、鎌倉時代以降に現在地に移転してきたとされ、現在は長野県宝「木造日光菩薩立像・木造月光菩薩立像」が祀られている。これら2軀の仏像は肩部の軀部断面に文保元年（1317）銘をもつ。

なお、施工箇所には、今回の土木工事の前に古い住宅が建っていたため、土壌はある程度の改変を受けていた。



第14図 海渡遺跡の位置と周辺の遺跡（安曇野市埋蔵文化財包蔵地図（平成22年（2010）3月31日調整）を加工）

第12表 海渡遺跡付近の遺跡

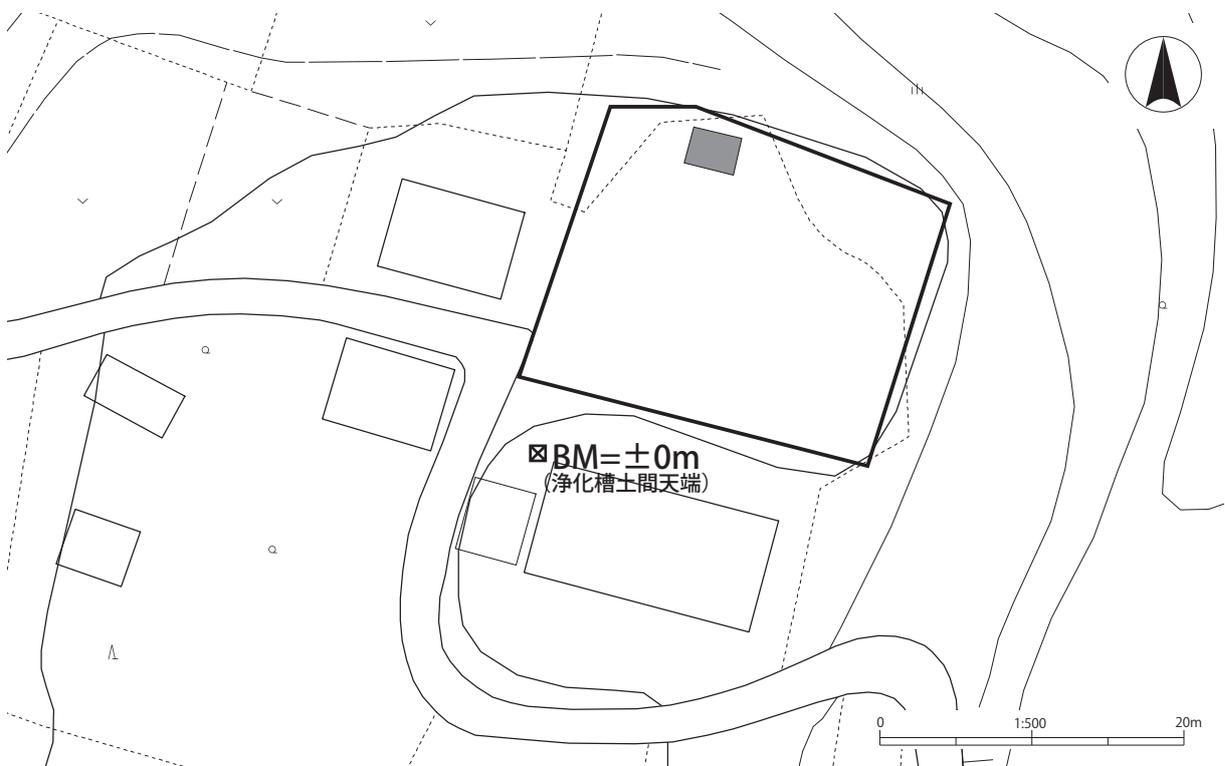
No.	遺跡名	種類	時代	No.	遺跡名	種類	時代
5-406	塔ノ原城址	城館跡	中世・近世	5-425	光久寺	社寺跡	中世
5-418	能念寺3号墳	古墳	古墳	5-426	清水古屋敷	城館跡	中世
5-423	城下遺跡	散布地	縄文	5-427	平上ノ段館	城館跡	中世
5-424	海渡遺跡	城館跡	中世	5-428	中沢古屋敷	城館跡	中世

(4) 調査の方法

調査原因である事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地内であり、事前の試掘が不可能であったことから記録保存のための発掘調査を実施した。

調査の契機となった土木工事のうち、計画面積2.7㎡、掘削深2mの浄化槽設置箇所が最も深い掘削である。その他の掘削では、住宅基礎が計画されていたが、深度約0.6m、幅1m以下と狭小であったため、工事に伴う掘削計画のうち、敷地北側の浄化槽の埋設予定箇所において調査を実施した。調査時の現地協議の結果、調査面積は計画面積を上回る7㎡となった。

発掘調査では、遺跡の存在する深度が不明のため、遺構を検出しながら建設用重機によって計画深度まで掘り下げた。遺構を検出した時点で精査する調査計画であったが、計画深度までの掘削で遺構は存在しなかった。現場の記録写真は、デジタルカメラを使用して撮影した。



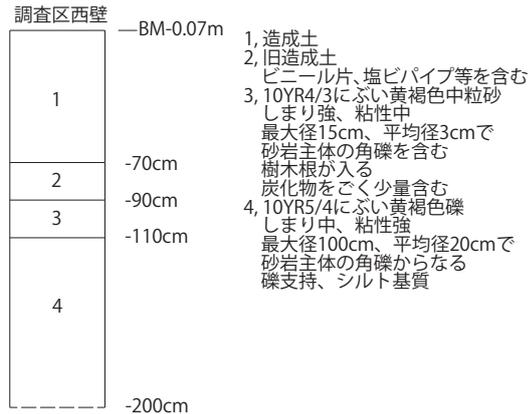
第15図 海渡遺跡調査区配置図

(5) 調査体制

調査主体	安曇野市教育委員会
調査担当者	山下泰永（文化課課長補佐兼文化財保護係長）、横山幸子（文化課文化財保護係）
調査員	山下泰永、松田洋輔、横山幸子（以上、文化財保護係）
作業参加者	田多井智恵（以上、文化財保護係）

(6) 層序

今回の調査で観察できた土層の詳細は、第16図のとおりである。地表下約70cmまでが造成土であり、直下約20cmはビニール片等を含む旧造成土であった。地表下約90cm以深では自然堆積層となり、厚さ約20cmの砂層と、厚さ100cm以上の礫層が存在していた。遺物、遺構は確認されなかった。第4層にあたる礫層は平均で約20cmの角礫からなり、最大で100cmの巨礫を含む。



第16図 海渡遺跡土層概念図

(7) 調査の総括

今回の発掘調査は、これまでに本格的な発掘調査が行われていないため詳細が不明な海渡遺跡の第1次発掘調査となった。調査では最大深度200cmまで掘削したが、造成土以下の自然堆積層は砂層及び礫層のみで、遺物、遺構は検出できなかった。第4層の礫層は砂岩主体の角礫からなり、最大で100cmの礫が含まれていた。

今回の調査で観察できた礫層は、調査地西側の長峰山塊に産する砂岩と特徴が一致している。この礫層は、淘汰の悪い角礫から構成されている点から、本調査地は西側山地からの崩落堆積物上に立地していると考えられる。また、調査地北側は会田川の河岸段丘の段丘崖で急傾斜地になっており、調査地は上記の崩落地の先端付近にあたる。

海渡遺跡の南には、同時代の遺跡とされる清水古屋敷及び光久寺が立地している。海渡遺跡は河岸段丘崖の直上にあり、現在の清水集落の入口に位置することから、清水古屋敷の領地の北側境界付近の遺跡と推察できる。しかし、今回の発掘調査では、中世に関連する遺構、遺物は確認しなかった。このことから、清水集落における中世遺構は、今回の調査地の南側に分布することが推測できる。



1 調査地近景 (北から)



2 西壁土層

4 ^{しんばやし}新林遺跡第4次発掘調査（第1表□149）

（1）調査の概要

所在地	安曇野市穂高牧1884番1
調査期間	平成29年（2017）11月24日
調査面積	65㎡
調査契機	その他開発（駐車場整備）
検出遺構	なし
出土遺物	なし

（2）調査の経緯と経過

今回の調査の契機となった土木工事は、駐車場造成であり、耕作土の剥ぎ取りと、雨水浸透層の設置、アスファルト舗装の計画である。うち雨水浸透層は、幅約1m、長さ70m、深さ1mで計画されており、埋蔵文化財に影響を与える恐れがあったため、記録作成のための発掘調査を実施した。

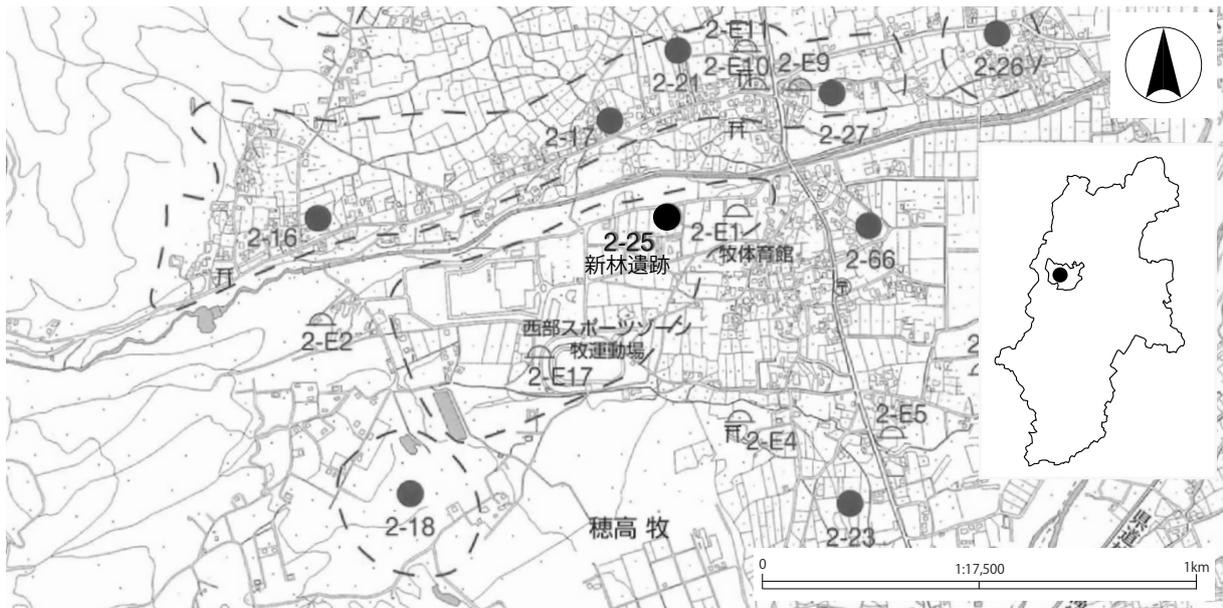
現場作業は、平成29年（2017）11月24日（金）に実施した。資料化できる遺物が出土しなかったため、平成29年度に図版作成のみを行い、平成30年度に報告書を執筆し全作業を終了した。

第13表 新林遺跡発掘調査 事務手続き経過

	年月日	内容
1	平成29年10月13日	「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出」が事業者から市教委に提出される。
2	平成29年10月16日	上記1届出を「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出について（新林遺跡）」にて、市教委教育長から県教委教育長に進達する。
3	平成29年10月23日	「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」にて県教委教育長から、記録作成のための発掘調査の指示通知が発出される。
4	平成29年10月25日	上記3通知を市教委にて受理する。
5	平成29年11月24日	発掘調査を実施する。
6	平成29年12月7日	「発掘調査終了報告書」を市教委教育長から県教委教育長あて提出する。

（3）遺跡の概要

新林遺跡は、飛騨山地の東麓、川窪沢川右岸に所在する縄文時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに3次にわたる発掘調査が実施されており、縄文時代中期前半～中期最終末の集落跡が確認されている（穂高町郷土資料館編1987、穂高町誌編纂委1991、安曇野市教委2017b）。安曇野市教育委員会は、第3次発掘調査の報告書で、遺跡の東側では縄文中期後半の遺構が比較的高密度で存在し、中央部の空白地帯を挟んで、西側では縄文中期最終末の遺構が、東側より低い密度で分布すると推測している（安曇野市教委2017b）。



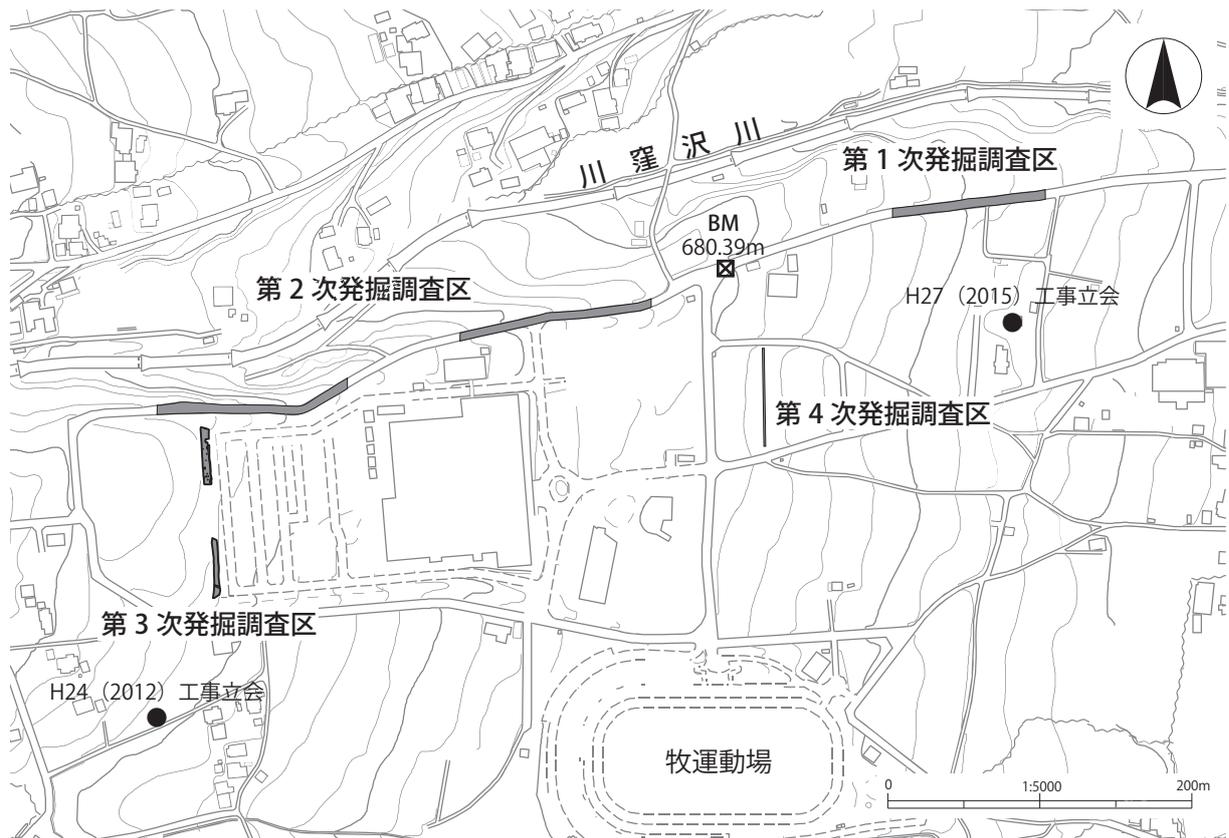
第17図 新林遺跡の位置と周辺の遺跡（安曇野市埋蔵文化財包蔵地地図（平成22年（2010）3月31日調整）を加工）

第14表 新林遺跡付近の遺跡

No.	遺跡名	種類	時代	No.	遺跡名	種類	時代
2-16	山崎遺跡	集落跡	縄文中期～後期	2-E1	E1号墳（西牧塚）	古墳	古墳
2-17	草深遺跡	集落跡	縄文中期～後期	2-E2	E2号墳（三郎塚）	古墳	古墳
2-18	十三屋敷遺跡	集落跡	縄文	2-E4	E4号墳（鎌塚）	古墳	古墳
2-21	堰下遺跡	集落跡	縄文・古墳	2-E5	E5号墳（上人塚）	古墳	古墳
2-23	南原遺跡	集落跡	縄文前期後半	2-E9	E9号墳（前田塚）	古墳	古墳
2-25	新林遺跡	集落跡	縄文早期～後期	2-E10	E10号墳（寺島塚）	古墳	古墳
2-26	荒神堂遺跡	集落跡	縄文	2-E11	E11号墳（神谷塚）	古墳	古墳
2-66	寺前・北田遺跡	散布地	中世	2-E17	E17号墳（ショウシハウ）	古墳	古墳

第15表 新林遺跡発掘調査記録

次数	調査年	調査原因	遺構・遺物の概要	文献
第1次	昭和61年 (1986)	道路改良	竪穴住居跡（縄文中期前半）2 竪穴住居跡（縄文中期後半）16 集石遺構、溝、土壇	穂高町郷土資料館編1987 穂高町誌編纂委員会編1991
第2次	昭和61年 (1986)	道路改良	竪穴住居跡1、敷石住居跡、縄文土器	未報告
第3次	平成28年 (2016)	立体駐車場	敷石住居跡1、溝状遺構、縄文土器	安曇野市教委2017b
第4次	平成29年 (2017)	駐車場	なし	安曇野市教委2019（本書）



第18図 新林遺跡調査区位置図

(4) 調査の方法

新林遺跡第4次発掘調査の調査原因である駐車場造成の予定地が、周知の埋蔵文化財包蔵地内であり、土木工事における掘削が幅約1m、長さ約70m、掘削深約1mの計画であったため、事前の試掘調査を行わず、記録保存のための発掘調査を実施した。

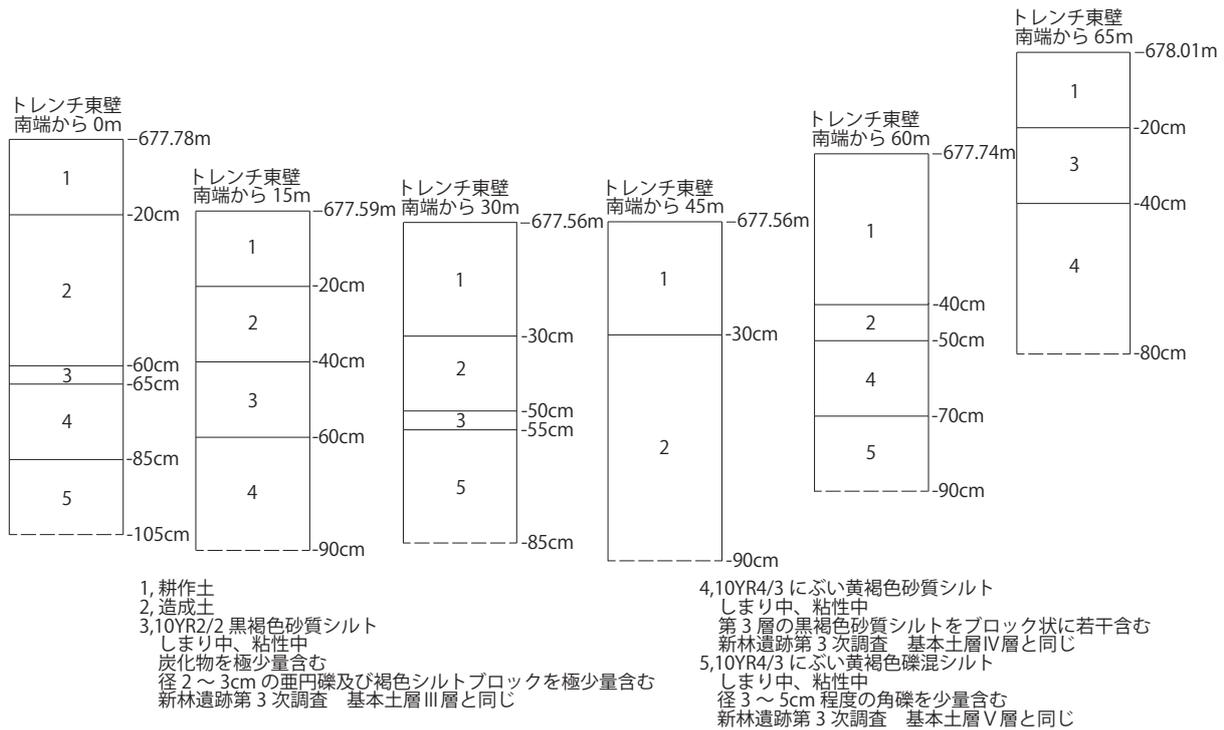
発掘調査では、遺跡の存在する深度が不明のため、遺構が検出されるまで建設用重機により土を除去したが、遺構が検出されなかったため、建設用重機によって計画深度まで掘り下げた。現場の記録写真はデジタルカメラを使用した。

(5) 調査体制

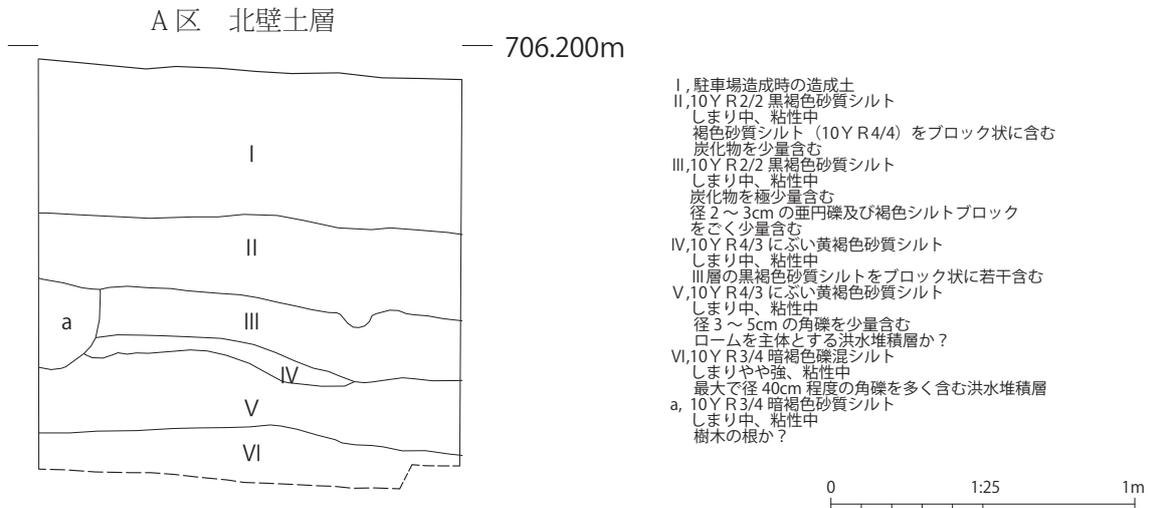
調査主体	安曇野市教育委員会
調査担当者	山下泰永（文化課課長補佐兼文化財保護係長）、横山幸子（文化課文化財保護係）
調査員	山下泰永、土屋和章、松田洋輔、横山幸子（以上、文化財保護係）
作業参加者	田多井智恵（以上、文化財保護係）

(6) 層序

今回の調査で観察できた土層の詳細は、第19図のとおりである。トレンチ長が約70mであったため、トレンチの南端から15m 間隔で土層の観察を行った。第1層、第2層には耕作土及び造成土が、第3～5層までは自然堆積層が存在していた。第3層は黒褐色のシルトで、第4層、第5層のにぶい黄褐色のシルトと色調による区別が容易である。第3層、第4層、第5層は、新林遺跡第3次発掘調査の基本土層Ⅲ層、Ⅳ層、Ⅴ層にそれぞれ対比できる（第20図、安曇野市教委2017b）。新林遺跡第3次発掘調査では、Ⅲ層で遺物の包含を確認し、遺構を検出しているが、今回の調査では、Ⅲ層に対比できる第3層に遺物は包含されず、他の層でも遺構、遺物は確認できなかった。



第19図 新林遺跡土層概念図



第20図 新林遺跡第3次発掘調査土層図 (安曇野市教委2017b から転載)

(7) 調査の総括

今回の調査では、耕作土等の下位に、第3～5層の厚さ60cm以上のシルト層を確認した。第3層、第4層、第5層はそれぞれ、新林遺跡第3次発掘調査における土層のⅢ層、Ⅳ層、Ⅴ層と一致した。

新林遺跡第3次発掘調査では、Ⅲ層のみに遺物が包含されており、Ⅲ層で縄文時代中期後葉のピットや敷石住居跡を検出した（安曇野市教委2017b）。今回の調査では、Ⅲ層に相当する第3層を確認したが、遺物は包含されておらず、遺構も検出できなかった。新林遺跡内は、表土が広く取り去られており、第3層が残存している箇所は少ないため、今回の調査地に第3層が残存し、遺構、遺物が存在しないことを確認できたのは、遺構分布を確認するうえで大きな成果であった。

また、安曇野市教育委員会は、平成24年度に第3次発掘調査地の南で、個人住宅建設に伴う工事立会を実施している。この工事立会で縄文時代早期及び前期の土器が出土したことから、この時期の遺構が付近に分布する可能性が高いとした（第18図、安曇野市教委2017b）。今回の調査で、Ⅳ層、Ⅴ層に相当する第4層、第5層も観察したが、いずれの層からも遺構、遺物は確認しなかった。このため、本調査地には、縄文時代中期中葉以前の遺構等は存在しないといえる。

新林遺跡第1～3次発掘調査では、今回の調査地の北側と西側で、縄文時代中期の遺構が確認されている。第1次、第2次発掘調査地付近の市道沿いの地表面には、遺物が散布している。平成27年度に、安曇野市教育委員会が、今回の調査地の東で、個人住宅建設の際に工事立会を実施している（第18図）。この場所では、今回の調査と同様にⅢ層に相当するシルト層が存在したが、遺構、遺物は確認されなかった。これまでに縄文時代中期の遺構、遺物が確認された市道は、北を流れる川窪沢川に沿う形で東西方向に伸びており、遺構の分布も川窪沢川に無関係ではないと考えられる。今回の発掘調査は面積が狭小であるため、遺構分布を検討することは難しいが、工事立会の結果と併せて今後の資料としたい。

第2章 小規模発掘調査



1 調査区遠景（北から）



2 調査区遠景（南東から）



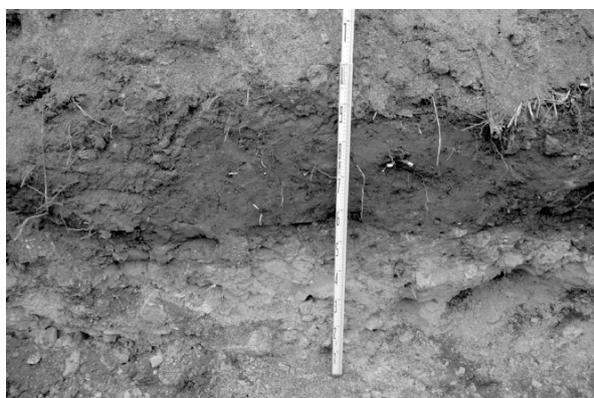
3 東壁土層（南端から0m地点）



4 東壁土層（南端から15m地点）



5 東壁土層（南端から30m地点）



6 東壁土層（南端から60m地点）



7 完掘状況（北から）



8 完掘状況（南から）

第3章 試掘調査等

1 かわぎしまさる したくち 川岸最氏宅地遺跡 (第1表■3)



第21図 川岸最氏宅地遺跡試掘位置図

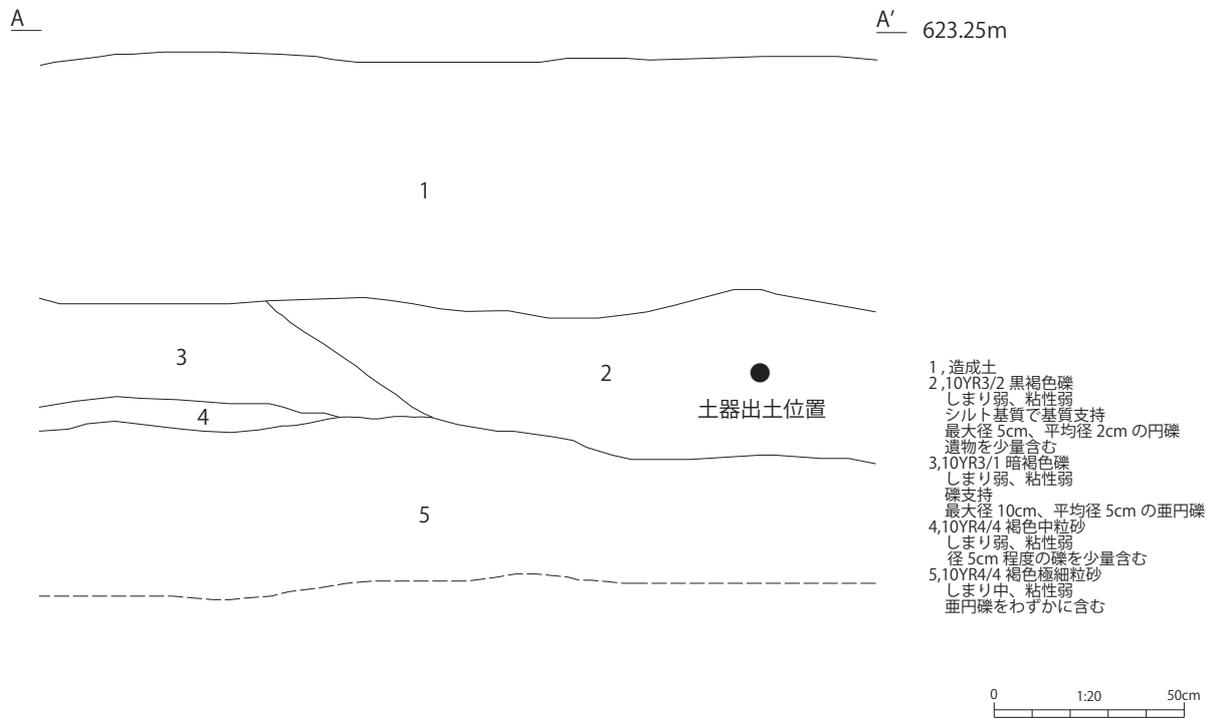
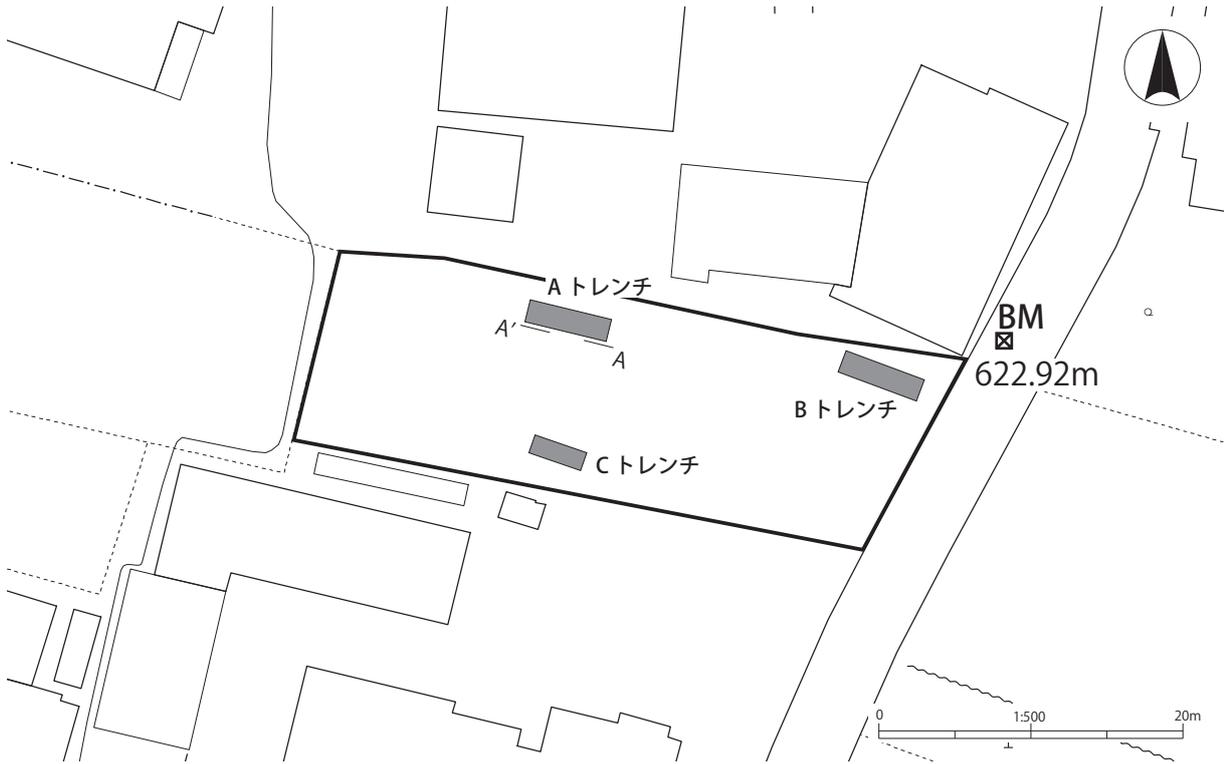
所在地	安曇野市 <small>ゆたか</small> 三郷温4197番1		
調査期間	平成29年(2017)4月4日		
調査面積	19㎡	調査契機	宅地造成
作業参加者	山下泰永、土屋和章、横山幸子、松田洋輔、田多井智恵		

(1) 概要

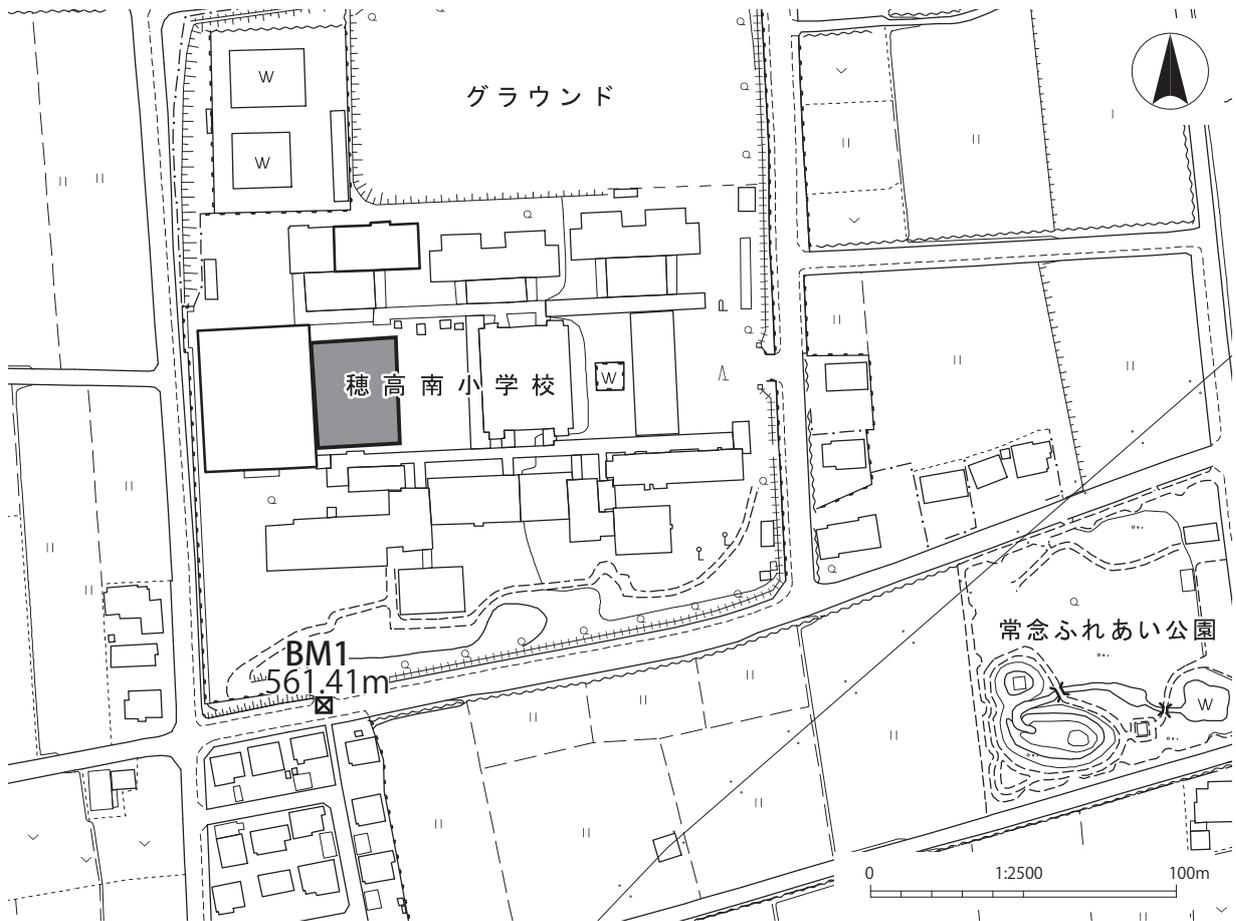
川岸最氏宅地遺跡は、黒沢川扇状地扇央くろざわに所在する弥生時代の遺物の散布地である。この遺跡では、これまでに本格的な発掘調査が実施された記録はない。

宅地造成に先立ち、調査地に3箇所の特レンチ(A～C)を設定して調査した。A及びB特レンチで、弥生土器小片をごく少量包含する礫層(第2層)を確認した。A特レンチ南壁の観察から、この礫層は自然堆積であり、人為的な掘り込みでない判断できる。

上記の結果から、本件調査地に明確な遺構はないため、今回の宅地造成では本調査不要と判断した。



2 芝宮南遺跡 (第1表■25)



第24図 芝宮南遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市穂高7217番 1		
調査期間	平成29年 (2017) 5月20日		
調査面積	28㎡	調査契機	学校建設
作業参加者	山下泰永、土屋和章、横山幸子、松田洋輔、田多井智恵		

(1) 概要

芝宮南遺跡は、烏川扇状地扇央に所在する弥生時代及び平安時代の集落跡である。この遺跡では、平成26年 (2014) に穂高南小学校プール建築工事に際して発掘調査を実施し、弥生時代の遺構、遺物を確認した (安曇野市教委2016b)。学校の敷地内では、既に最大厚 2 m 程度の切土造成が行われているが、発掘調査結果から遺構面は学校敷地造成前の地表面から約 3 m の深度にあることが判明している。

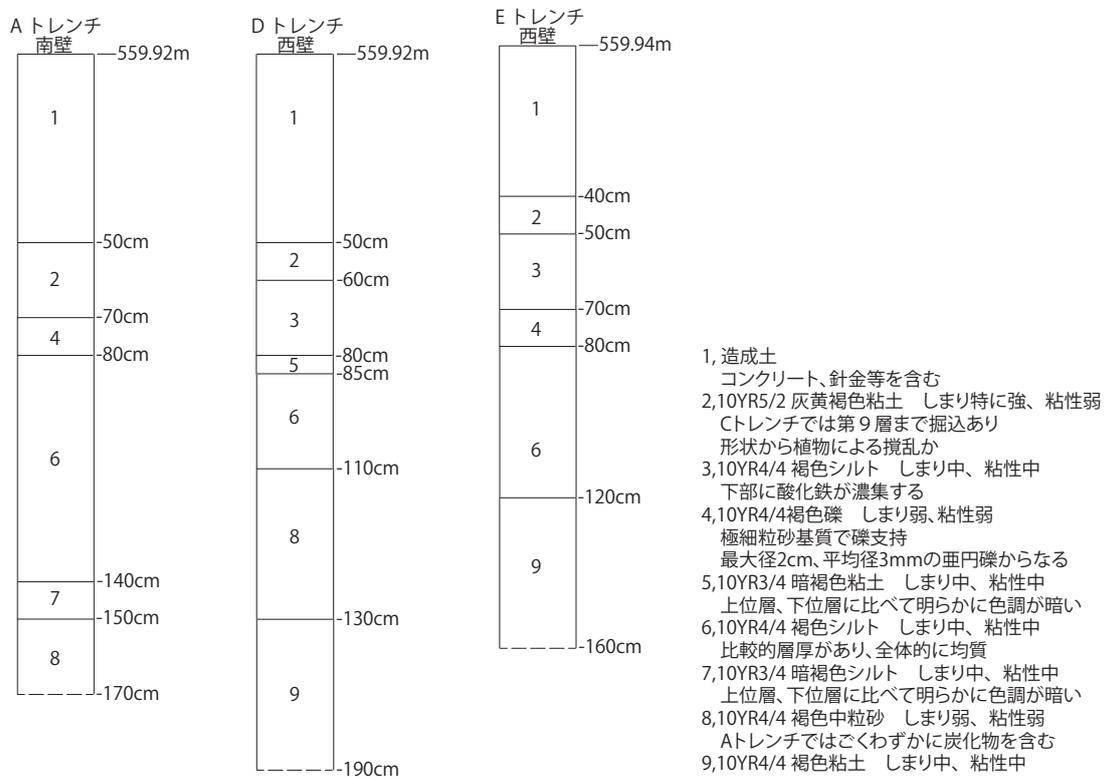
今回は、小学校校舎の渡り廊下等の建設に先立ち、調査地に 5 箇所の特レンチ (A～E) を設定して調査した。本遺跡周辺では、古墳時代後期～平安時代の遺構が存在する場合、酸化鉄の集中する層の下位で検出されることが判明している。今回の調査では、現地表面から約 1.7 m 掘り下げた。0.5～0.6 m の深さで酸化鉄の集中する層が確認されたため、以下の層では特に注意して遺構等の検出に努めたが、い

第3章 試掘調査等

ずれのトレンチからも遺構、遺物は検出されなかった。上記の結果から、本件調査地に埋蔵文化財は存在しないと考えられ、今回の校舎建設等の工事では、本調査不要と判断した。



第25図 芝宮南遺跡トレンチ配置図



第26図 芝宮南遺跡土層概念図

3 みなみまつばら 南松原遺跡 (第1表■48)



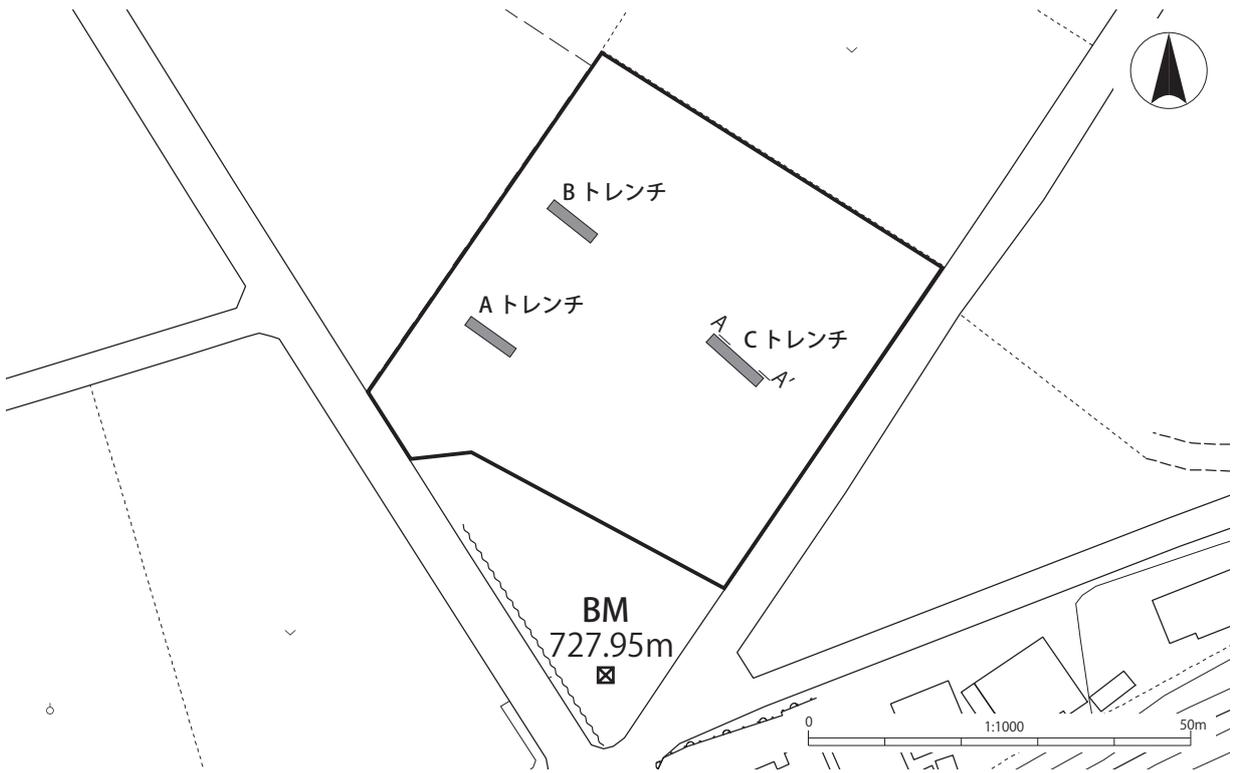
第27図 南松原遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市三郷小倉 ^{おぐら} 1917番1		
調査期間	平成29年(2017)6月27日		
調査面積	33㎡	調査契機	その他農業関係事業
作業参加者	山下泰永、土屋和章、横山幸子、松田洋輔、田多井智恵		

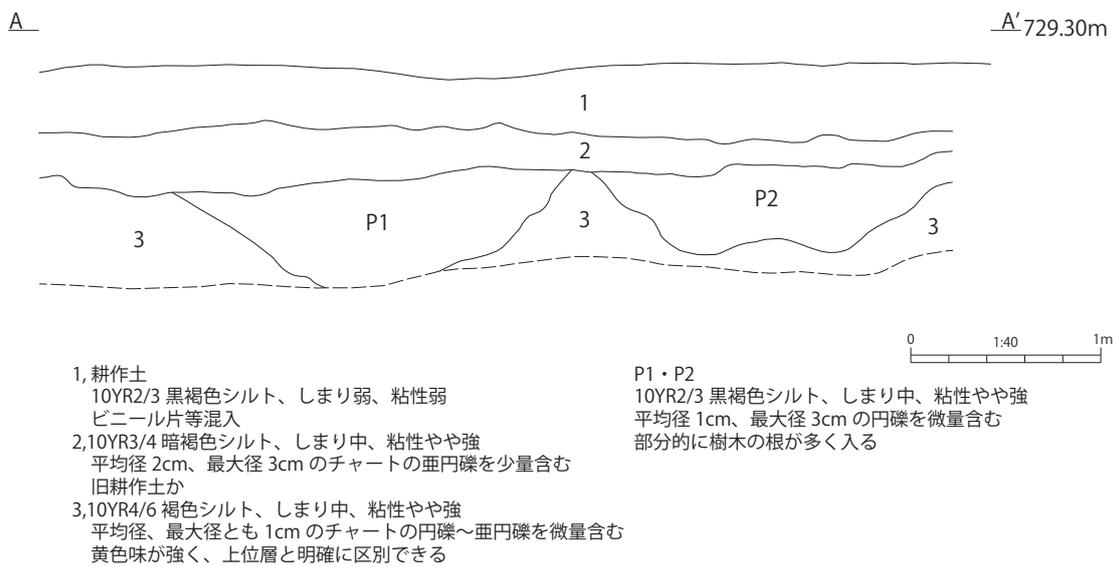
(1) 概要

南松原遺跡は、黒沢川左岸に所在する縄文時代の集落跡である。この遺跡では、昭和45年(1970)に、調査地の南接地において三郷村教育委員会が発掘調査を実施しており、縄文時代中期の集落跡が確認された(三郷村誌編纂会1980、三郷村教委1999)。

農地造成等に先立ち、3箇所の特レンチ(A~C)を設定して遺構、遺物の検出を試みたところ、全特レンチで層厚50~60cmの農地整備時の造成土とみられる土層を確認した。C特レンチでは、第3層を掘り込む幅180cm程度のピットを確認した。覆土中に遺物、炭化物はなく、樹木の根が多く入ること、ピットの形状が不定形であることから、樹木の痕跡と考えられる。また、C特レンチの排土から、縄文土器小破片を2点採取した。以上の結果から、本件工事では発掘調査不要と判断したが、調査地付近に縄文時代中期の集落跡が存在しているため、今後の土木工事では注意が必要である。



第28図 南松原遺跡トレンチ配置図



第29図 南松原遺跡 C トレンチセクション図

4 中在地遺跡 (第1表■56)



第30図 中在地遺跡試掘位置図

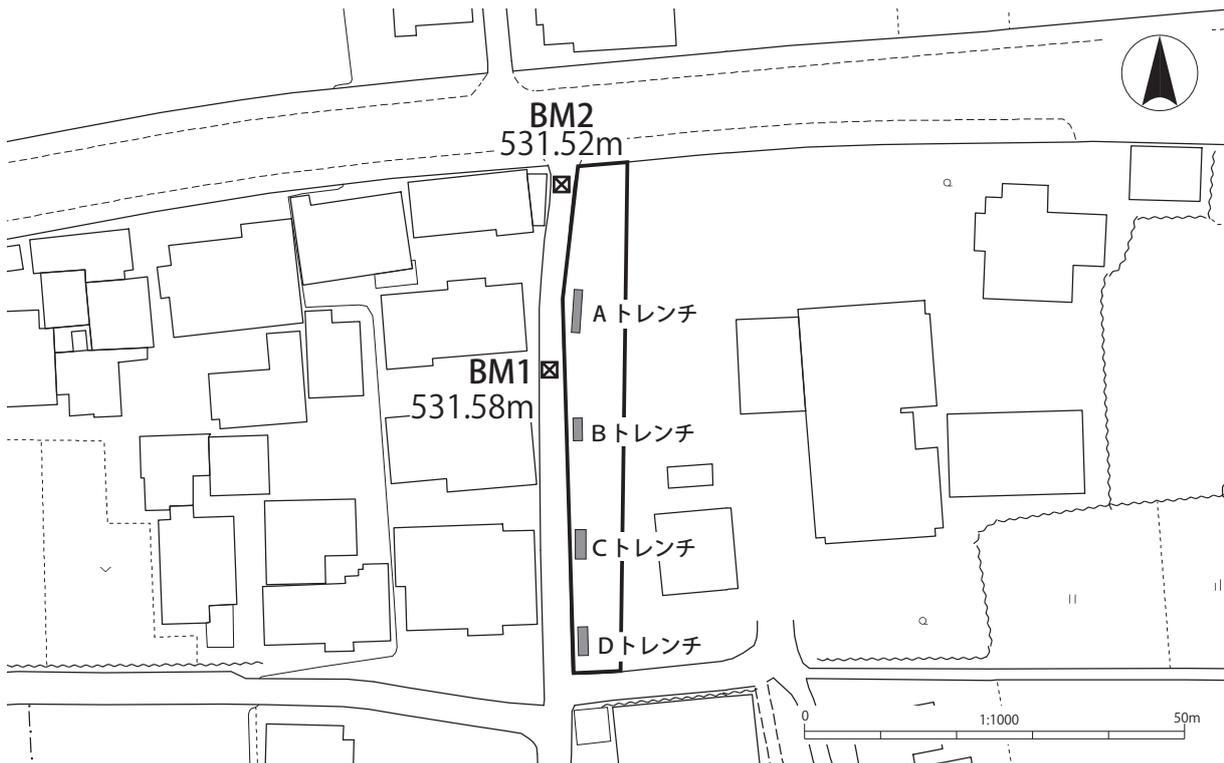
所在地	安曇野市穂高740番1外1筆		
調査期間	平成29年(2017)7月12日		
調査面積	20㎡	調査契機	道路
作業参加者	山下泰永、土屋和章、横山幸子、松田洋輔、田多井智恵		

(1) 概要

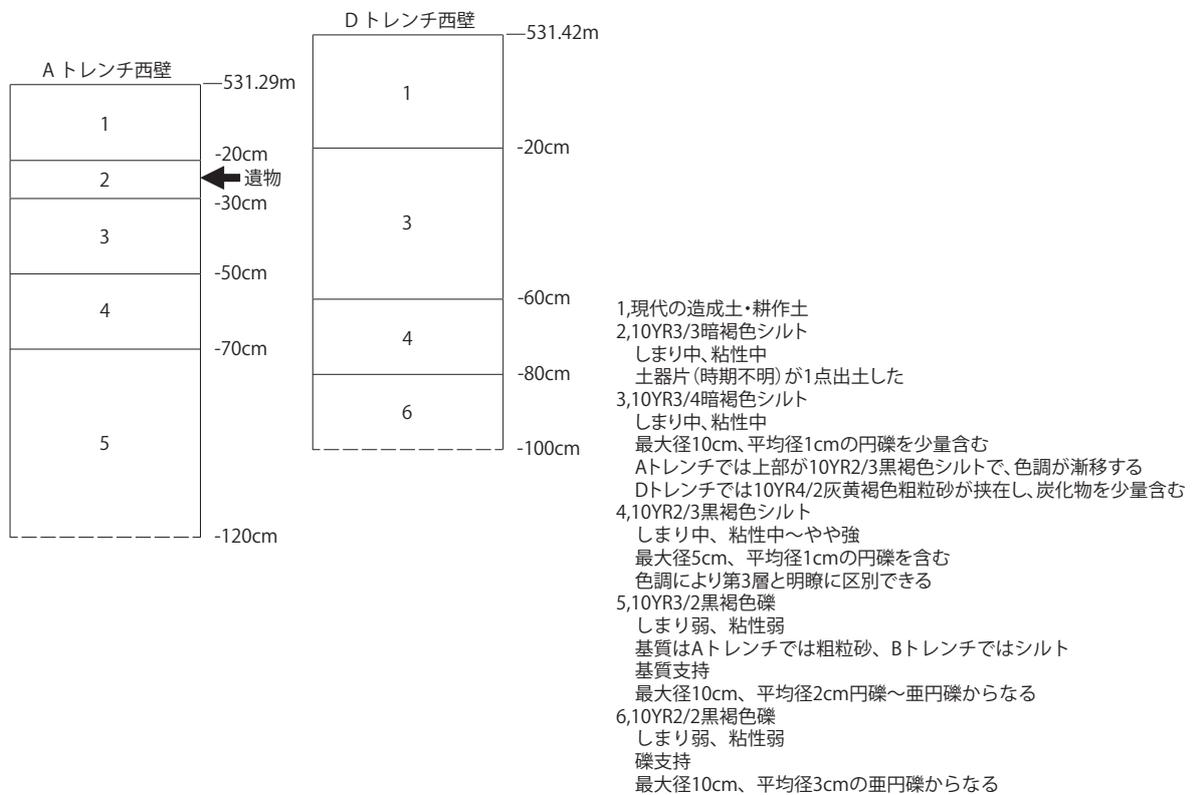
中在地遺跡は、烏川扇状地扇端に所在する縄文時代及び古墳時代、奈良時代、平安時代の集落跡である。この遺跡では、本格的な発掘調査が実施された記録はない。北に隣接する正島遺跡^{しょうじま}では、発掘によって、本調査地から約100m東の地点で古墳時代の建物跡を確認している（長野県豊科建設事務所・穂高町教委1987）。

市道拡幅に先立ち、調査地に4箇所のトレンチ（A～D）を設定して、最大深度120cmまで詳細に調査したが、遺構は検出できなかった。Aトレンチの地表下約20～30cmで時期、器種不明の土器小破片1点が出土した。B～Dトレンチでは、遺物は確認できなかった。

上記の結果から、本調査地に明確な遺構は存在せず、本件の道路改良工事では発掘調査は不要と判断した。



第31図 中在地遺跡トレンチ配置図



第32図 中在地遺跡土層概念図

5 穂高古墳群 B24号墳 (第1表■64)



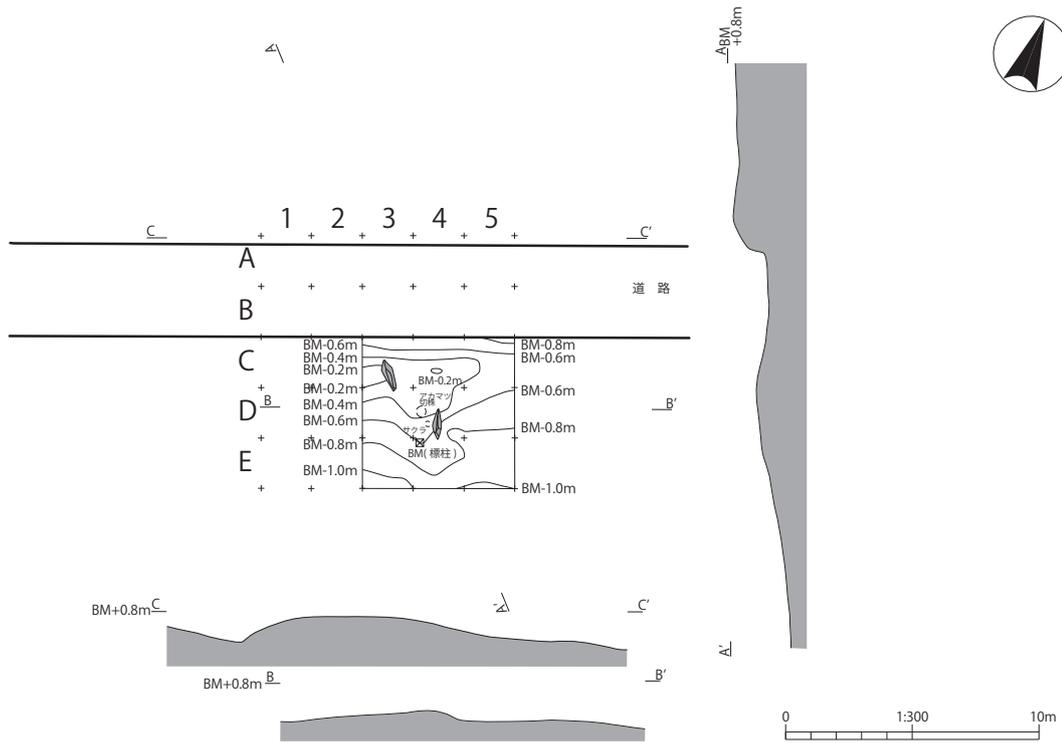
第33図 穂高古墳群 B24号墳試掘位置図

所在地	安曇野市穂高 ^{ありあけ} 有明2186番96		
調査期間	平成29年（2017）7月10日～7月24日		
調査面積	28㎡	調査契機	個人住宅
作業参加者	山下泰永、土屋和章、横山幸子、松田洋輔、田多井智恵、宮下智美、勝野辰雄、細尾みよ子、白鳥章		

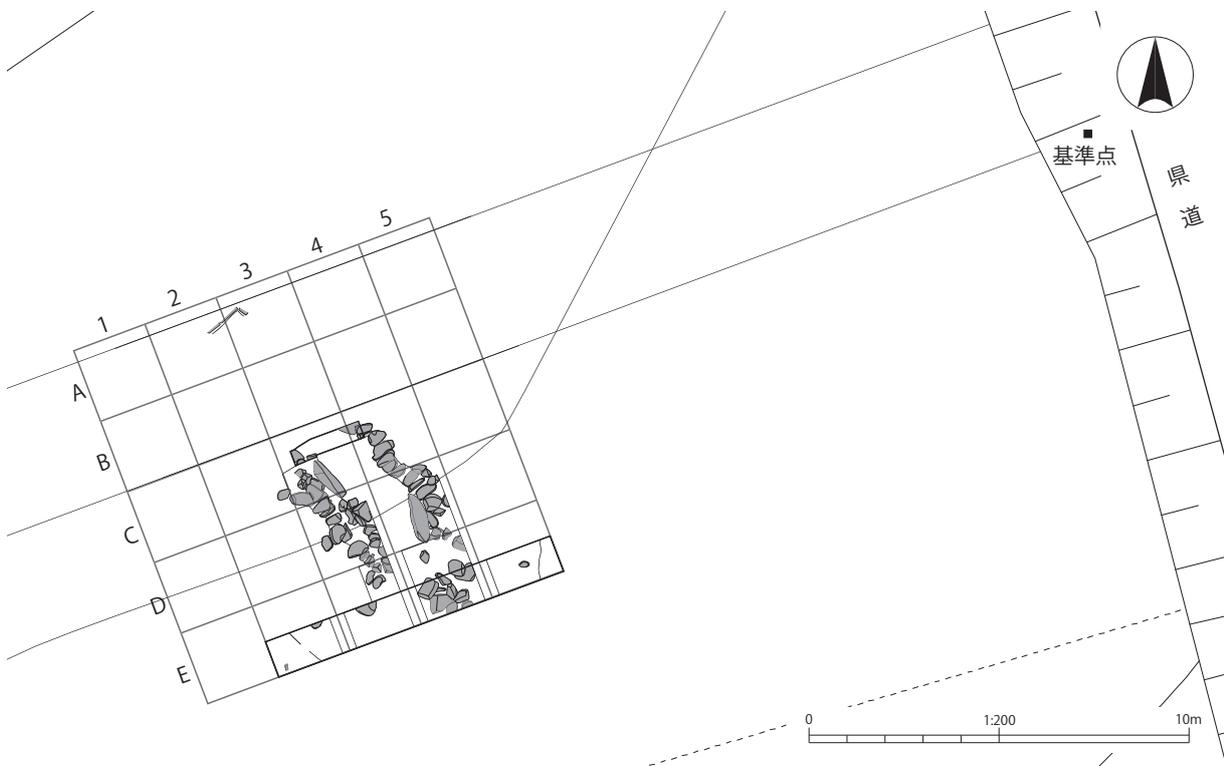
(1) 概要

穂高古墳群 B24号墳は、古墳時代後期の円墳である。昭和30年代に、開道により北側の大半が失われたが、道路北側に奥壁が残存している。『穂高町の古墳』では、石室は長さ5.5m、墳丘は径14.0m、高さ1.0mと報告されている（穂高町教委1970）。この古墳では、平成21年（2009）に安曇野市教育委員会が試掘調査を実施した（安曇野市教委2010）。この結果、調査区内で明確な遺構は確認できず、表土から須恵器小破片1点及び土器破片1点を採集した。

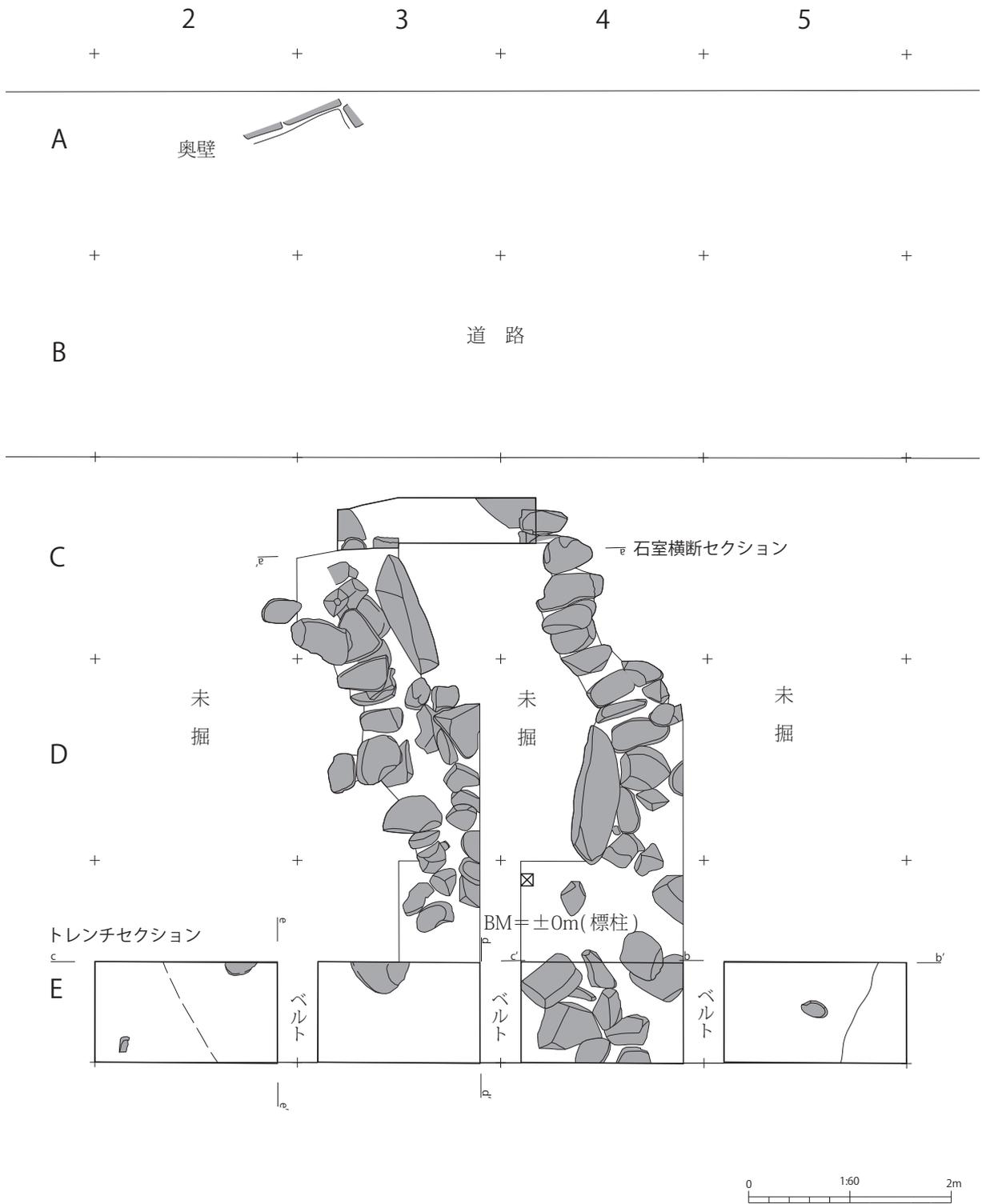
今回は、個人住宅建設に先立ち、墳丘及び石室の残存状況確認のための調査を行った。現況地形の等高線測量後、石室周辺の清掃及び石室の側壁上面を検出した（第34～36図）。また、前庭部の清掃及びトレンチ調査で、閉塞部からの崩落石と考えられる集石を確認した。上記の結果から、事業者と保護協議を継続し、古墳に新たな影響を与えない位置で住宅を建設することとした。



第34図 穂高古墳群 B24号墳調査前現況図



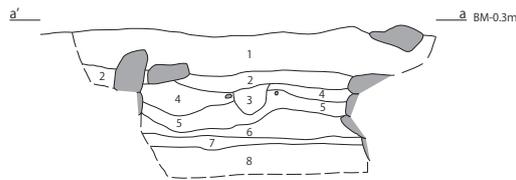
第35図 穂高古墳群 B24号墳グリッド配置図



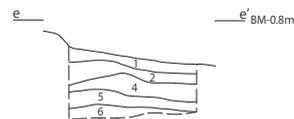
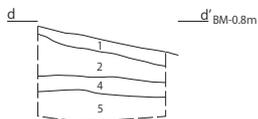
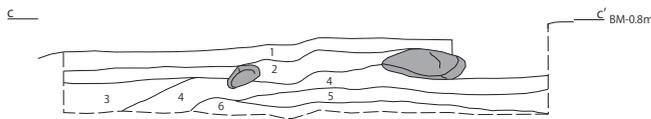
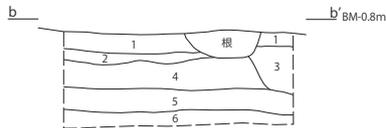
第36図 穂高古墳群 B24号墳石室検出図

第3章 試掘調査等

石室横断セクション



トレンチセクション



石室横断セクション

- 1, 表土
草本、樹木の根が全面に入る
- 2, 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂、しまりやや強、粘性なし
マサが主体、最大径 5cm 平均径 3mm の花崗岩亜円礫を多く含む
- 3, 10YR4/4 褐色中粒砂、しまりやや強、粘性なし
マサが主体、最大径 1cm 平均径 3mm の花崗岩角礫を多く含む
わずかに炭化物を含む
- 4, 10YR3/4 暗褐色粗粒砂～極粗粒砂、しまりやや強、粘性なし
マサが主体、最大径 4cm 平均径 2mm の花崗岩亜円礫を多く含む
- 5, 10YR4/4 褐色中粒砂～粗粒砂、しまりやや強、粘性なし
マサが主体、最大径 3cm 平均径 2mm の花崗岩亜円礫を多く含む
- 6, 10YR2/3 黒褐色粗粒砂～極粗粒砂、しまりやや強、粘性なし
マサが主体、最大径 1cm 平均径 2mm の花崗岩角礫を多く含む
- 7, 10YR5/6 黄褐色礫、しまり弱、粘性なし
新鮮なマサのみで構成
最大径 2cm 平均径 2mm の鉤物形を残している亜角礫からなる
- 8, 10YR4/4 褐色中粒砂、しまり中、粘性なし
マサが主体、最大径 2cm 平均径 2mm の花崗岩角礫を多く含む
炭化物を含む

トレンチセクション

- 1, 表土
草本、樹木の根が全面に入る
- 2, 10YR4/6 褐色中粒砂、しまりやや強、粘性なし
マサが主体、最大径 1cm 平均径 2mm の花崗岩角礫を含む
- 3, 10YR4/4 褐色中粒砂、しまり中、粘性なし
第2層より暗い色調で区別できる
マサが主体、最大径 5cm 平均径 3mm の花崗岩角礫を含む
- 4, 10YR3/4 暗褐色中粒砂、しまりやや強、粘性なし
マサが主体、最大径 3cm 平均径 2mm の花崗岩角礫を含む
- 5, 10YR5/6 黄褐色礫、しまり弱、粘性なし
ほぼマサで構成
最大径 5cm 平均径 3mm の角礫からなる
- 6, 10YR4/4 褐色中粒砂、しまり中、粘性なし
マサが主体、最大径 1cm 平均径 2mm の花崗岩角礫を多く含む



第37図 穂高古墳群 B24号墳セクション図



1 調査地全景 (南から)



2 石室全景（南から）



3 右側壁（南から）



4 左側壁（南から）



5 b-b' 断面（南東から）



6 c-c' 断面（南から）

(2) 調査の方法

本件調査は、穂高古墳群 B24号墳の所在する敷地内で個人住宅建設の計画があるため、墳丘及び石室の残存状況及び規模を確認することを目的とし、調査前地形の等高線測量、墳丘の清掃、石室上面の検出及び石室堆積土の断面観察を実施した。記録の作成のため、敷地北辺ラインを基準として2×2mの任意グリッドを設定した。任意の基準点は、安曇野市穂高有明2186番96の北辺と主要地方道塩尻鍋割穂高線（県道）との境界杭とし、基準点から敷地北辺にそって西に27.0m 地点をC1とした。

石室付近の墳丘清掃は、石室側壁の上端を検出した時点で終了した。また、石室が市道に寸断されている地点に土層観察用トレンチを設定し、石室内堆積土の観察と記録作成を行った。

(3) 遺構

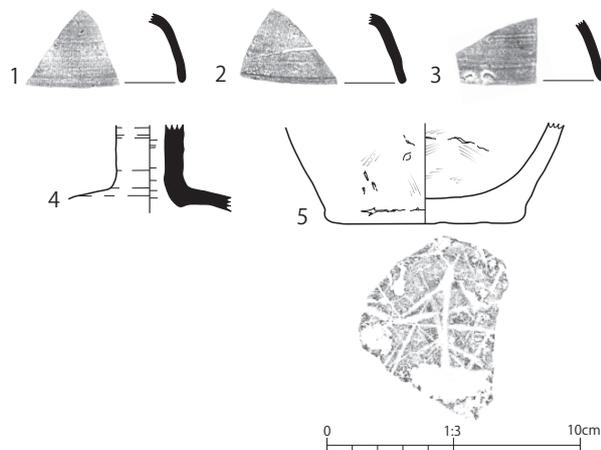
石室周辺の清掃を行ったところ、南東方向に開口し、前庭部に石室構築材と考えられる礫が散在している状況が明らかとなった。清掃調査で観察できた石室の規模は、全長約7.5m、幅約1.5m、主軸はN50°Wであった。天井石は残存しておらず、側壁の観察からは無袖構造の可能性が高い横穴式石室と確認できた。左側壁の構築材が石室内に崩落しているようで、左側壁内側に礫の散布がある。このことから、石室側壁が持ち送り構造である可能性が高い。石室横断セクションの観察からは、石室内の堆積土が層状に水平堆積していることがわかる。石室床面及び床下の地業は、明確に確認できなかった。

石室南にあたるE2～E5グリッドでのトレンチ調査では、50cm程度の礫の散布と墳丘裾の可能性のある堆積土の境界を確認した。

(4) 遺物

今回の試掘調査では、E2～E5グリッドで、須恵器、土師器の破片が出土した。この中からE3グリッド出土の5点を資料化した（第38図1～5）。

1～3は、須恵器の坏蓋の破片である。同一個体の可能性があるが、接合することができなかった。外面の一部に自然釉が薄くかかる。4は、直径2.5cmの円筒状破片で、瓶類またはハソウの頸部の可能性がある。5は、土師器甕の体部下半～底部である。底部には葉脈が交差する木葉痕が残る。



第38図 穂高古墳群 B24号墳出土遺物

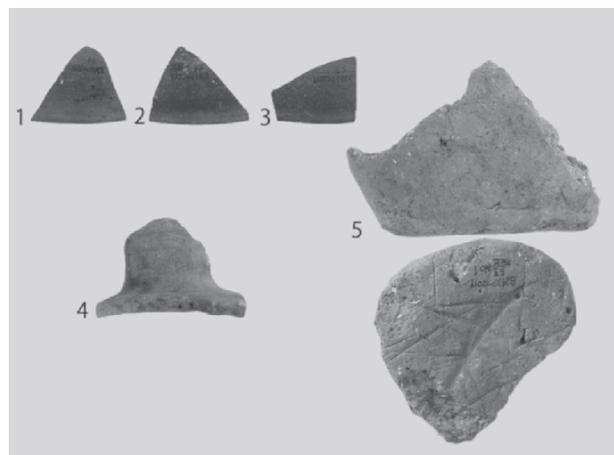
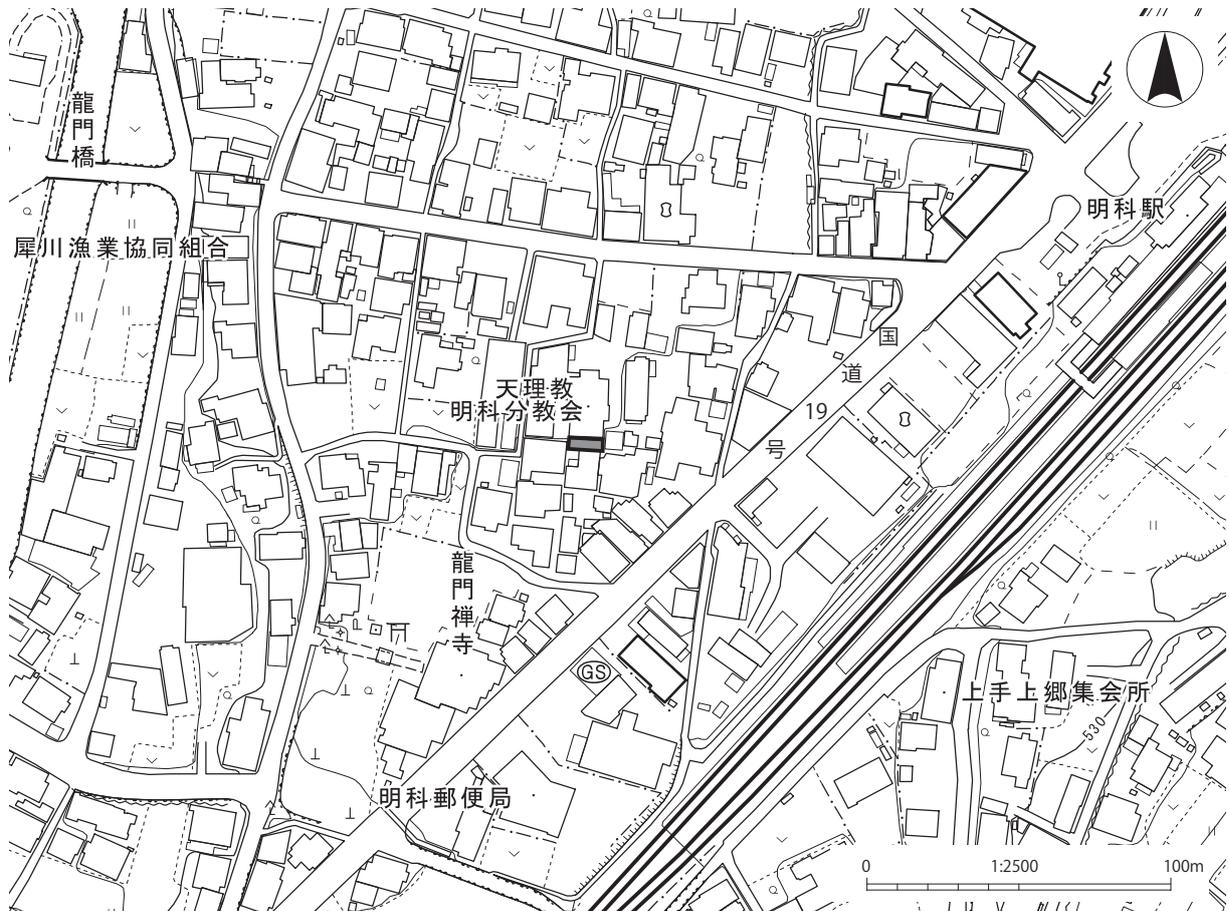


写真3 穂高古墳群 B24号墳出土遺物

6 明科遺跡群明科廃寺 (第1表■107)



第39図 明科遺跡群明科廃寺試掘位置図

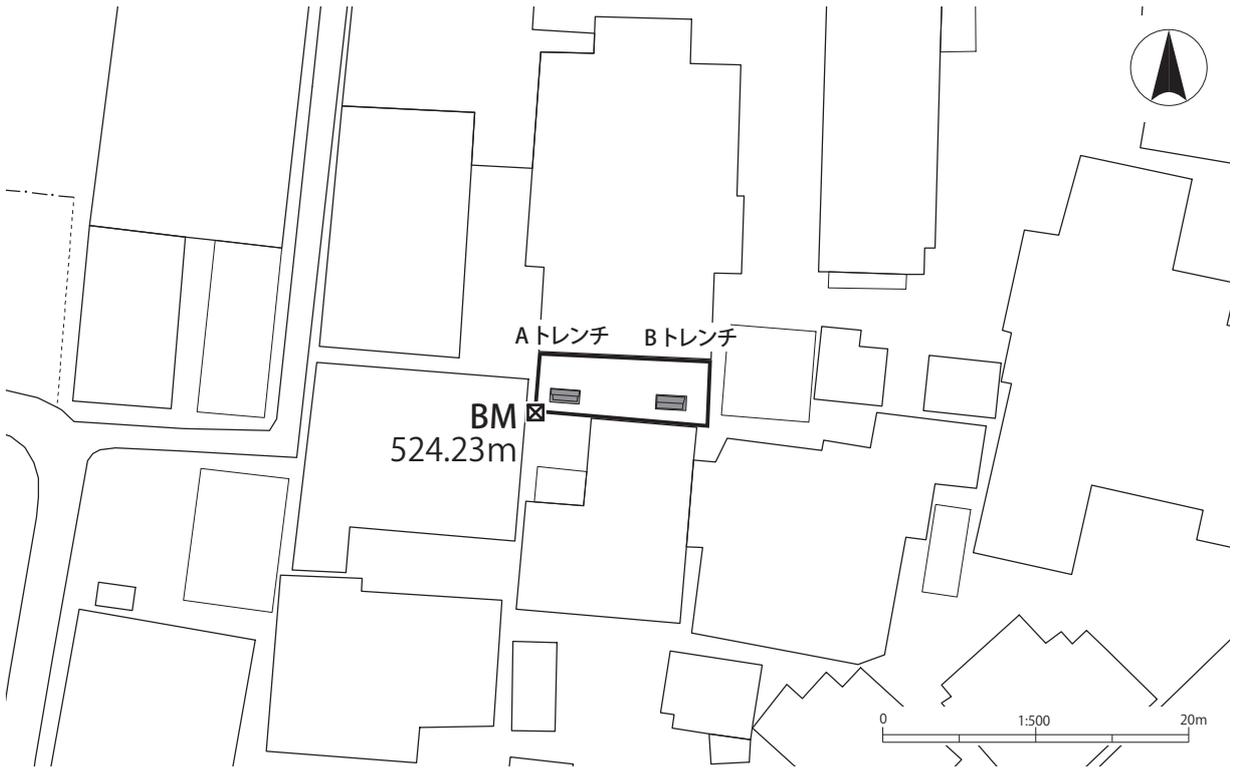
所在地	安曇野市明科中川手3779番		
調査期間	平成29年(2017)9月27日～9月29日		
調査面積	4㎡	調査契機	個人住宅
作業参加者	山下泰永、土屋和章、横山幸子、松田洋輔、田多井智恵、宮下智美、勝野辰雄、大澤慶哲、白鳥章		

(1) 概要

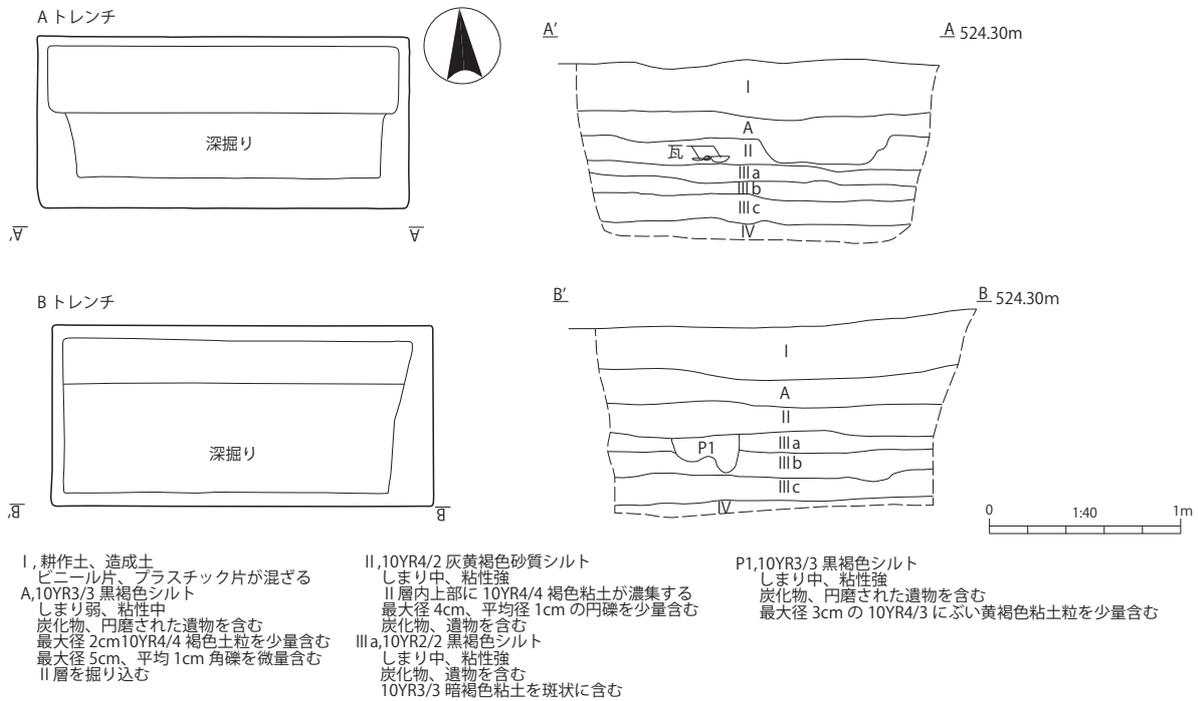
明科遺跡群明科廃寺は、犀川右岸の段丘上に所在する古代の寺院跡である。この遺跡ではこれまでに4次にわたる発掘調査が実施され、掘立柱建物跡や区画施設と考えられる掘立柱柵列が見つまっているが、主要建物は未確認であり伽藍配置も不明である(安曇野市教委2017a)。

個人住宅建て替えに先立ち、敷地内で遺構等の残存状況調査のためトレンチ調査を実施した。狭小な調査面積のため明確な遺構は検出しなかったが、地表下55cm以深に古代寺院に関わる遺物包含層(第Ⅲa～Ⅲc層)が良好に残存していることを確認した。また、素弁12葉蓮華文の軒丸瓦を含む瓦片、瓦塔片、土師器、須恵器が出土した。

本件工事については、この試掘調査の結果をもとに開発事業者と協議を継続し、平成30年度に発掘調査を実施した。



第40図 明科遺跡群明科廃寺トレンチ配置図

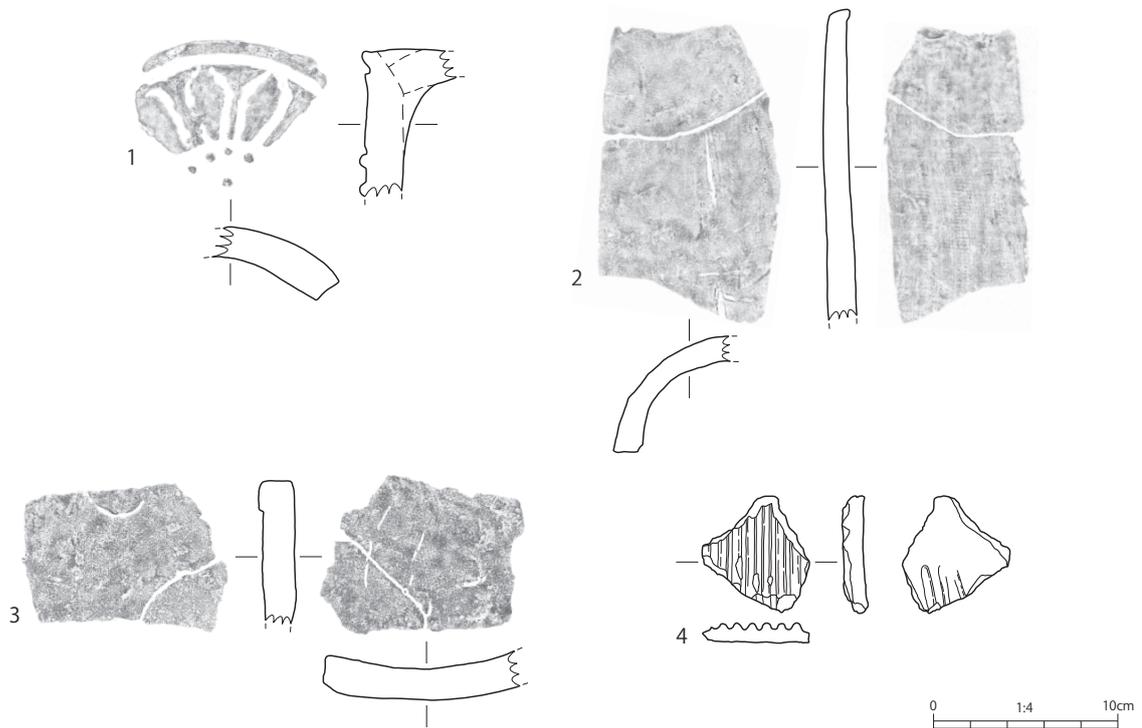


第41図 明科遺跡群明科廃寺トレンチ図

(2) 遺物

今回の明科廃寺試掘では、古代の瓦と瓦塔、土師器、須恵器が出土した。このうち、Bトレンチから出土した瓦3点と瓦塔を資料化した(第42図1~4)。なお、軒丸瓦の分類基準は、明科廃寺第4次発掘調査の分類に従った(安曇野市教委2017a)。

1は、Bトレンチの第Ⅱ層から出土した、素弁12葉蓮華文の軒丸瓦で、軒丸瓦第2型式第1類に該当する。焼成は良好で、灰色を呈す。製作技法は接合式で、破断面から瓦当部と丸瓦部の接合方法を観察できる。丸瓦の広端部を瓦当裏面に接着させ、丸瓦凹凸部に補強粘土を貼り付けてナデで仕上げている。2は、Bトレンチから出土した丸瓦である。焼成は良好で、明灰色である。凸面にはタタキの痕跡は残っておらず、縦横方向に工具ナデの痕跡が残る。両側端にヘラケズリ等の調整はない。凹面には糸切りの痕跡が残るが、模骨痕は確認できなかった。3は、Bトレンチ第Ⅱ層から出土した平瓦である。焼成が悪く、黄褐色を呈する。摩耗により凸面の調整が不明瞭だが、一部でナデ調整を確認した。凹面には、糸切り痕と布目痕が残る。4は、Bトレンチから出土した瓦塔の屋蓋部破片である。焼成が良好で、赤褐色である。表面は工具で規則的に整えられ、屋根瓦を表現している。裏面にも工具による溝がつけられ垂木を表現している。この垂木表現は、幅、深さともに均一ではなく、垂木の隅が丸くなるなど、やや丁寧さに欠ける。



第42図 明科遺跡群明科廃寺出土遺物

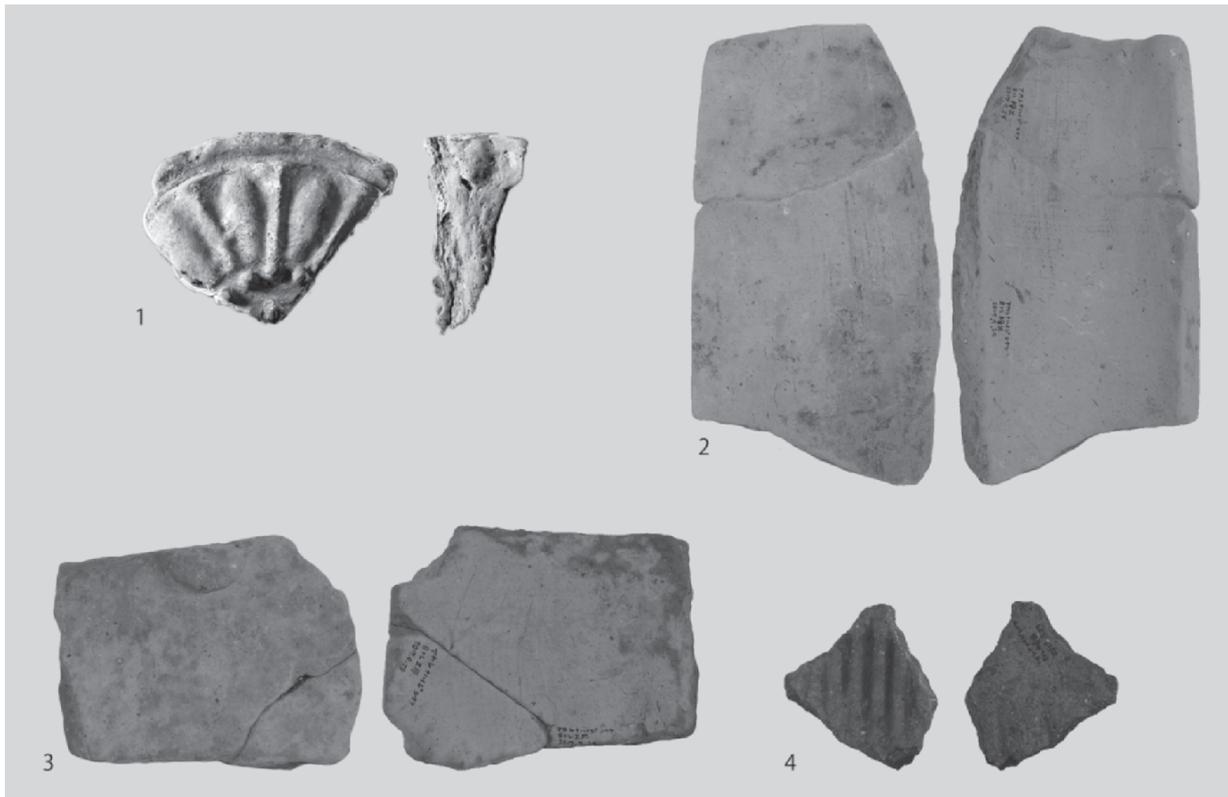


写真4 明科遺跡群明科廃寺出土遺物



1 Aトレンチ (東から)



2 Aトレンチ南壁



3 Bトレンチ (西から)



4 Bトレンチ南壁

7 いっほんまつ 一本松遺跡 (第1表■131)



第43図 一本松遺跡試掘位置図

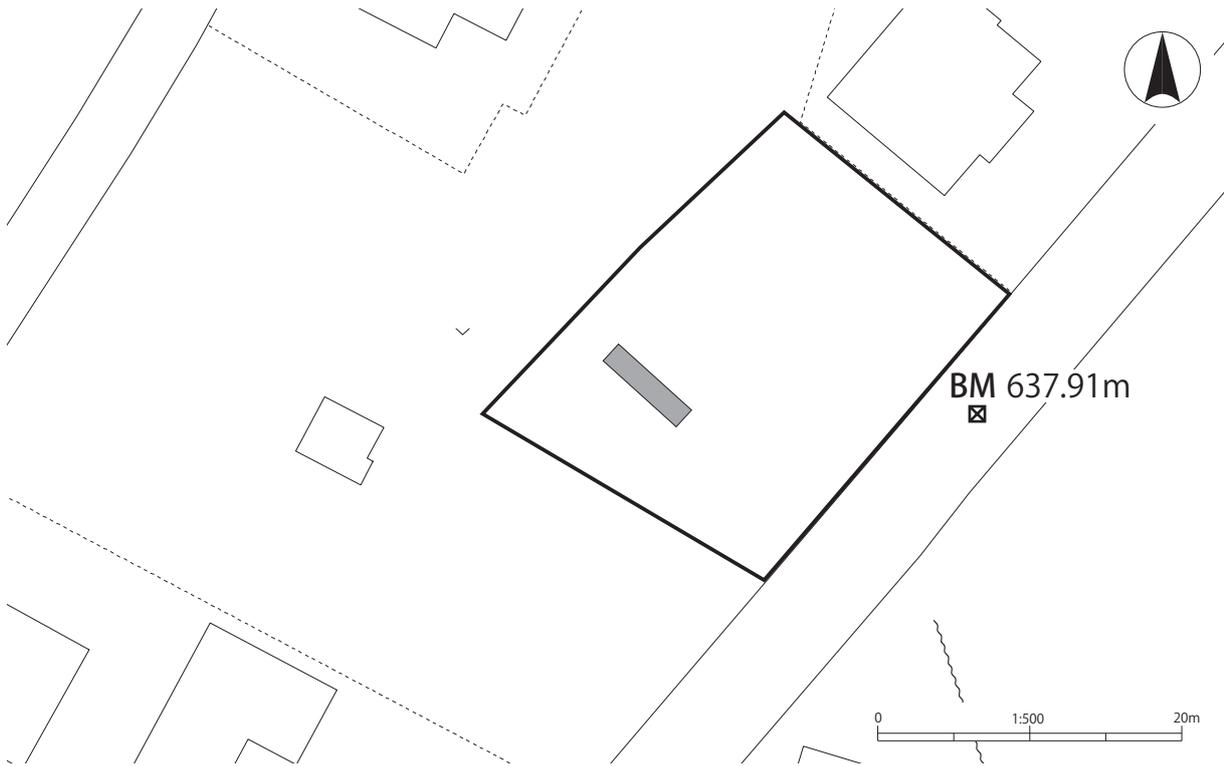
所在地	安曇野市三郷小倉506番1		
調査期間	平成29年(2017)11月7日		
調査面積	9㎡	調査契機	宅地造成
作業参加者	山下泰永、土屋和章、横山幸子、松田洋輔、田多井智恵		

(1) 概要

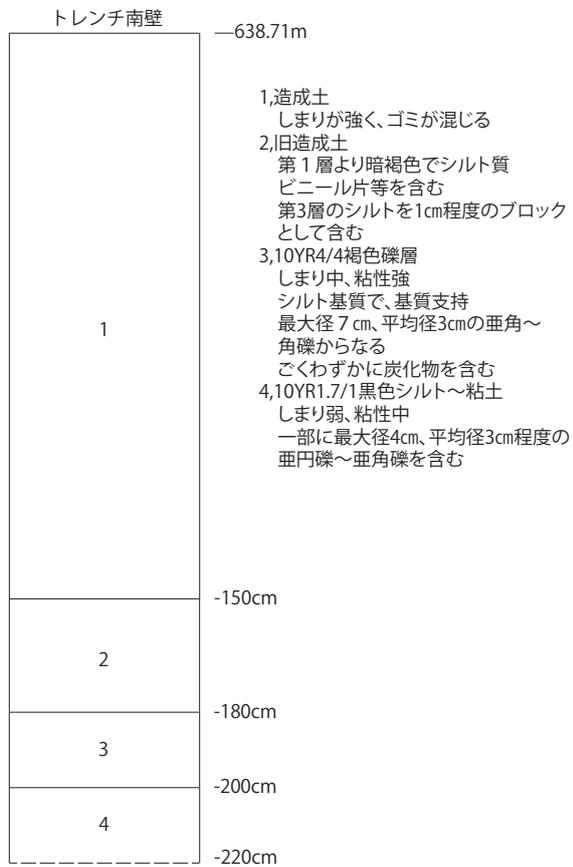
一本松遺跡は、三郷小倉の^{なるさわ}鳴沢川左岸に所在する縄文時代の散布地である。この遺跡では、これまでに本格的な発掘調査が実施された記録はない。過去に、縄文土器等が採集された記録はあるが、採集地点が不明であるため、遺構分布等は不明である。

調査地での遺構等の残存状況確認のため、トレンチ調査を実施した。調査の結果、地表下180cmまでは現代の造成土で、遺構等は存在しないことが確認できた。また、180～220cmには礫層、シルト層が堆積しており、この中には少量の炭化物を包含する層もある。

上記の結果から、今回の調査地で深度200cm程度までの掘削を行う場合、掘削が埋蔵文化財に新規の影響を与えることはないと判断した。



第44図 一本松遺跡トレンチ配置図



第45図 一本松遺跡土層概念図

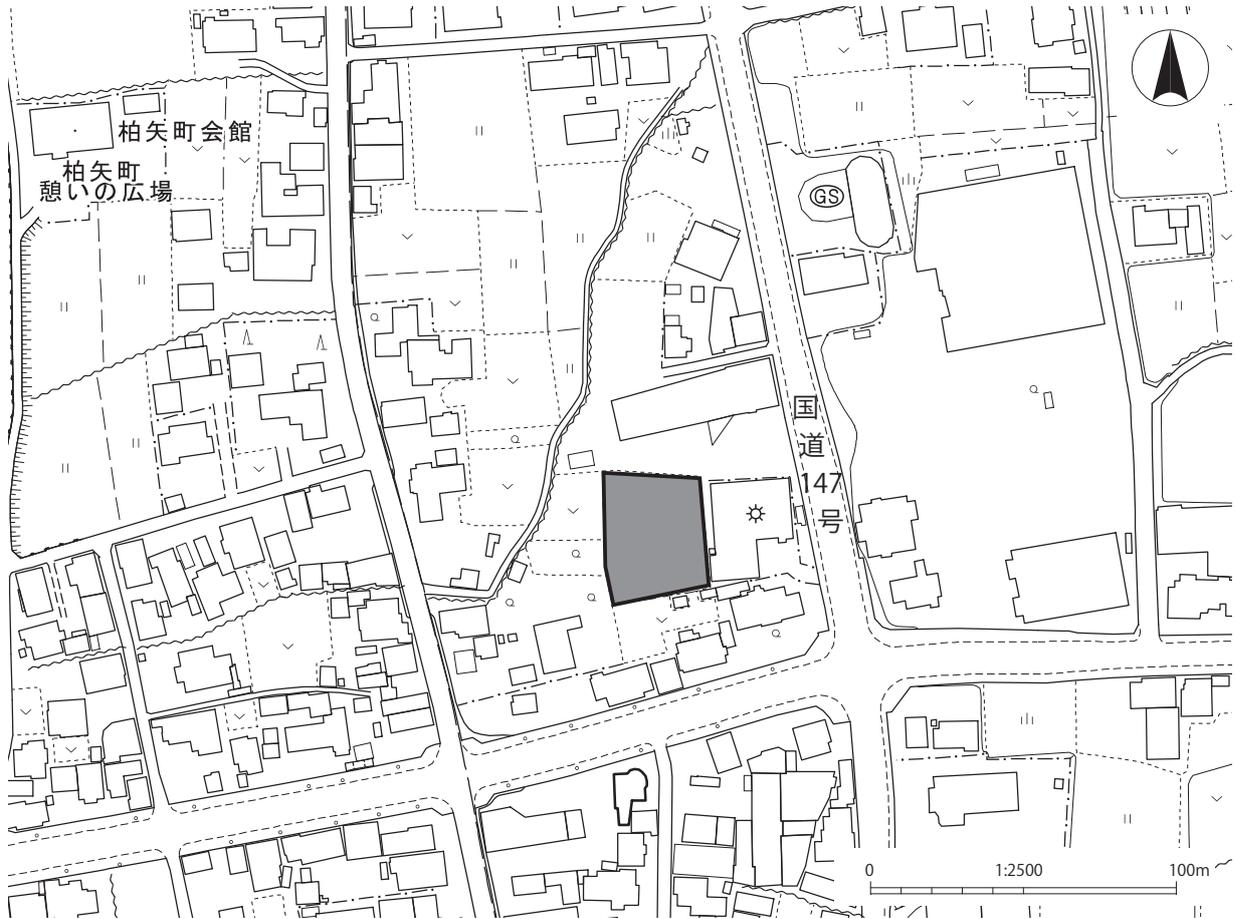


1 調査地近景（南東から）



2 南壁土層

やばらごりんばた
8 矢原五輪畑遺跡 (第1表■136)



第46図 矢原五輪畑遺跡試掘位置図

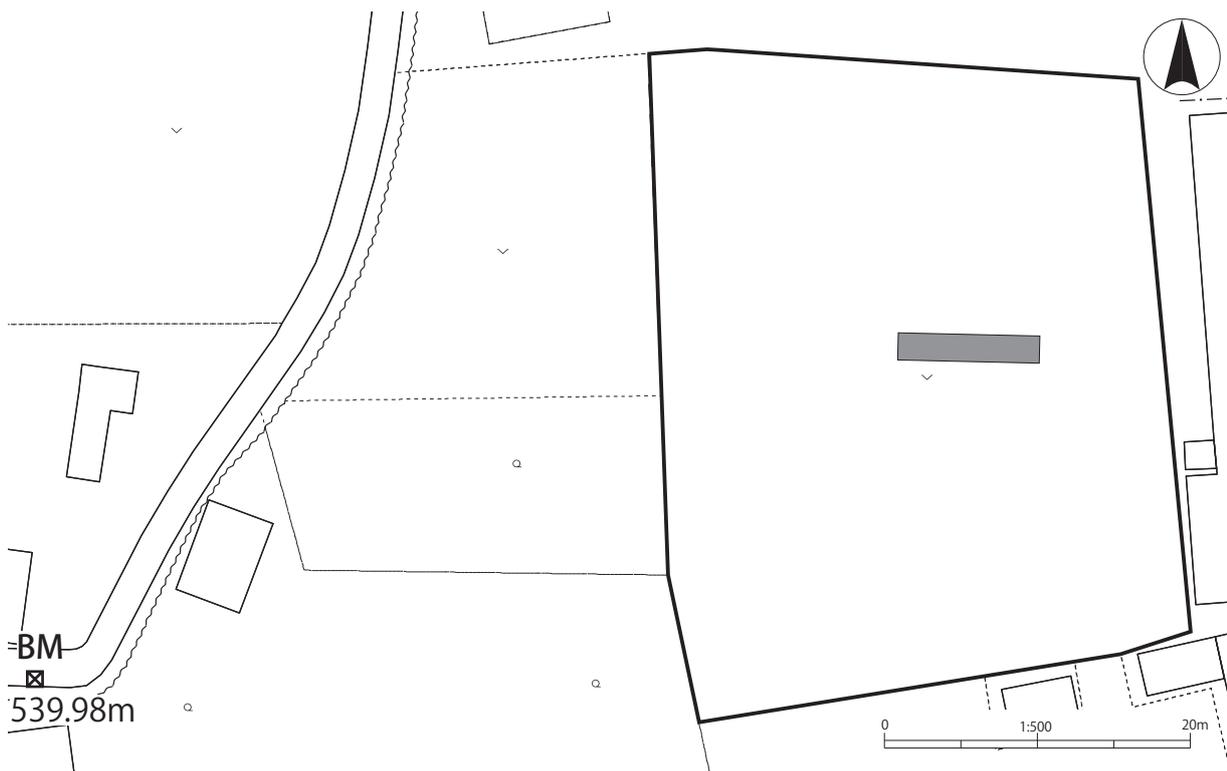
所在地	安曇野市穂高800番2外1筆		
調査期間	平成29年(2017)11月14日		
調査面積	14㎡	調査契機	その他開発(駐車場造成)
作業参加者	山下泰永、土屋和章、横山幸子、松田洋輔、田多井智恵、宮下智美、白鳥章		

(1) 概要

矢原五輪畑遺跡は、烏川扇状地扇央に所在する古墳時代～平安時代の集落跡である。この遺跡では、穂高町教育委員会が商業施設建設に際し発掘調査を実施しており、弥生時代～古墳時代及び平安時代の集落跡を確認した(未報告)。

調査地での遺構等の残存状況確認のため、雨水浸透施設設置箇所にてトレンチ調査を実施した。調査の結果、地表下20cmまで現代の耕作土であった。また、20cm以深では炭化物及び土器小破片を含むシルト層、礫層が良好に残存していた。地表下90cm付近では、カマドを伴う竪穴建物跡を検出し、建物跡付近では弥生土器及び奈良時代の土師器、須恵器が出土した。

上記の結果から、今回の調査地で保護層を考慮し深度60cm程度までの掘削を行う場合、掘削が埋蔵文化財に新規の影響を与えることはないが、それより深く掘削を行う場合は注意が必要である。



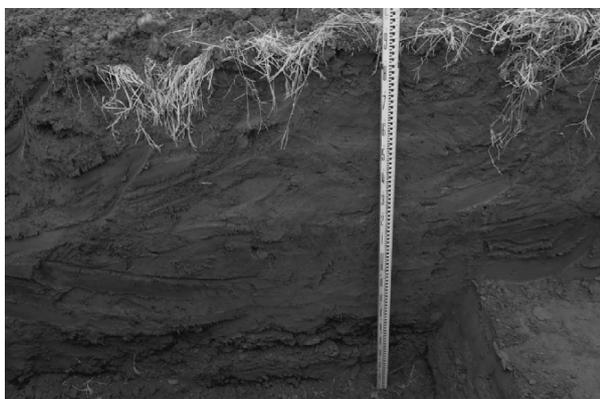
第47図 矢原五輪畑遺跡トレンチ配置図



1 調査地俯瞰（上が北）



2 遺構検出状況（西から）



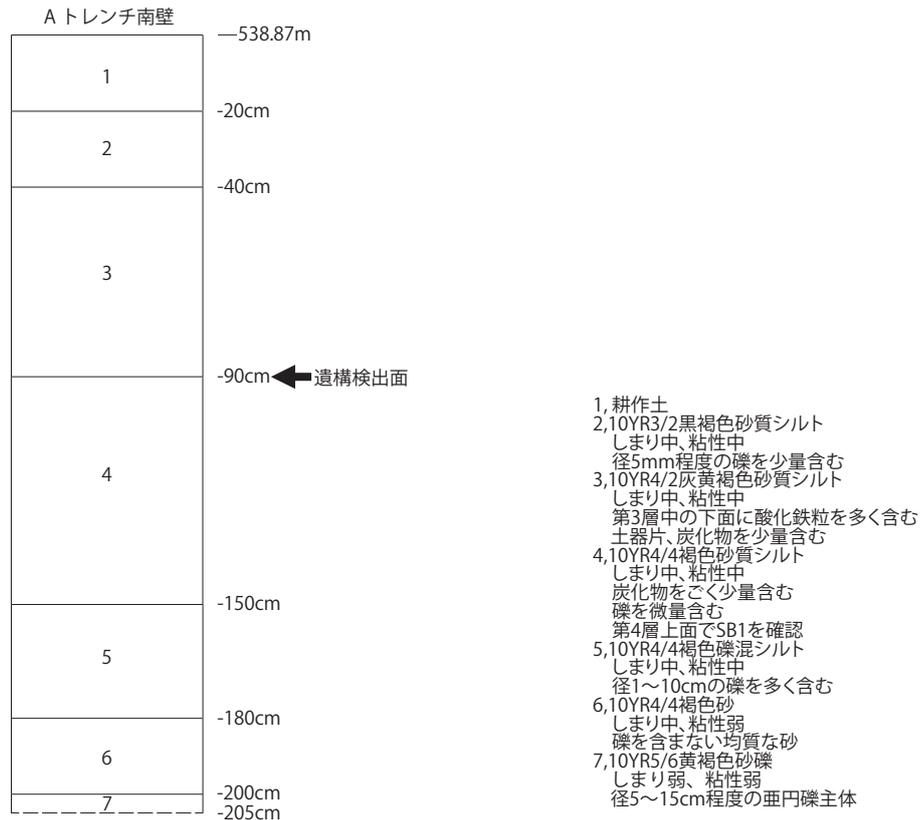
3 南壁土層



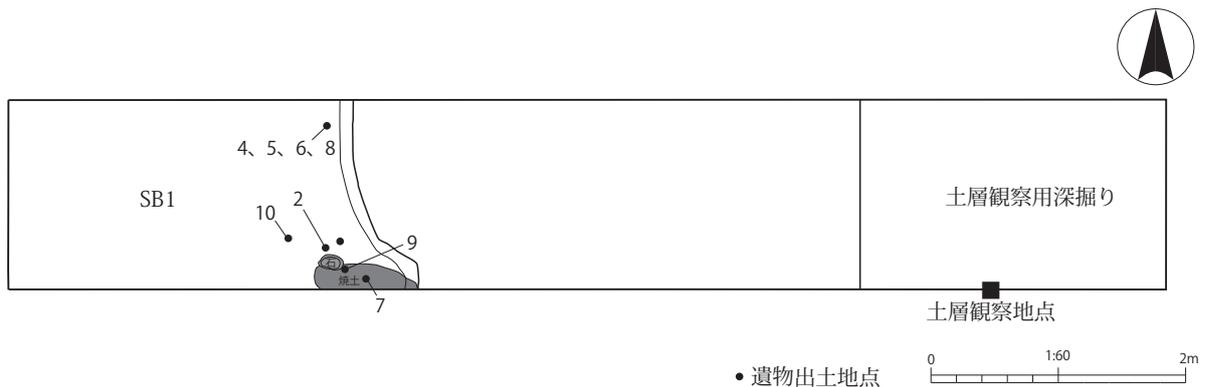
4 トレンチ調査状況（東から）

(2) 遺構

調査では、幅約1.5m、長さ約9mのトレンチを設定した。カマドを伴い、第4層を掘り込む竪穴建物跡が検出され、これをSB1とした(第49図)。SB1の平面形は不明であるが、主軸方向はほぼ東西と推定できる。東壁にカマドが構築されており、被熱した花崗岩と長軸0.7m程度の焼土及び煙道を検出した。カマド左袖には、構築材の可能性がある礫が残存していた。また、カマド付近からは、須恵器、土師器が出土している。トレンチの範囲では、床面柱穴は確認していない。



第48図 矢原五輪畑遺跡土層概念図



第49図 矢原五輪畑遺跡第4層検出図

(3) 遺物

SB1の床面及びカマド周辺からは、奈良時代の遺物がまとまって出土した。そのうち須恵器1点、土師器8点(第50図2~10)と、同じくSB1から出土した弥生土器片1点を資料化した(第50図1)。

弥生土器

今回の調査で弥生時代の遺構は確認していない。SB1 から得られた弥生土器 1 点を資料化した（第50図1）。1 は、櫛描波状文を施した甕の体部上半である。

須恵器・土師器

SB1 から、奈良時代の須恵器、土師器が出土し、須恵器 1 点、土師器 8 点を資料化した（第50図2～10）。分類は、第16表に従った。

2 は、端を折り曲げる須恵器坏蓋で、坏蓋 B である。端部はシャープに曲がり、先端は外へ広がる。一部に自然釉がかかる。3 は、輪積み成形の後、外面をナデで調整し、内面は全面的に横ナデとなっている。外面がナデ調整のため、甕 A に分類できる。4～9 は、外面に縦方向のハケメ調整がみられる甕 B である。4～6 は、口縁が大きく開き、内面に横方向のナデが見られる。いずれもハケメの単位は幅2.5～3 cm、長さ 6～7 cm で左から右、上から下へと施されている。7 は、内面はナデ調整が主体で、残存部の下部のみに斜方向のハケメが施される。8 は、頸部付近が比較的厚く、内部に工具跡が残る。9 の外面では、底部付近で横方向のハケメ調整が縦方向のハケメを切る。底部はドーナツ状の粘土に円盤状の粘土を重ね、さらに輪積みで体部を成形したと推定でき、ドーナツ状の粘土部分のみに木葉痕跡を残す。10 は小型甕 B で、口縁部の外反は強く、底部付近外面に横方向のナデを施す。

以上のとおり、須恵器坏蓋 B の存在、土師器甕 B の口縁部外反の強さと内面ハケ調整の出現（第50図6）、土師器小型甕 B における口縁部外反の強さと底部付近外面の横方向ハケメ調整の出現から、これらの資料は松本平古代 3 期（8 世紀中頃）に相当すると考えられる。

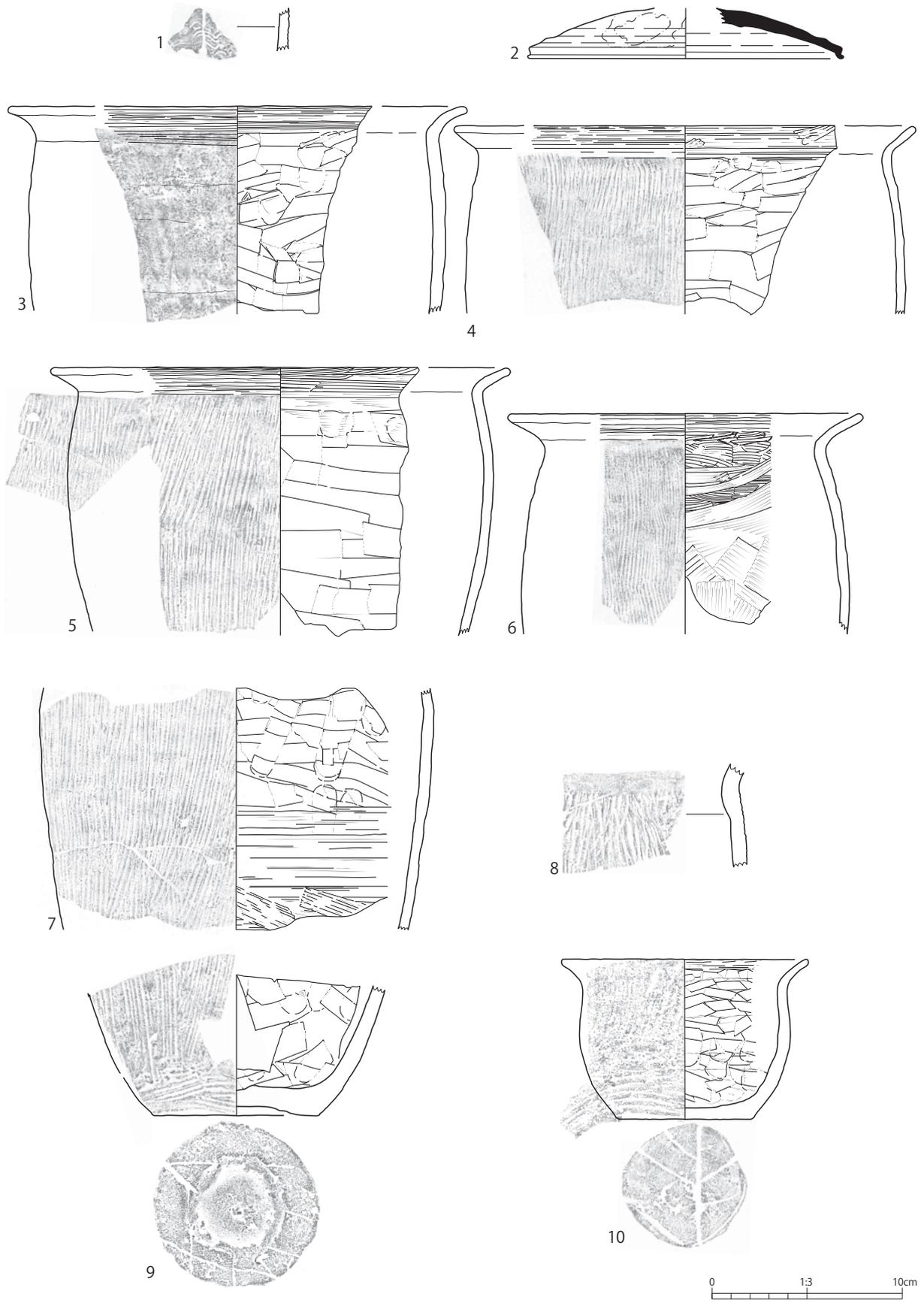
第16表 器種分類（小平1990から引用）

種類	器種名	説明
須恵器	坏蓋 B	口縁端部を折り曲げる。天井部に扁平なつまみを付ける。
土師器	甕 A	輪積み成形の後、内外面をナデ調整する長胴甕。明黄褐色で胎土に雲母片を多量に含む。
	甕 B	器面をハケメで調整する長胴甕。
	小型甕 B	胎土、調整が甕 B に共通する、器面ハケ調整の小型甕。

第17表 矢原五輪畑遺跡出土土器観察表

No.	出土位置	種別	器種	残存部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	技法の特徴		
								外面調整	内面調整	底部
1	SB1	弥生土器	甕	体部	不明	不明	(2.3)	ナデ+波状文	ナデ	不明
2	SB1 カマド	須恵器	坏蓋 B	体部	16.6	—	(2.7)	ロクロナデ	ロクロナデ	—
3	SB1	土師器	甕 A	口縁部～体部上半	23.8	不明	(11.0)	指頭圧痕+ナデ	指頭圧痕+ナデ	不明
4	SB1	土師器	甕 B	口縁部～体部上半	23.8	不明	(10.0)	ナデ+ハケメ	指頭圧痕+ナデ	不明
5	SB1	土師器	甕 B	口縁部～体部下半	23.4	不明	(14.2)	ナデ+ハケメ	指頭圧痕+ナデ	不明
6	SB1	土師器	甕 B	口縁部～体部上半	18.2	不明	(11.7)	ナデ+ハケメ	指頭圧痕+ナデ+ハケメ	不明
7	SB1 カマド	土師器	甕 B	体部	不明	不明	(12.8)	ナデ+ハケメ	指頭圧痕+ナデ+ハケメ	不明
8	SB1	土師器	甕 B	頸部～体部上半	不明	不明	(5.5)	ナデ+ハケメ	ナデ+ハケメ	不明
9	SB1 カマド	土師器	甕 B	体部下半～底部	不明	8.7	(7.5)	ナデ+ハケメ	指頭圧痕+ナデ	木葉痕
10	SB1 カマド	土師器	小型甕 B	口縁部～底部	12.8	6.8	8.4	ナデ+ハケメ	指頭圧痕+ナデ	木葉痕

() は残存している部分の法量。

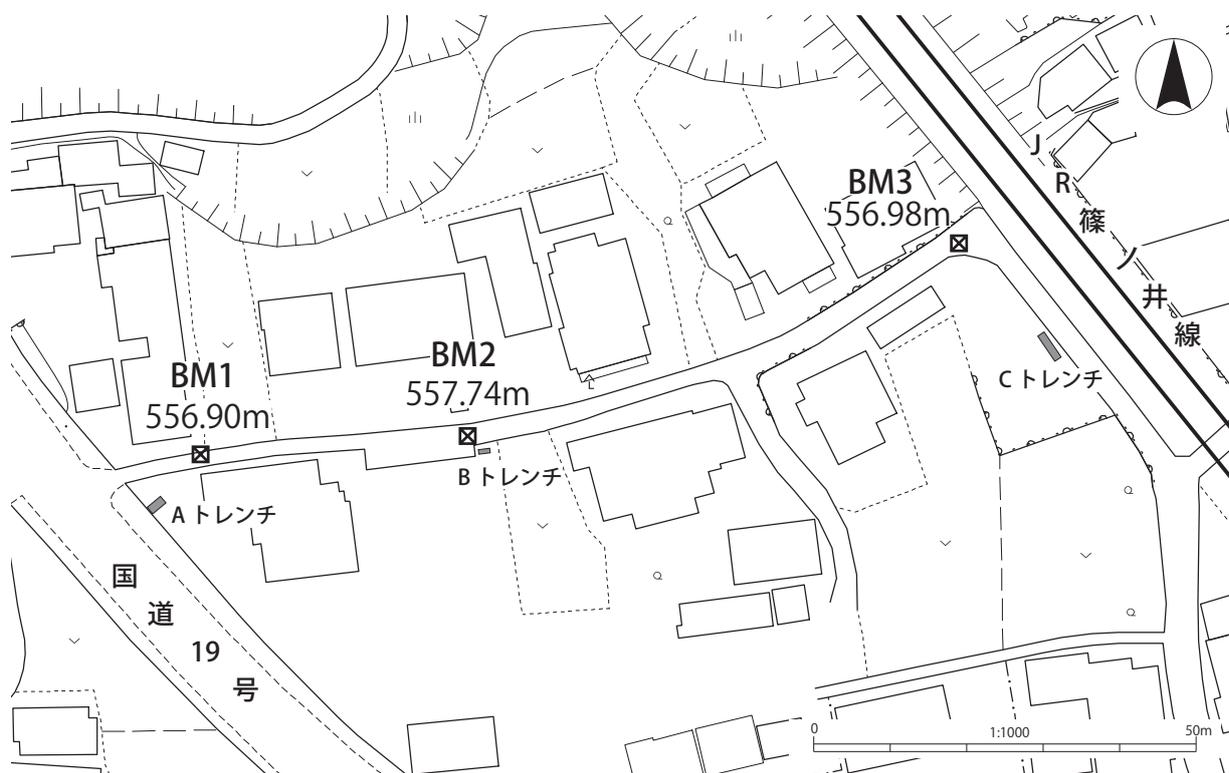


第50図 矢原五輪畑遺跡出土遺物



写真5 矢原五輪畑遺跡出土遺物

9 こせはば 小瀬幅遺跡 (第1表■143)



第51図 小瀬幅遺跡トレンチ配置図

所在地	安曇野市豊科田沢4840番地1外2筆		
調査期間	平成29年(2017)11月20日		
調査面積	4㎡	調査契機	道路
作業参加者	山下泰永、土屋和章、横山幸子、松田洋輔、田多井智恵、宮下智美、勝野辰雄、白鳥章		

(1) 概要

小瀬幅遺跡は、犀川右岸段丘上に所在する弥生時代及び平安時代の遺物散布地である。この遺跡では、平成29年度に安曇野市教育委員会が第1次発掘調査を実施した(第2章2参照)。近年は宅地造成及び個人住宅等の新築に際し、工事立会を複数回実施している。

遺構等の残存状況確認のため、3箇所でトレンチ(A～C)を設定し、調査を実施した。調査の結果、A、Cトレンチでは地表下80cmまで、Bトレンチでは地表下30cmまで現代の造成土を確認した。また、Bトレンチの第3層は炭化物を含有するが、遺物等は含まなかった。同トレンチでは第2、3層を掘り込むP1が確認されたが、時代は不明である。その他の層では遺物、炭化物は確認されなかった。

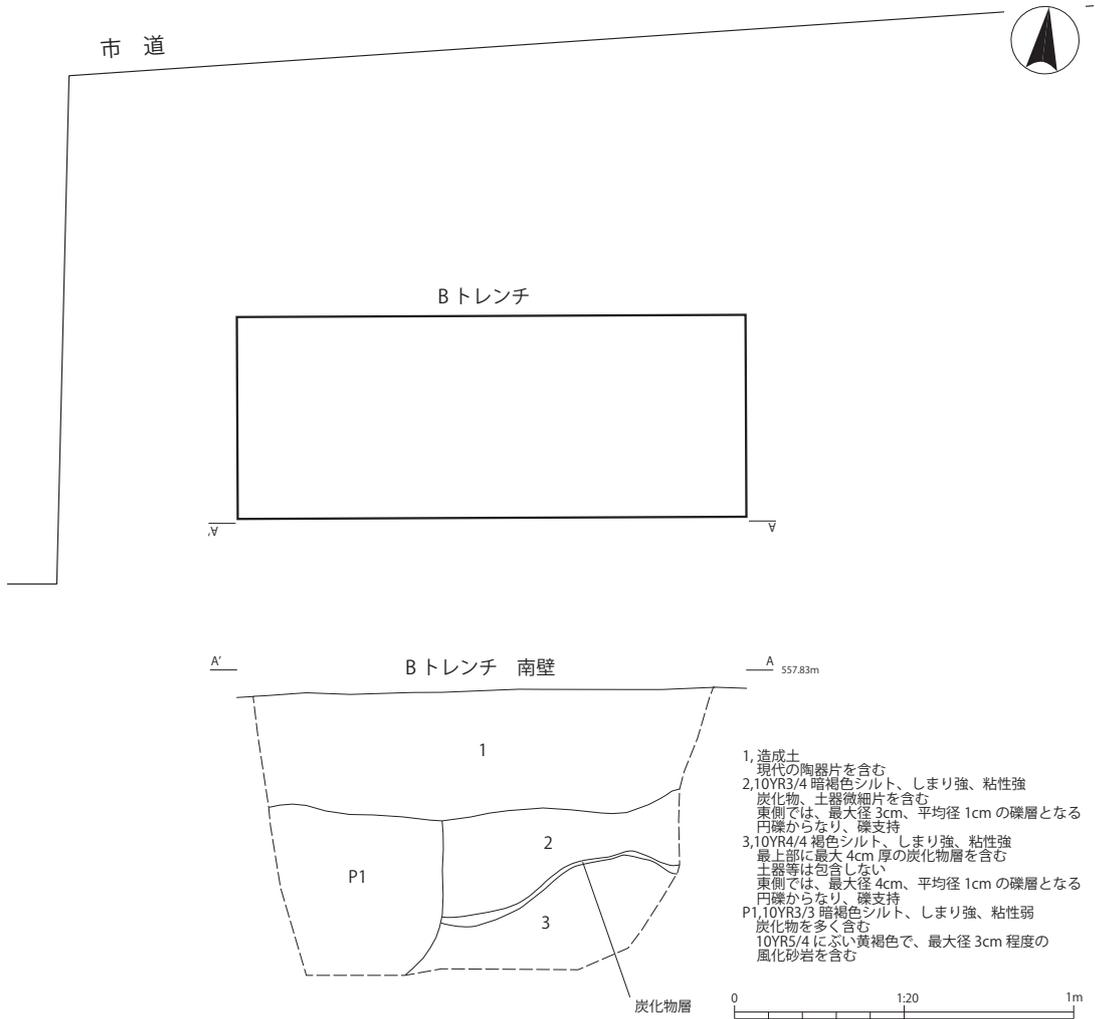
上記の結果から、今回の調査地で深度100cm程度までの掘削を行う場合、埋蔵文化財に新規の影響を与えることはないと判断した。

(2) 遺物

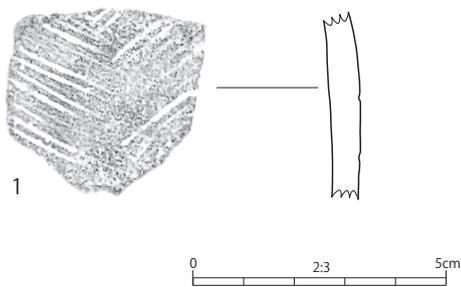
表面採集した弥生土器1点を資料化した(第53図1)。外面は縦方向の羽状条痕が施されており、内

第3章 試掘調査等

面はナデ調整されている。器形は甕または台付甕と推定できる。縦方向の羽状条痕が施される甕は、弥生時代中期に属する。



第52図 小瀬幅遺跡 B トレンチ図



第53図 小瀬幅遺跡出土遺物

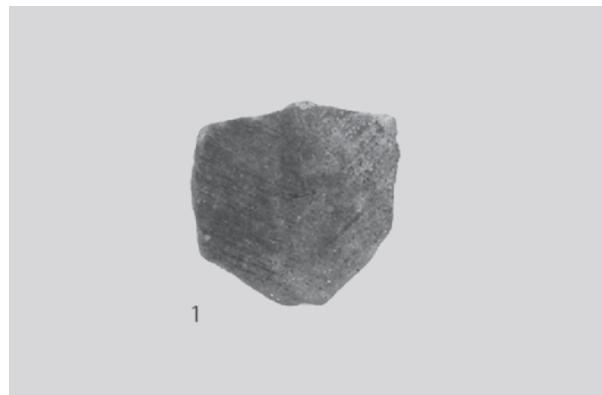


写真6 小瀬幅遺跡出土遺物

10 さんまいばし 三枚橋遺跡（第1表■150）



第54図 三枚橋遺跡試掘位置図

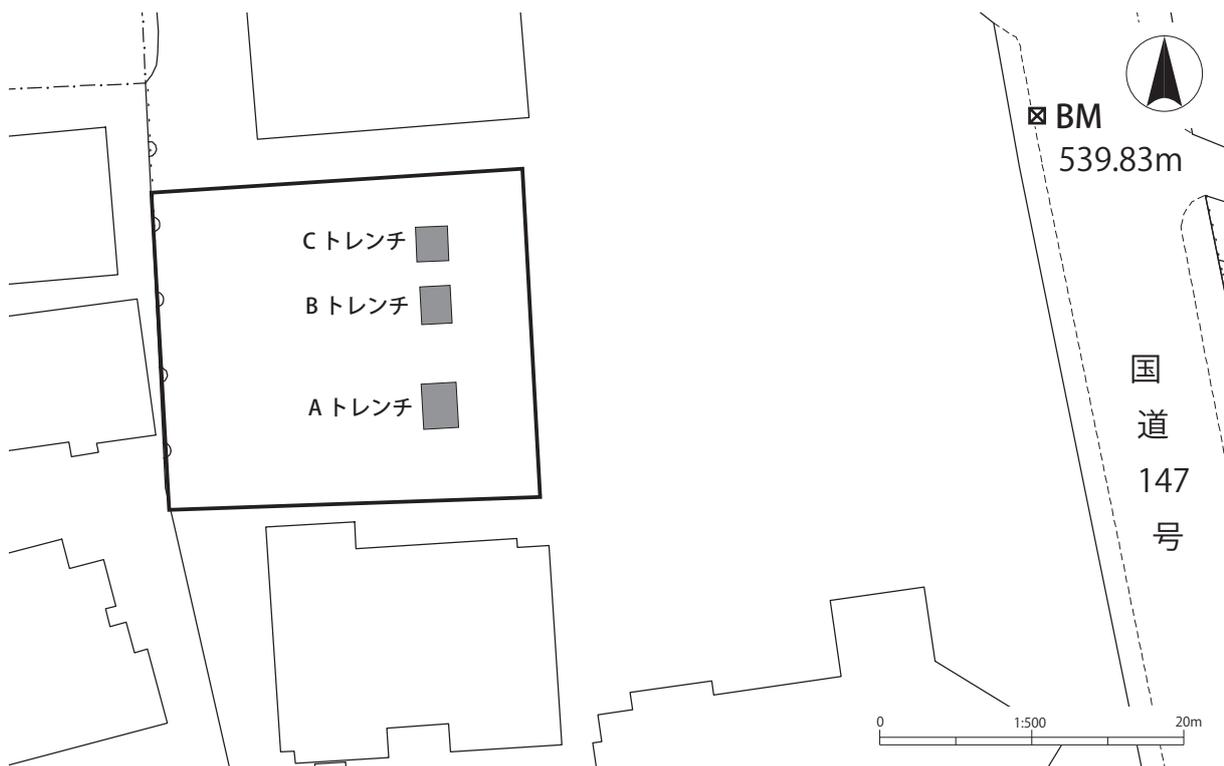
所在地	安曇野市穂高1800番2		
調査期間	平成29年（2017）12月5日		
調査面積	19㎡	調査契機	店舗
作業参加者	山下泰永、土屋和章、横山幸子、松田洋輔、田多井智恵、勝野辰雄		

（1）概要

三枚橋遺跡は、烏川扇状地扇中央に所在する弥生時代～中世の集落跡である。この遺跡では、これまでの発掘調査成果から、古代の遺構分布が判明しつつある。三枚橋遺跡のうち遺跡内西側では遺構の分布がなく、シルト層にごく少量の摩耗した土器片が混入しているのみであることが多い。

調査地での遺構等の残存状況確認のため、3箇所でもトレンチ（A～C）を設定し調査した。いずれのトレンチでも、地表下20cm以深ではシルト層、砂層、礫層が良好に残存していた。これらのうちBトレンチの地表下50cm以深では、シルト層を掘り込む遺構を確認し、地表下80cm付近で焼土を検出した。この遺構付近では奈良時代の土師器、須恵器が出土した。

本件工事については、開発事業者と協議を継続し、平成30年度に発掘調査を実施した。遺物の詳細は、本発掘調査報告書にて報告する予定である。



第55図 三枚橋遺跡トレンチ配置図



1 調査前（東から）



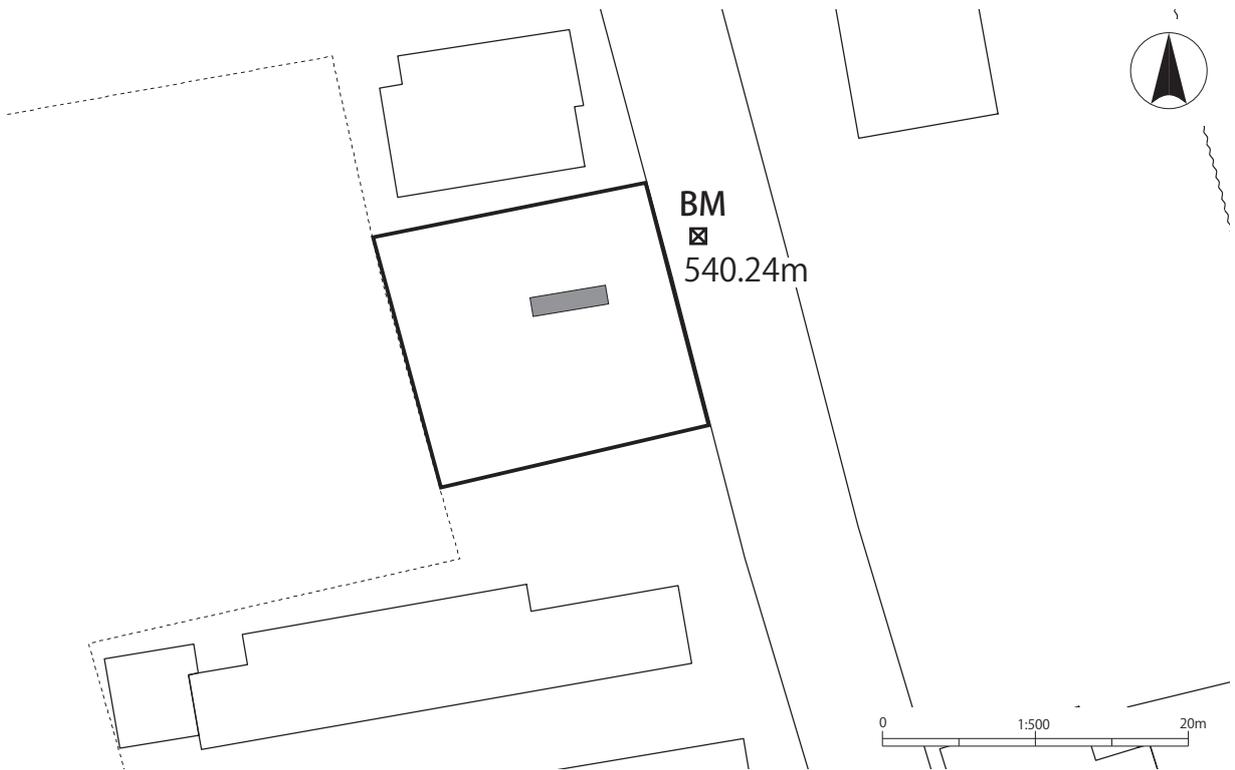
2 Bトレンチ西壁土層



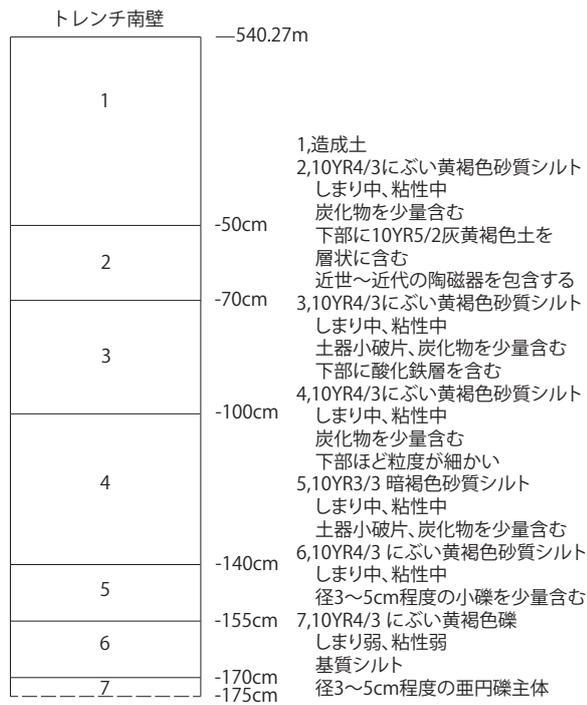
3 Bトレンチ東壁土層



4 Bトレンチ出土遺物



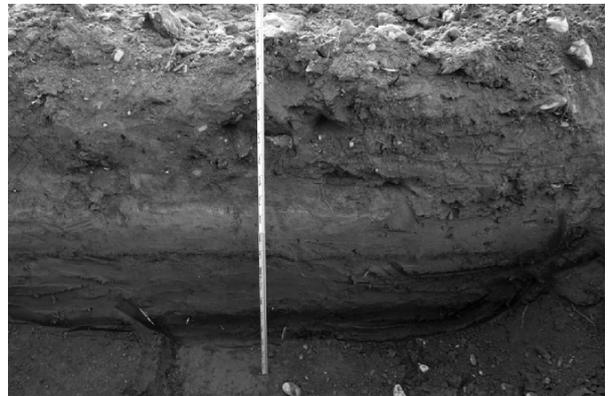
第57図 北才の神遺跡トレンチ配置図



第58図 北才の神遺跡土層概念図

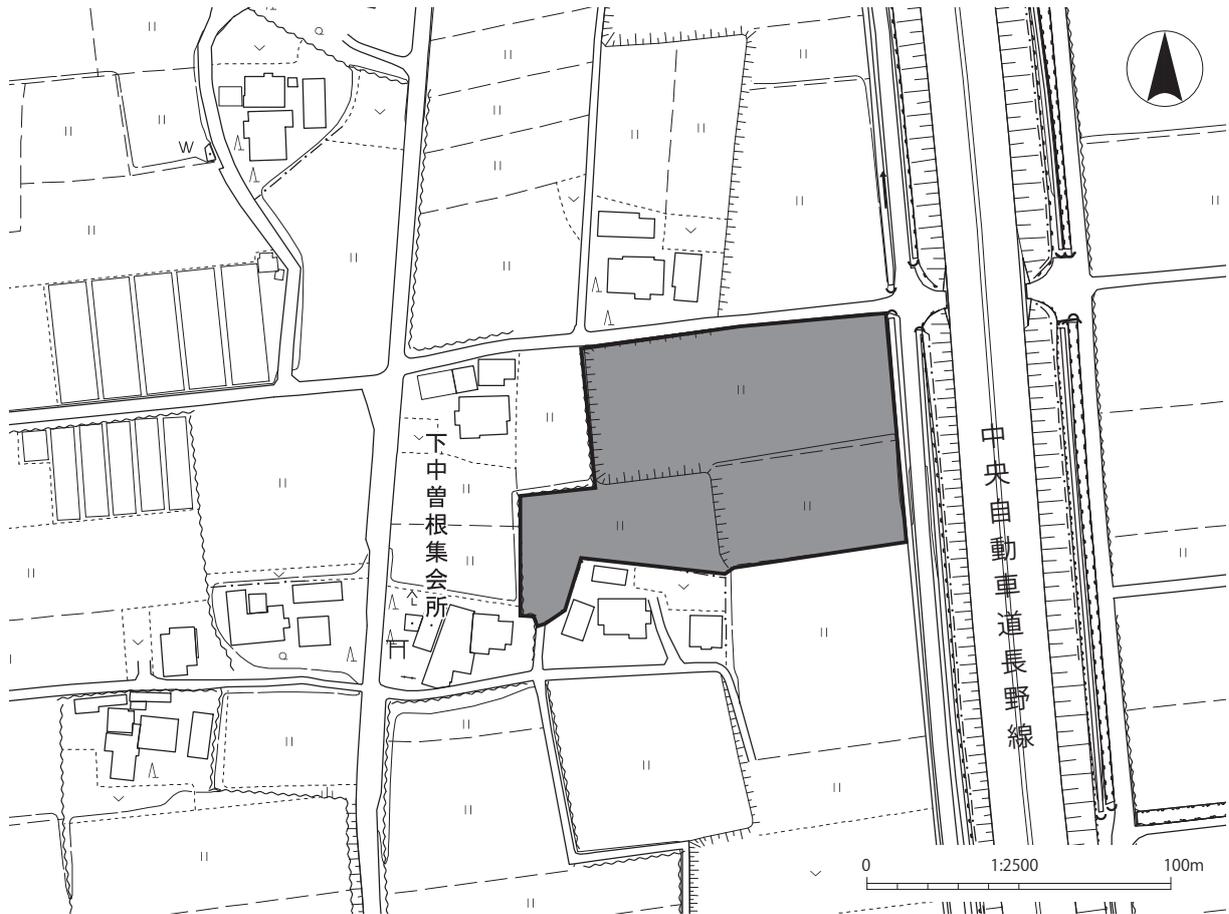


1 調査前（東から）



2 トレンチ南壁土層

12 上手木戸遺跡（第1表■180）



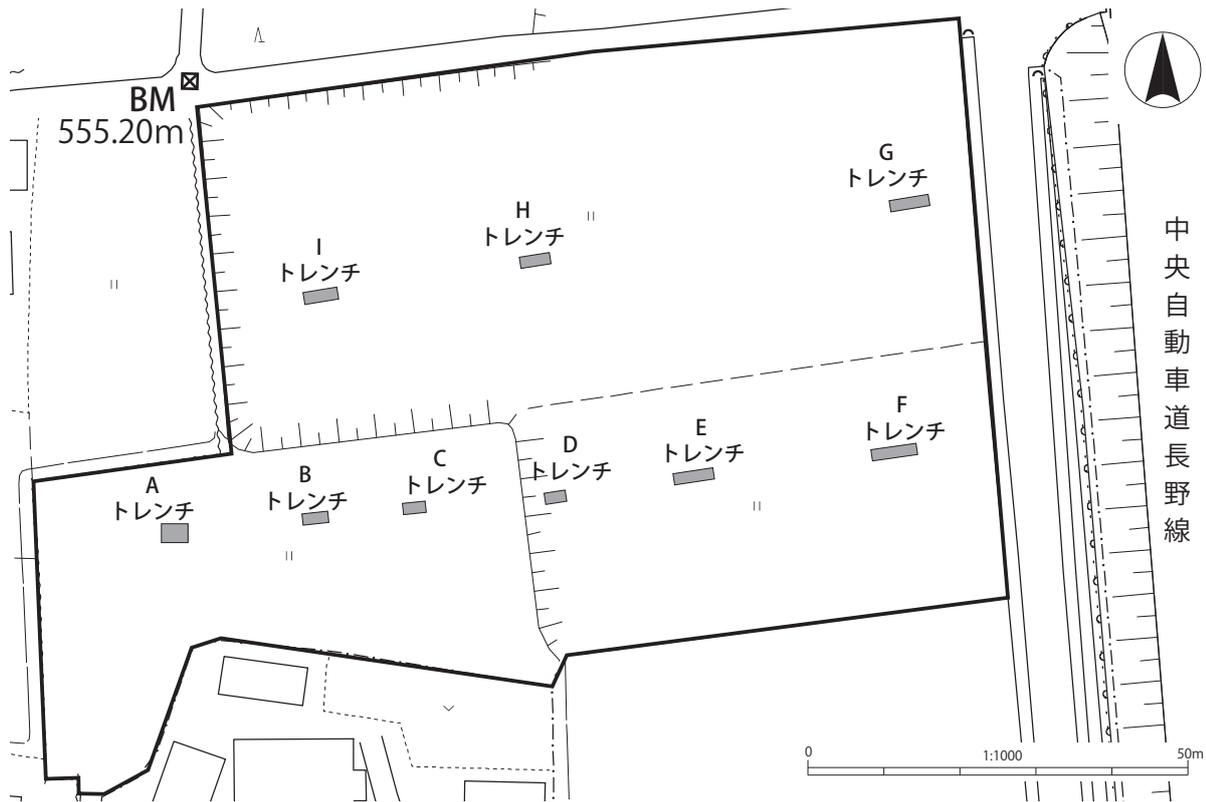
第59図 上手木戸遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市豊科高家 ^{たきべ} 2592番1 外2筆		
調査期間	平成30年（2018）2月8日		
調査面積	60㎡	調査契機	土砂採取
作業参加者	山下泰永、土屋和章、横山幸子、松田洋輔、田多井智恵		

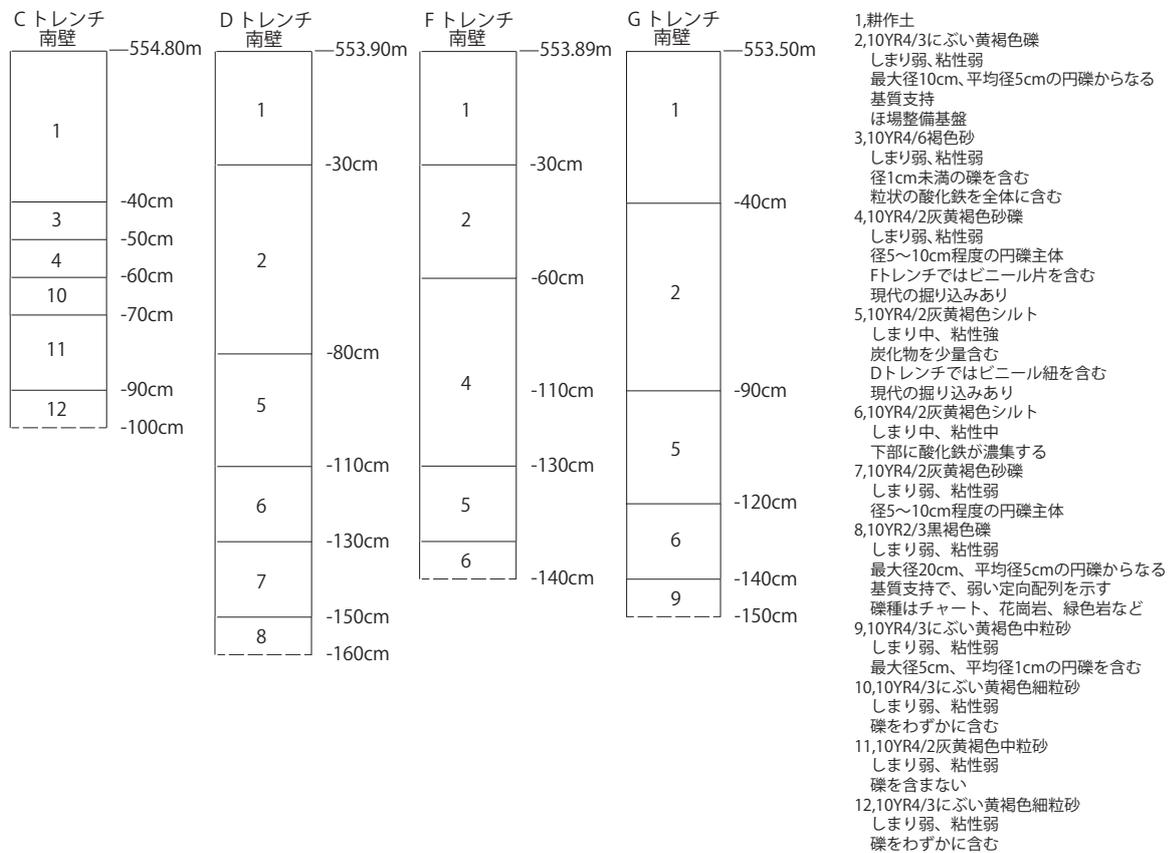
（1）概要

上手木戸遺跡は、犀川左岸の氾濫原微高地に所在する中世の集落跡である。この遺跡では中央自動車道長野線建設に先立ち長野県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施し、中世の集落跡を確認した（長野県埋文センター1989）。遺跡内は商業地及び住宅地、農地が介在しており、近年は、小規模な土木工事に際し、工事立会を複数回実施しているが、埋蔵文化財が確認された例はない。

砂利採取予定地のうち、9箇所でもトレンチ（A～I）を設定し試掘調査を実施した。この結果、調査地には耕土下に、最大で80cmの圃場整備時の搬入土が堆積していた。搬入土以下は砂礫、シルトの自然堆積層が良好に残存しているが、D、E、F、Gトレンチで地表下約80～110cmのシルト層にごくわずかな炭化物が混入しているのみで、遺物、遺構は確認できなかった。上記の結果から、今回の調査地には遺構が存在する可能性は低いため、本発掘調査は不要と判断した。

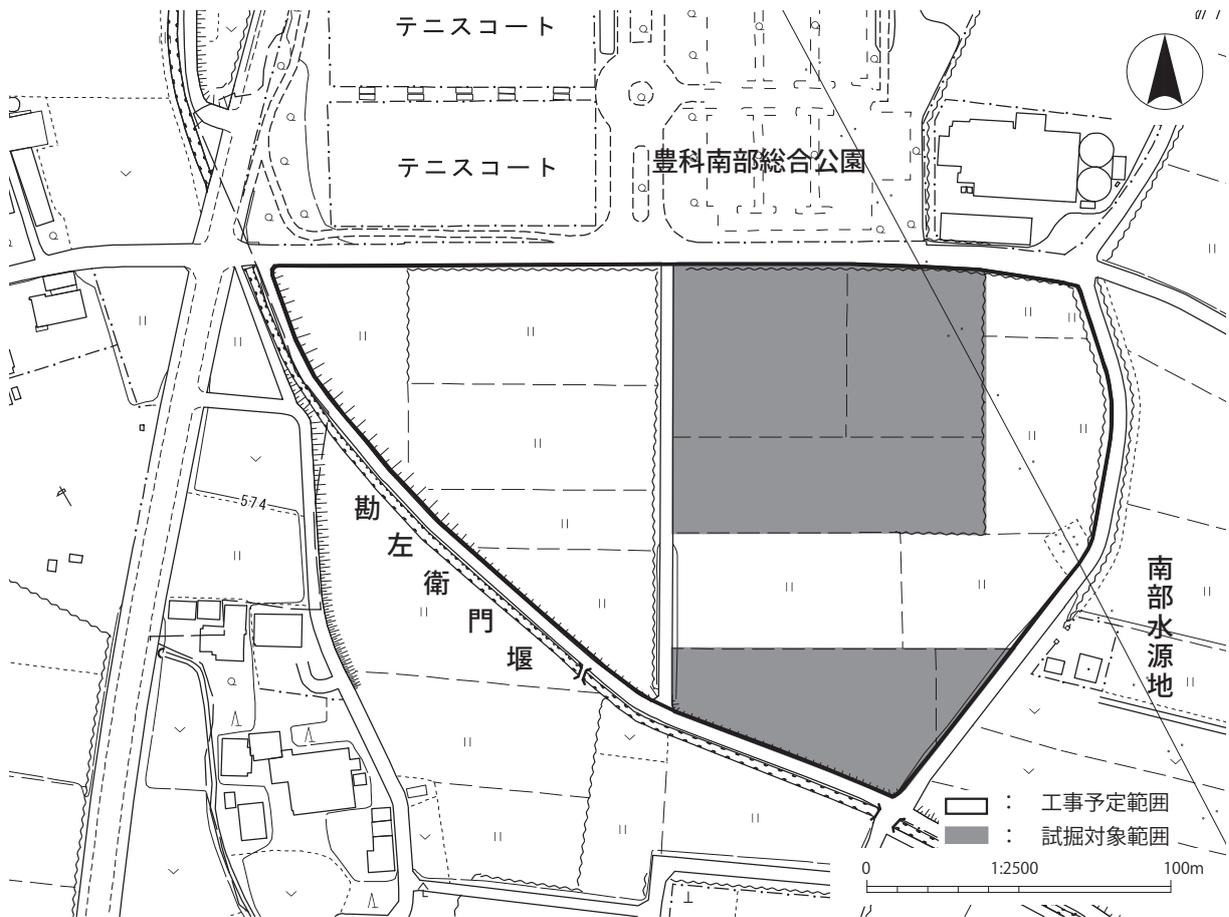


第60図 上手木戸遺跡トレンチ配置図



第61図 上手木戸遺跡土層概念図

13 新総合体育館建設予定地（遺跡外）（第1表■202）



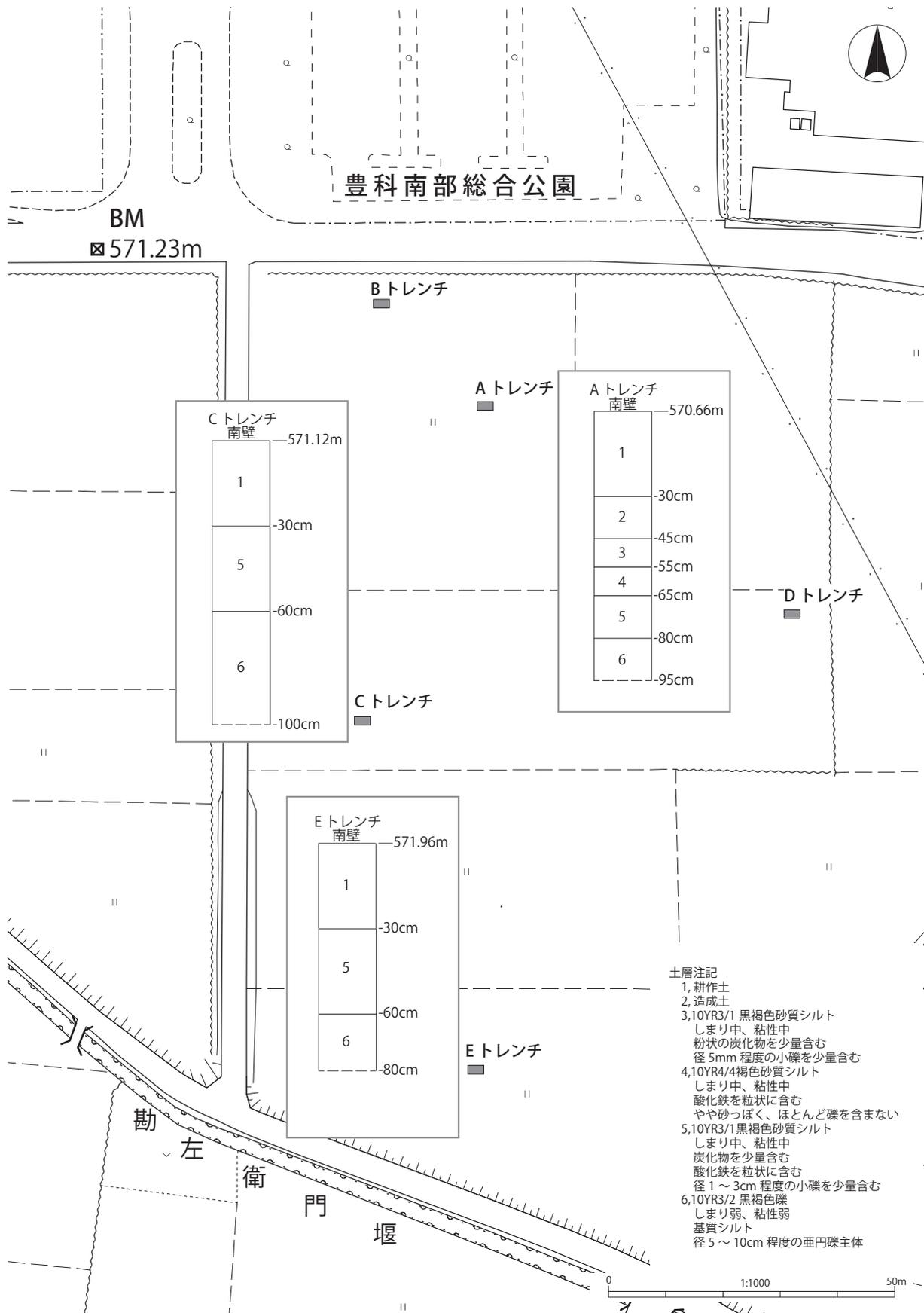
第62図 新総合体育館建設予定地及び試掘位置図

所在地	安曇野市豊科高家4507番1 外3筆		
調査期間	平成30年（2018）3月29日		
調査面積	19㎡	調査契機	その他の建物（新総合体育館建設）
作業参加者	山下泰永、土屋和章、横山幸子、松田洋輔、田多井智恵		

(1) 概要

新総合体育館の建設が計画されたため、埋蔵文化財包蔵地外であるが、遺構等の有無を確認するための試掘調査を実施した。建設予定地は、梓川によって形成された氾濫原^{あずさ}に所在する。調査では、5箇所^{あずさ}にトレンチ（A～E）を設定した。重機により掘削したところ、A、B、Dトレンチにおいて耕作土下に厚さ15～30cmの造成土を確認した。耕作土、造成土以下には厚さ35～40cmのシルトが、さらに下位の地表下約60～90cmには礫が自然堆積していた。シルト層には炭化物が少量含まれていたが、遺物、遺構等は確認できなかった。

上記の結果から、今回の調査地に埋蔵文化財が存在する可能性は低いと判断した。

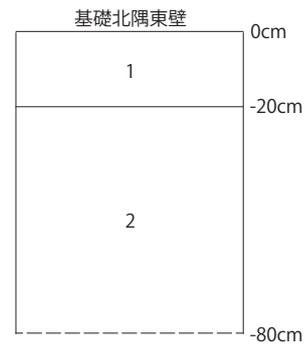


第63図 新総合体育館建設予定地トレンチ配置図・土層概念図

14 工事立会 ^{おっぼり} 追堀遺跡 (第1表●22)



第64図 追堀遺跡工事立会位置図



1, 造成土
2, 10YR3/4 暗褐色シルト
しまり中、粘性中
土師器片、粉末状の炭化物を含む
最下部に酸化鉄を含む
最大径 10cm、平均径 3cm の円礫を少量含む

第65図 追堀遺跡土層概念図

所在地	穂高柏原1646番1外1筆	調査期間	平成29年(2017)5月16日
対象面積	665㎡	調査契機	その他の建物(福祉施設)

(1) 概要

福祉施設建設に伴い、施工地が周知の埋蔵文化財包蔵地であることから、事業者の同意を得て工事立会を実施した。この場所では、造成工事に先立って、平成29年(2017)4月14日(金)に小規模な発掘調査を実施している(第2章1参照)。

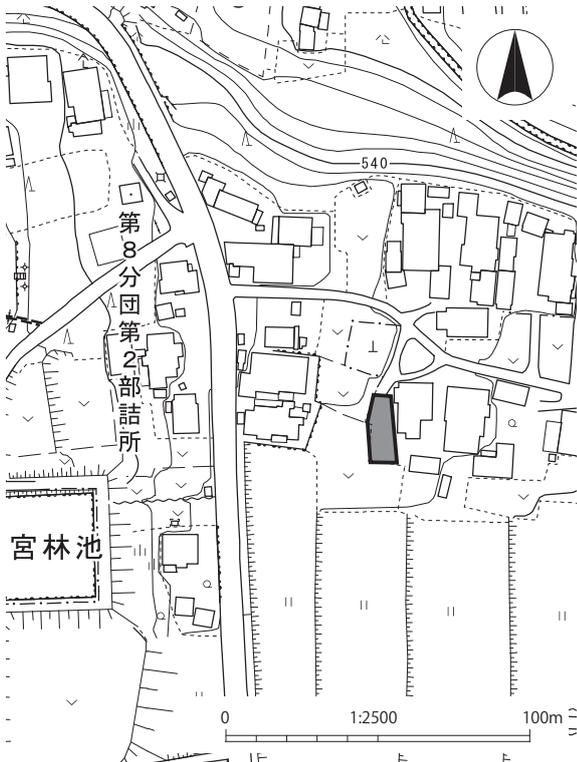
今回の工事では、建物基礎部分で深度約80~100cmの掘削に伴い土層観察を実施した。第2層に旧流路と考えられる砂礫が入る箇所が複数あるものの、基本的には、造成に先立って実施した調査で確認した土層と同様であった。この第2層は、少量の炭化物及び摩耗した土師器を包含する。

本件工事立会では、遺構は確認せず、遺物も摩耗した土師器をごく少量確認したのみであった。このため、施工地付近に埋蔵文化財が存在する可能性は高いものの、今回の掘削範囲では遺構等に影響を与えていないと判断できる。

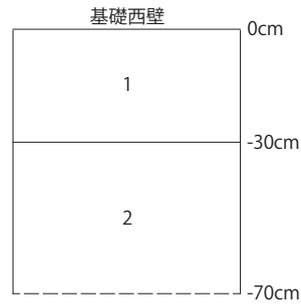
(2) 遺物

土師器1点を資料化した(第72図1)。甕の頸部~体部上半の破片で、頸部がやや厚くなる。外面は、頸部は横ナデで、体部はハケメ調整である。内面は、横方向のハケメが明瞭である。

15 工事立会 みやのまえ 宮ノ前遺跡 (第1表●27)



第66図 宮ノ前遺跡工事立会位置図



1, 表土、耕作土
2, 10YR2/2 黒褐色シルト
しまり中、粘性中
縄文土器片を包含する
小礫を少量包含する

第67図 宮ノ前遺跡土層概念図

所在地	明科七貴 ^{みなぎ} 8352番 1	調査期間	平成29年(2017)5月29日
対象面積	66㎡	調査契機	個人住宅

(1) 概要

個人住宅建設に伴い、工事立会を実施した。今回の工事では、基礎部分で深度最大70cmの掘削を行った。第2層の下部からは、縄文土器の破片が出土した。また、この層には土器以外にも焼土粒のような土粒が混入している。出土した土器は、施文等の特徴から縄文時代中期末～後期初頭と判断できる。

上記の結果から、本件施工地付近に縄文時代中～後期の遺構が存在する可能性が高く、周辺での今後の土木工事等には注意が必要である。

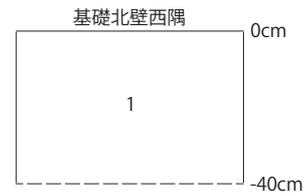
(2) 遺物

縄文土器1点を資料化した(第72図2)。縄文時代中期後葉に特徴的な釣手付深鉢の釣手部分にあたる。角柱状の破片であり、全体では厚さ約2.5cmを測る。上面は中心が溝になっており、溝部分は丁寧なナデが施されている。断面の観察では、溝の左右で厚みが非対称である。風化により一部不明瞭となっているが、溝の両側面には刺突文が施されており、表面は4列、裏面は2列となっている。下面はナデ調整である。

16 工事立会 ^{ひがしおぐら} 東小倉遺跡 (第1表●53)



第68図 東小倉遺跡工事立会位置図



1,10YR2/2 黒褐色シルト
しまり中、粘性中
縄文土器片少量を包含する
径1~5cmの垂円礫を少量包含する

第69図 東小倉遺跡土層概念図

所在地	三郷小倉6089番39	調査期間	平成29年(2017)7月6日
対象面積	100㎡	調査契機	個人住宅

(1) 概要

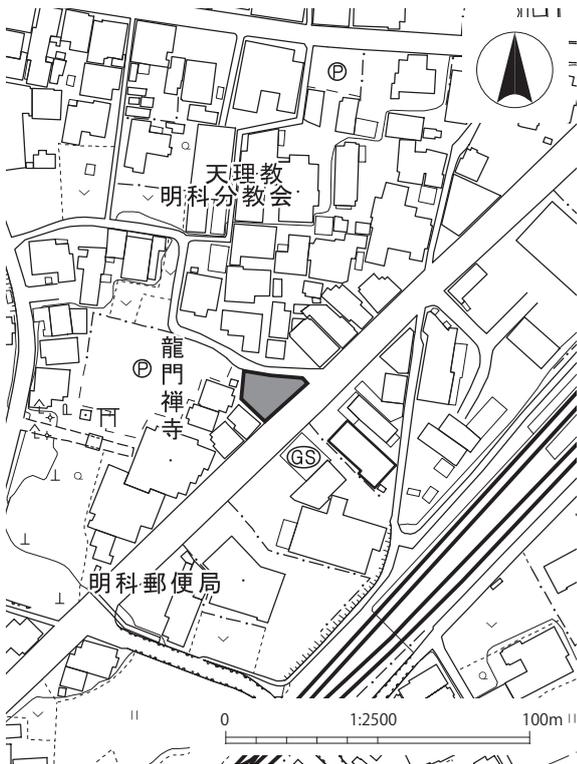
個人住宅建設に伴い、事業者の同意を得て工事立会を実施した。本件施工地は斜面を盛土造成しているため、南側は造成土主体であった。基礎掘削に際して、北側(道路側)で土層観察を実施したところ、深度40cmまでの掘削で黒褐色シルトのみを確認した。このシルト層には、微細な炭化物や縄文土器の小破片が包含されていた。明確な遺構は確認できなかった。

上記の結果から、本件工事は埋蔵文化財に新規の影響を与えていないと判断できる。ただし、基礎掘削北壁で縄文土器片等を包含するシルト層を確認したため、付近に遺構等が存在する可能性がある。

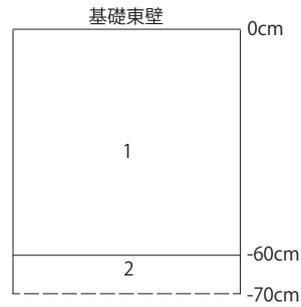
(2) 遺物

縄文土器片を1点資料化した(第72図3)。深鉢の口縁部破片である。口縁部端面は平らにナデ調整が施されており、外面にはナデ調整の上に幅0.4cmの沈線が1条横に走る。内側はナデ調整である。

17 工事立会 ^{あかしな}明科遺跡群 ^{あがたち}県町遺跡 (第1表●192)



第70図 明科遺跡群県町遺跡工事立会位置図



- 1, 宅地造成土
コンクリート片等と一緒に古代の丸瓦出土
- 2, 10YR3/2 黒褐色粘土
しまり強、粘性強
褐色土粒を若干含む

第71図 明科遺跡群県町遺跡土層概念図

所在地	明科中川手3509番11外3筆	調査期間	平成30年(2018)3月13日
対象面積	81㎡	調査契機	個人住宅

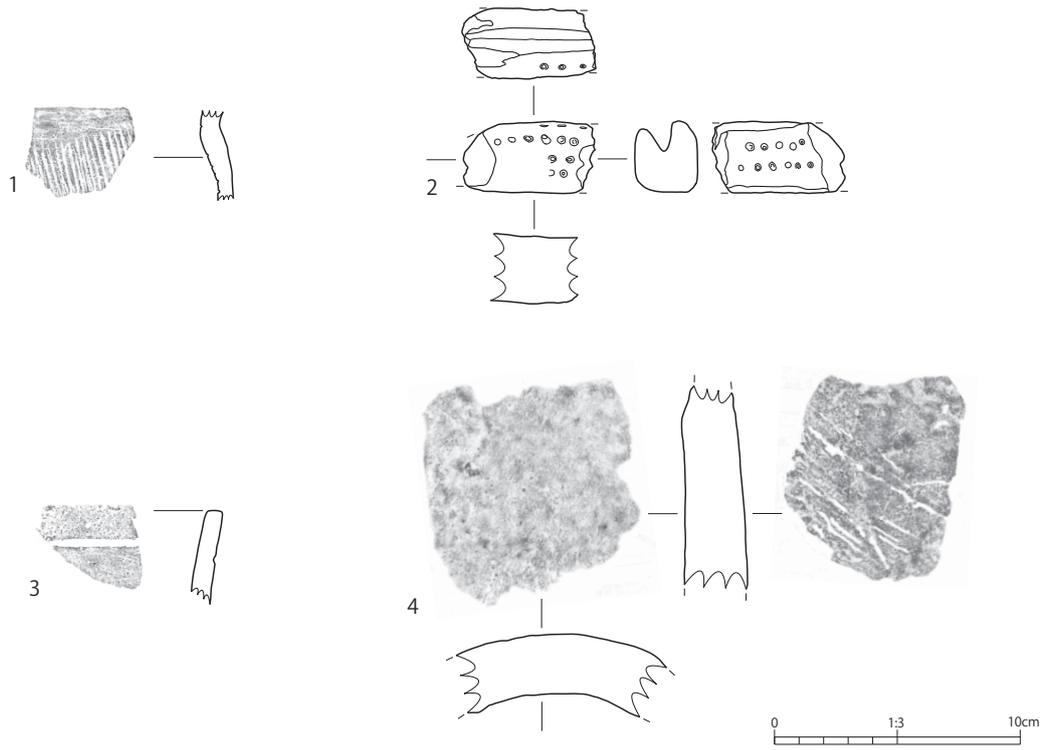
(1) 概要

個人住宅建替えに伴い、事業者の同意を得て工事立会を実施した。本件施工地は、明科遺跡群明科廃寺に南接する敷地であるため、古代寺院関連遺構が存在する可能性があることを念頭に工事立会を実施した。深度約60cmの基礎掘削に際して土層観察を実施したところ、掘削の大部分は既存住宅建設時の攪乱であるが、この攪乱の中から、コンクリート片等と共に古代の丸瓦が出土した。攪乱の下には、粘土層が残存していた。

上記の結果から、本件工事は埋蔵文化財に新規の影響を与えていないが、施工地で深度約60cm以深に存在する粘土層には、遺構等が良好に残存する可能性がある。

(2) 遺物

排土中から採集した古代の瓦1点を資料化した(第72図4)。最大厚2.5cmの丸瓦で、褐色を呈し焼成はやや悪い。摩耗により、凸面の調整は不明である。凹面には布目残り、布目に斜交する形で糸切り痕が残る。



第72図 工事立会出土遺物

1：追堀遺跡 2：宮ノ前遺跡 3：東小倉遺跡 4：明科遺跡群馬町遺跡

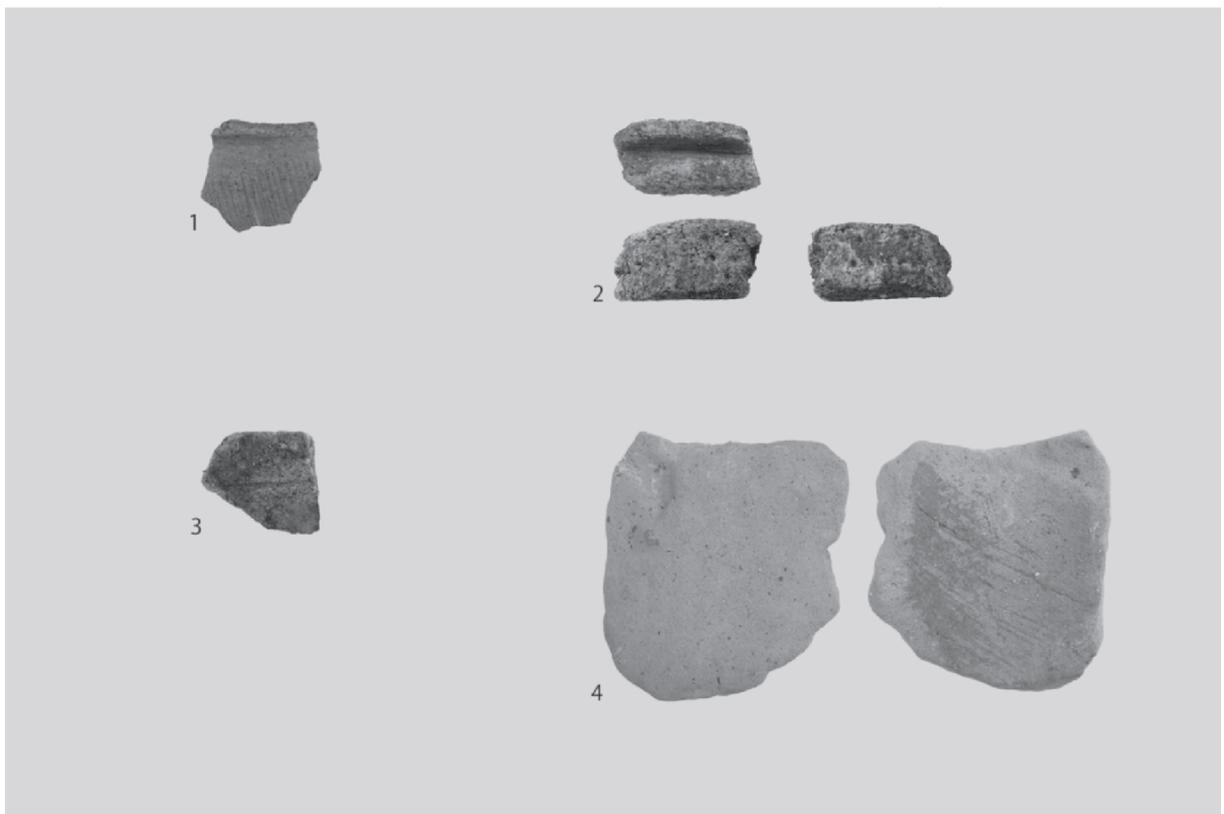


写真7 工事立会出土遺物

1：追堀遺跡 2：宮ノ前遺跡 3：東小倉遺跡 4：明科遺跡群馬町遺跡

引用・参考文献（五十音順）

- 明科町史編纂会 1984 『明科町史』上巻 明科町史刊行会
- 安曇野市教育委員会 2010 『平成20年度安曇野市埋蔵文化財発掘調査報告書—八ツ口遺跡・三枚橋遺跡—』安曇野市の埋蔵文化財第3集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2013 『平成23年度安曇野市埋蔵文化財発掘調査報告書—明科遺跡群古殿屋敷（第1次）・明科遺跡群栄町遺跡（第3次）—』安曇野市の埋蔵文化財第6集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2016a 『平成26年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書—明科遺跡群古殿屋敷第2次発掘調査—』安曇野市の埋蔵文化財第9集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2016b 『芝宮南遺跡—穂高南小学校プール改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』安曇野市の埋蔵文化財第10集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2017a 『明科遺跡群明科廃寺4—個人住宅建設に伴う第4次発掘調査報告書—』安曇野市の埋蔵文化財第12集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2017b 『新林遺跡3—立体駐車場建設に伴う第3次発掘調査報告書—』安曇野市の埋蔵文化財第13集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2018a 『穂高神社境内遺跡1—新穂高支所建設事業に伴う第1次発掘調査報告書—』安曇野市の埋蔵文化財第14集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2018b 『平成28年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書』安曇野市の埋蔵文化財第15集 安曇野市教育委員会
- 小平和夫 1990 「古代の土器」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4—松本市内 その1—総論編』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書4 長野県埋蔵文化財センター pp.97-158
- 豊科町教育委員会 1999 『町田遺跡—都市対策砂防事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—』豊科町教育委員会
- 長野県埋蔵文化財センター 1989 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書10—松本市内 その7・豊科町内—南中遺跡 北中遺跡 北方遺跡 上手木戸遺跡』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書10 長野県埋蔵文化財センター
- 穂高町誌編纂委員会 1991 『穂高町誌』第二巻（歴史編上・民俗編）穂高町誌刊行会
- 穂高町教育委員会 1970 『穂高町の古墳—穂高町古墳調査報告書—』穂高町教育委員会
- 穂高町教育委員会 1987 『矢原遺跡群（馬場街道遺跡）—県道柏矢町～田沢停線拡幅工事に伴う緊急発掘調査報告—』長野県豊科建設事務所・穂高町教育委員会
- 穂高町教育委員会 2001 『穂高町 一本松・神の木・宗徳寺・南原遺跡 穂高沢水系による開発沢、上原古墳—担い手育成基盤整備事業穂高西部地区に伴う発掘調査報告書—』穂高町教育委員会
- 穂高町郷土資料館 1987 『穂高町郷土資料館』第9号 穂高町郷土資料館
- 三郷村誌編纂会 1980 『三郷村誌Ⅰ』三郷村誌編纂会
- 三郷村教育委員会 1999 『三郷村埋蔵文化財（資料集）』三郷村の埋蔵文化財第4集 三郷村教育委員会

調査報告書抄録

ふりがな	へいせい29ねんどあづみのしまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ							
書名	平成29年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	安曇野市の埋蔵文化財							
シリーズ番号	第17集							
編著者名	横山幸子、山下泰永							
編集機関	安曇野市教育委員会							
所在地	〒399-8281 長野県安曇野市豊科6000番地 TEL0263-71-2000							
発行年月日	西暦2019年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
あづみのし 安曇野市内 しょうがいせき 所在遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市	20220	—	—	—	20170401 ～ 20180331	—	—
おぼりいせき 追堀遺跡 (第1次)	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 ほたかかしわばら 穂高柏原1646番1	20220	2-45	36°19'44"	137°53'14"	20170414 ～ 20170414	25㎡	宅地造成
こせはばいせき 小瀬幅遺跡 (第1次)	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 とよしなたざわ 豊科田沢4863番2	20220	1-20	36°18'22"	137°56'21"	20170728 ～ 20170731	13㎡	個人住宅
かいどいせき 海渡遺跡 (第1次)	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 あかしなながわて 明科中川手5819番1	20220	5-424	36°20'41"	137°56'43"	20170911 ～ 20170911	7㎡	個人住宅
しんばやし 新林遺跡 (第4次)	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 ほたかまき 穂高牧1884番1	20220	2-25	36°19'42"	137°50'14"	20171124 ～ 20171124	65㎡	駐車場 整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
追堀遺跡	集落跡	平安	なし	須恵器、土師器		明確な遺構は確認できず。		
小瀬幅遺跡	散布地	弥生、平安	ピット2	弥生土器、石鏃、須恵器、土師器		地表に遺物が散布。		
海渡遺跡	城館跡	中世	なし	なし		崩落堆積物のみ確認。		
新林遺跡	集落跡	縄文	なし	なし		遺構、遺物の確認なし。		
川岸最氏宅地 遺跡	散布地	弥生	なし	なし		遺構、遺物の確認なし。		
芝宮南遺跡	集落跡	弥生、平安	なし	なし		遺構、遺物の確認なし。		
南松原遺跡	集落跡	縄文	なし	縄文土器小破片		付近に遺構が存在する可能性がある。		
中在地遺跡	集落跡	縄文、古墳、奈良、平安	なし	なし		遺構、遺物の確認なし。		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
穂高古墳群 B24号墳	古墳	古墳	石室	須恵器、土師器	石室の位置・規模を確認。
明科遺跡群 明科廃寺	社寺跡	古墳、奈良、平安	ピット 遺物包含層	古代瓦、瓦塔	発掘調査が必要。
一本松遺跡	散布地	縄文	なし	なし	遺構、遺物の確認なし。
矢原五輪畑遺跡	集落跡	古墳、奈良、平安	竪穴建物跡 1	弥生土器、須恵器、土師器	地表下90cm で遺構が良好に残存。
小瀬幅遺跡	散布地	弥生、平安	ピット	弥生土器	付近に遺構が存在する可能性がある。
三枚橋遺跡	集落跡	弥生、古墳、奈良、平安、中世	竪穴建物跡 1	須恵器、土師器	発掘調査が必要。
北才の神遺跡	集落跡	古墳、平安	なし	土器微小破片	遺物は微量で、遺構の確認なし。
上手木戸遺跡	集落跡	中世	なし	なし	遺構、遺物の確認なし。
新総合体育館 建設予定地	遺跡外	—	なし	なし	遺構、遺物の確認なし。
追堀遺跡	集落跡	平安	なし	土師器	付近に遺構が存在する可能性がある。
宮ノ前遺跡	集落跡	縄文、古墳、奈良、平安	なし	縄文土器	付近に遺構が存在する可能性がある。
東小倉遺跡	集落跡	縄文	なし	縄文土器	付近に遺構が存在する可能性がある。
明科遺跡群 県町遺跡	集落跡	古墳、奈良、平安	なし	古代瓦	地下60cm 以深に遺構等が残存か。
要 約	<p>平成29年度に長野県安曇野市内で実施した埋蔵文化財保護措置を掲載した。発掘調査等の総数は202件で、201件を安曇野市教育委員会が主体となって実施した。このうち小規模発掘調査、試掘調査及び遺物、遺構を確認した工事立会の成果を記載した。</p> <p>追堀遺跡は、烏川扇状地上に立地し、平安時代の遺跡と考えられてきた。宅地造成に際し、浸透枿1基の設置箇所及びトレンチにて第1次発掘調査を実施した。遺構は確認できず、須恵器、土師器の破片が出土したのみである。</p> <p>小瀬幅遺跡は、犀川右岸段丘上に位置し、弥生時代及び平安時代の遺跡とされてきた。個人住宅建設に先立ち、第1次発掘調査を実施した。また、弥生土器、石鏃、須恵器、土師器を表面採集した。</p> <p>海渡遺跡は、会田川の左岸段丘上に位置する中世の城館跡とされている。個人住宅建設に先立ち、浄化槽設置予定箇所第1次発掘調査を実施したが、遺構、遺物は確認できなかった。</p> <p>新林遺跡は、飛騨山地東麓、川窪沢川右岸に所在する縄文時代の集落跡である。駐車場造成の際に、雨水浸透層で第4次発掘調査を行ったが、遺構、遺物は確認できなかった。</p>				

安曇野市の埋蔵文化財第17集

平成29年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書

発行 平成31年（2019）3月29日
安曇野市教育委員会
〒399-8281 長野県安曇野市豊科6000番地
電話0263-71-2000

編集 安曇野市教育委員会
印刷 電算印刷株式会社

